

①空からみた八丈島 (2024 Google map)



②空からみた八丈島空港





のぼりとうげ
③ 登龍峠より



⑤ ヘリ・コミューター



くうこう
④ 八丈島空港



ていき せんたちばなまる
⑦ 定期船 橘丸



そごど かいすいよくじょう
⑥ 底土海水浴場 (三根)



⑨ アロエ園 (大賀郷・永郷)
おお か ごう えいごう



⑩ 富士牧野と展望台
ふ じ ほ く や てんぼうだい



⑪ 八丈植物公園 (大賀郷)



⑫ メットウ井戸 (大賀郷・千鳥)
ちどり



⑬ 横間から見た小島 (大賀郷)



↑ ⑭ 玉石垣 (大賀郷・大里)
たまいしがき おおかごう おおざと



↑ ⑬ 近藤富蔵の墓と碑 (三根・新墓)
こんどうとみぞう はか ひ みつね しんぼか



↑ ⑯ 青ヶ島墓地 (大賀郷・馬路) (噴火で避難した時の物)
がほち うまじ ふんか ひなん



↑ ⑮ 八丈島歴史民俗資料館 (大賀郷)
はちじょうじまれきし みんぞくしりょうかん



↑ ⑱ 神湊漁港 (三根)
ぎょうこう



↑ ⑰ 底土接岸港 (神湊港) (三根)
そとせつがんこう かみなとこう



⑲ 多目的ホール おじゃれ (大賀郷)



⑲ 八丈町役場 (大賀郷)
やくば おおかごう



⑳ 汚泥再生処理センター (大賀郷・永郷)
おでいざいせいしより えいごう



㉑ 町立八丈病院 (三根・中道)
ちやうりつ びやういん みつね



㉒ 保健福祉センター・社会福祉協議会 (三根・中道)
ほけんふくし



㉓ クリーンセンター (大賀郷・西見)



㉔ 八重根漁港 (大賀郷)
やえね



㉕ 八重根接岸港 (大賀郷)
やえねせつかんこう



↑ ②⑧ のうりんごうどうちやうしや 農林合同庁舎 (大賀郷・西見)



↑ ②⑦ しちやう おおかごう 八丈支庁 (大賀郷)



↑ ③⑩ けいさつしよ 警察署 (三根)



↑ ②⑨ ととう のうりんすいざんそうごう みつね かみと 都島しよ農林水産総合センター (三根・神湊)



↑ ③② かん いざいばんしよ 八丈島簡易裁判所 (大賀郷)



↑ ③① ほけんしよ 保健所 (三根・中道)



↑ ③④ 老人ホーム (大賀郷)



↑ ③③ NTT 八丈島ビル (三根)



①③⑥ プラザ公園 (大賀郷)



①③⑤ 検察庁 (大賀郷)



①③⑧ 和泉親水公園 (三根)



①③⑦ フリージア畑 (大賀郷・八形山)



①④⑩ ふじグランド (三根)



①③⑨ コミュニティセンター (三根)



①④② 南原スポーツ公園サッカー場 (大賀郷)



①④① 南原スポーツ公園野球場 (大賀郷)



①④④ ちよんこめ作業所 (三根)



①④③ 給食センター (大賀郷)



④⑥ 八丈ビジターセンター (大賀郷)



④⑤ 東京電力火力発電所 (大賀郷)



おつちがはまかしたて
④⑦ 乙千代ヶ浜 (檜立)



くらわ
④⑨ 倉輪遺跡 (檜立)



ゆぼまいせき
④⑧ 湯浜遺跡 (檜立)



あいがえぎょこう なかのごう
 ⑤⑩ 藍ヶ江漁港 (中之郷)



はっとりやしき
 ⑤② 服部屋敷の入り口 (榎立)



かしたてむかいざとおんせん ゆ
 ⑤① 榎立向里温泉「ふれあいの湯」



⑤④ えこ・あぐりまーと (内部)



ちねつおんしつ のうざんぶつ ちよくばいじよ
 ⑤③ 中之郷地熱温室・農産物共同直売所
 (えこ・あぐりまーと) (外観)



⑥⑥中之郷温泉「やすらぎの湯」



⑥⑤黄八丈の糸干し^ほ



⑥⑧足湯きらめき（中之郷）



⑥⑦裏見ヶ滝温泉（中之郷）^{うらみがたき}

⑥⑩^ひロベ感謝の碑とロベ雌雄原林
（高い2本の株）^{かぶ}
（中之郷）



⑥⑨^{なご}名古の展望（^{てんぼう}洞輪沢漁港）（^{ほらわがわぎょう}末吉）^{すえよし}



⑥2 末吉温泉「みはらしの湯」



⑥1 平川親義顕彰碑 (末吉・元末吉小学校跡)
ちかよしけんしゅうひ すえよし



⑥4 洞輪沢温泉 (末吉)
ほらわざわ



⑥3 八丈島一般廃棄物管理型最終処分場 (末吉)
さいしゅうしよふんじょう



⑥6 八丈島燈台 (末吉)
とうだい



⑥5 長戸路屋敷 (末吉)
ながとろ やしき

この本に出てくるおもな植物



①⑥⑨ ハチジョウグワ



①⑥⑧ タブノキ



①⑥⑦ ヤブツバキ



①⑦⑩ リュウビンタイ (きぎんの時、根元の部分を食べた)



①⑦② シイノキ



①⑦① オオバヤシャブシ (へいのき)



① 74 ゲットウ



① 73 アロエ



① 76 レザーファン



① 75 カボック (ホンコン)



① 78 モンステラ



① 77 ルスカス



①⑧① ブーゲンビリア



①⑦⑨ アシタバ



①⑧② サンダーソニア



①⑧① ドラセナ



①⑧④ パッションフルーツ



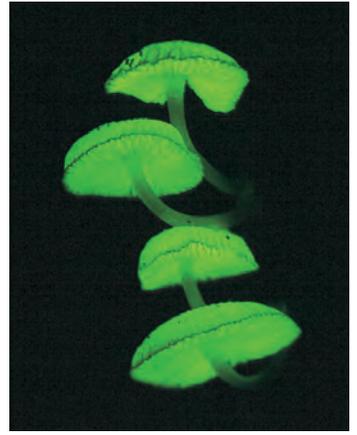
①⑧③ 八丈フルーツレモン



⑧7 ハイビスカス



⑧8 シイノトモシビタケ



⑧9 ヤコウタケ



⑧9 ケンチャヤシ



⑧8 ソテツ



⑨1 ビロウヤシ



⑨0 ヘゴシダ

八丈島の動物

どうぶつ

⑨② 鳥類

(長さは口ばし先から尾の端まで)



ウミネコ
(46cm)



カラスバト (40cm)
(天然記念物)



ヒヨドリ
(27cm)



アカコッコ
(天然記念物) (23cm)



イソヒヨドリ (23cm)



イイジママシクイ
(天然記念物) (11cm)

⑨④ 昆虫類



ハチジョウ
ノコギリクワガタ
(5.5cm)



ハチジョウ
カラスアゲハ



ハチジョウ
ルリボシカミキリ

⑨③ 貝類

(長さは最長部)



フクトコブシ
(あぶぎ) (8cm)



ギンタカハマ
(めつとう)
(8cm)



ハチジョウ
ダカラ (6cm)

⑨⑤ 魚類



カツオ 80cm



ハマダイ 100cm



キンメダイ
40cm



クサヤモロ
30cm



カマスサワラ 200cm



クロメジナ
40cm



アオダイ
50cm



シイラ 180cm



シマアジ 100cm



アカハタ
30cm

この本を使つみなさんへ

みなさんの住む八丈町は、青いきれいな海と一年中緑がしげり、黒潮くろしおの恵みめぐみを受け自然豊ゆたかな島です。また、古くから受け継ついできた歴史れきしと文化の島です。

この島をふるさととするみなさんが、八丈町のことをもつと知り、八丈町に誇ほこりをもてるようにと願ねがい、この「わたしたちの八丈島」を作りました。

この本には、八丈島のようにすや人々の仕事とくらし、住みやすい八丈町にするための仕事や、八丈島の移うつり変かわりなどについて書いてあります。

みなさんの家や学校のまわりのようすを調しらべ、各地域ちいきのようすや、八丈島全体のことについて調しらべて、自分たちの住ん

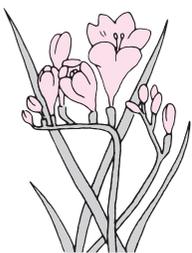
でいる地域と、にているところを比べてみましょう。

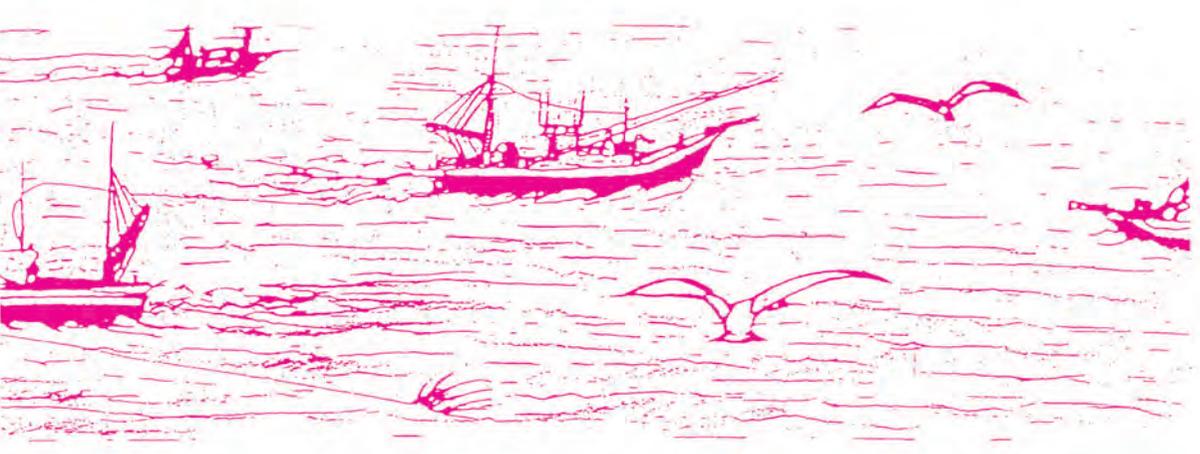
八丈町の人々が、健康で安全にくらすことができるように、さまざまな努力どりよくや働きがおこなわれていることについて学まなびましょう。

また、八丈島は古い歴史と文化のある島です。島にやってきたいろいろな人のこと、飢饉ききんや災害さいがいの記録きろくも残のこされています。昔の八丈島のようにすや生活や文化について調べてみましょう。

そして、私たちのふるさと八丈島を愛まもし、豊かな自然と文化を大切まもりに守まもり育てそだてる人になってください。

※本文文末の丸囲み数字はグラビア番号を表しています。

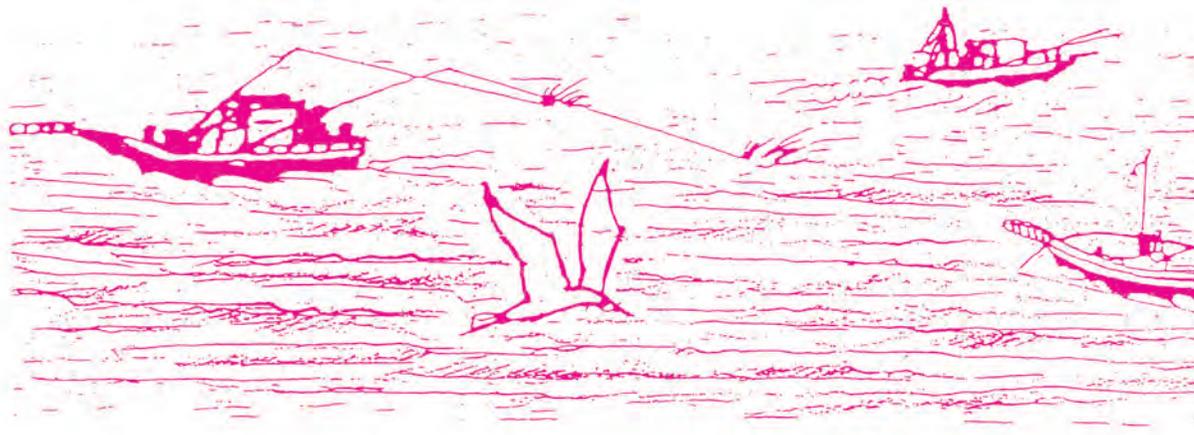




もくじ

	一	学校のまわり (絵地図)	4
	二	八丈島のようす	11
(一)		島の位置や形	12
(二)		三原山 (東山) と八丈富士 (西山)	15
(三)		自然のめぐみときびしさ	20
(四)		島の生きもの	24
	三	島の人々の仕事 三年社会	26
(一)		島の働く人々	27
(二)		島の農業	28
(三)		島の漁業	33
(四)		観光の仕事	40
(五)		店の仕事	43
(六)		建設の仕事	47
(七)		古くから島に伝わる仕事	48
	四	住みよい八丈島に 三年社会・四年社会	50
(一)		くらしと水	51
(二)		くらしとごみ	54
(三)		くらしを守る (消防・警察・電気)	56
(四)		くらしをささえる	59
(五)		これからの島のくらし	65





五 島の人々のくらしと交通 四年社会 …………… 68

- (一) 島内の交通 …………… 69
- (二) 島と本土との交通 …………… 75
- 六 八丈島の移り変わり 六年社会 …………… 83

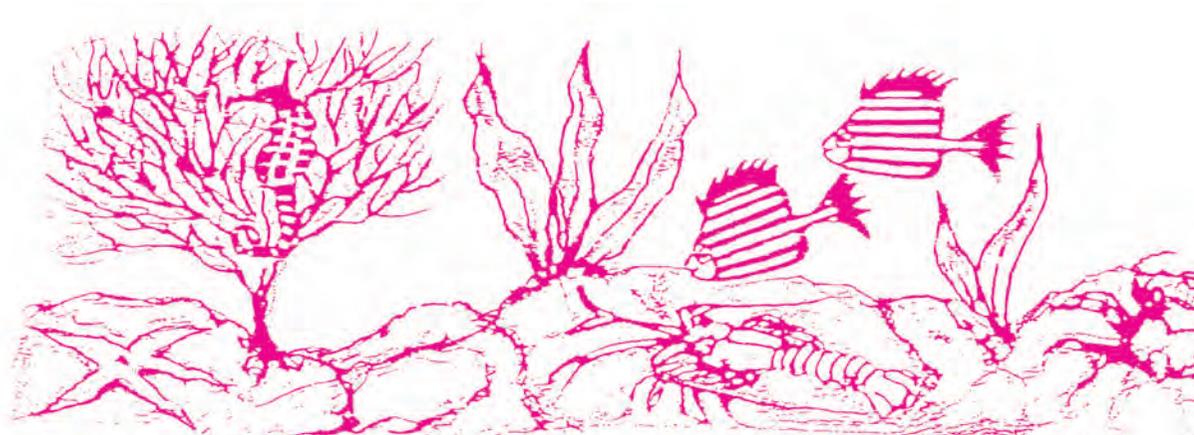
- (一) 大昔の八丈島 …………… 85
- (二) 室町時代の八丈島 …………… 88
- (三) 江戸時代の八丈島 …………… 90
- (四) 戦争前までの八丈島 …………… 97
- (五) 戦争中の八丈島 …………… 99
- (六) 戦争後の八丈島 …………… 103
- (七) 八丈町の誕生 …………… 104
- (八) 昔から伝わるもの …………… 106

七 歴史的な人物 六年社会・道徳 …………… 109

- (一) 宇喜多 秀家 …………… 110
- (二) 近藤 富蔵 …………… 112
- (三) 丹宗 庄右衛門 …………… 114
- (四) 玉置 半右衛門 …………… 116
- (五) 八丈の満蒙開拓団と石井団長 …………… 118

あとがき ふるさとを知る 大澤 道明 八丈町教育長 …………… 120

地図・年表 (おりこみ)



一 学校のまわり

みなさんの学校の高いところから何が見えるでしょうか。

三根小学校から東の方角を見ました。海に向かって道路がのびています。両側には家がたくさん見えます。

大賀郷小学校から東の方角を見ま

した。大賀

郷の家々の屋根やお店が見え、後ろに三原山が見えます。

三原小学

校から東の



三根小学校より



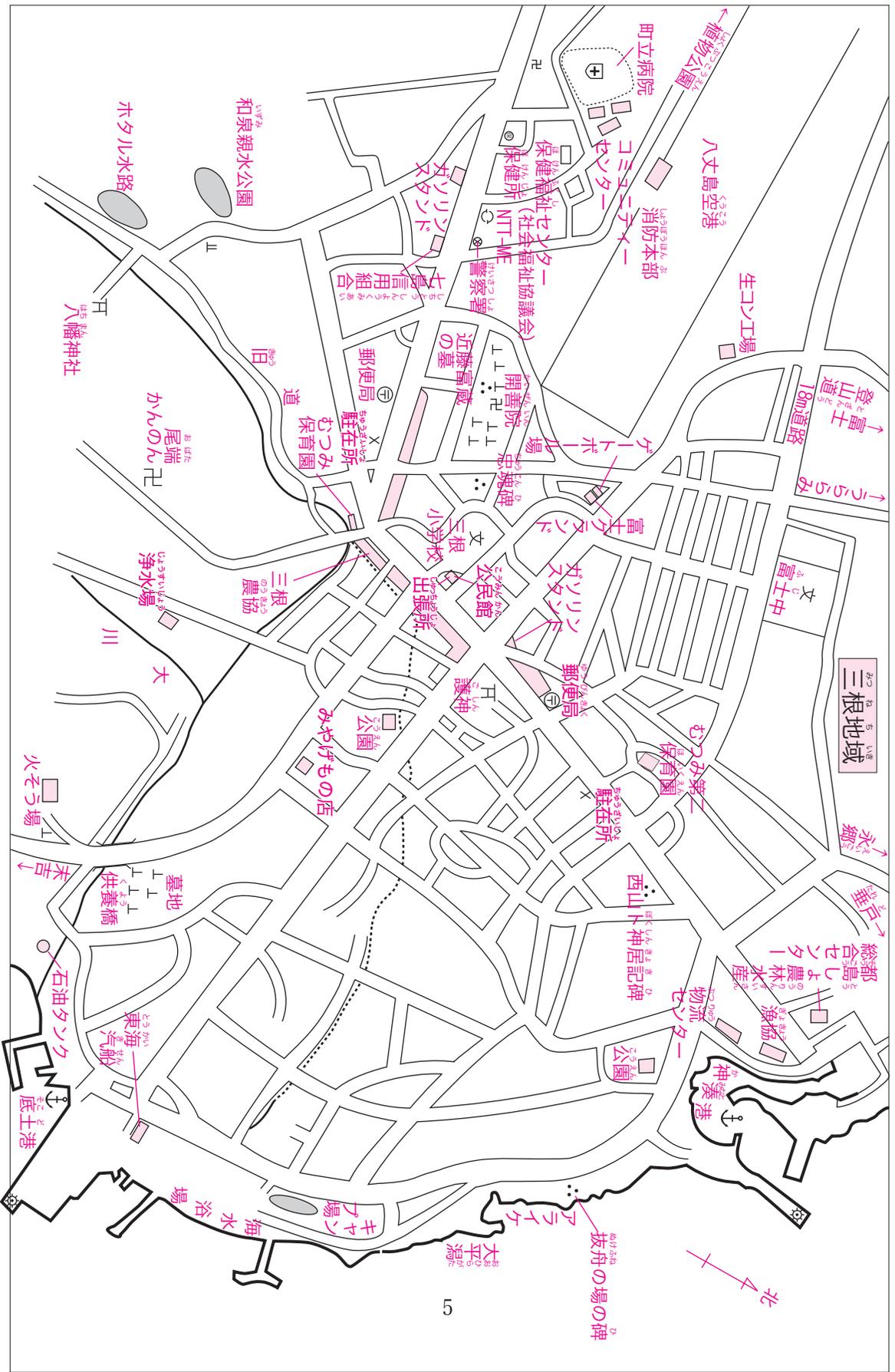
大賀郷小学校より



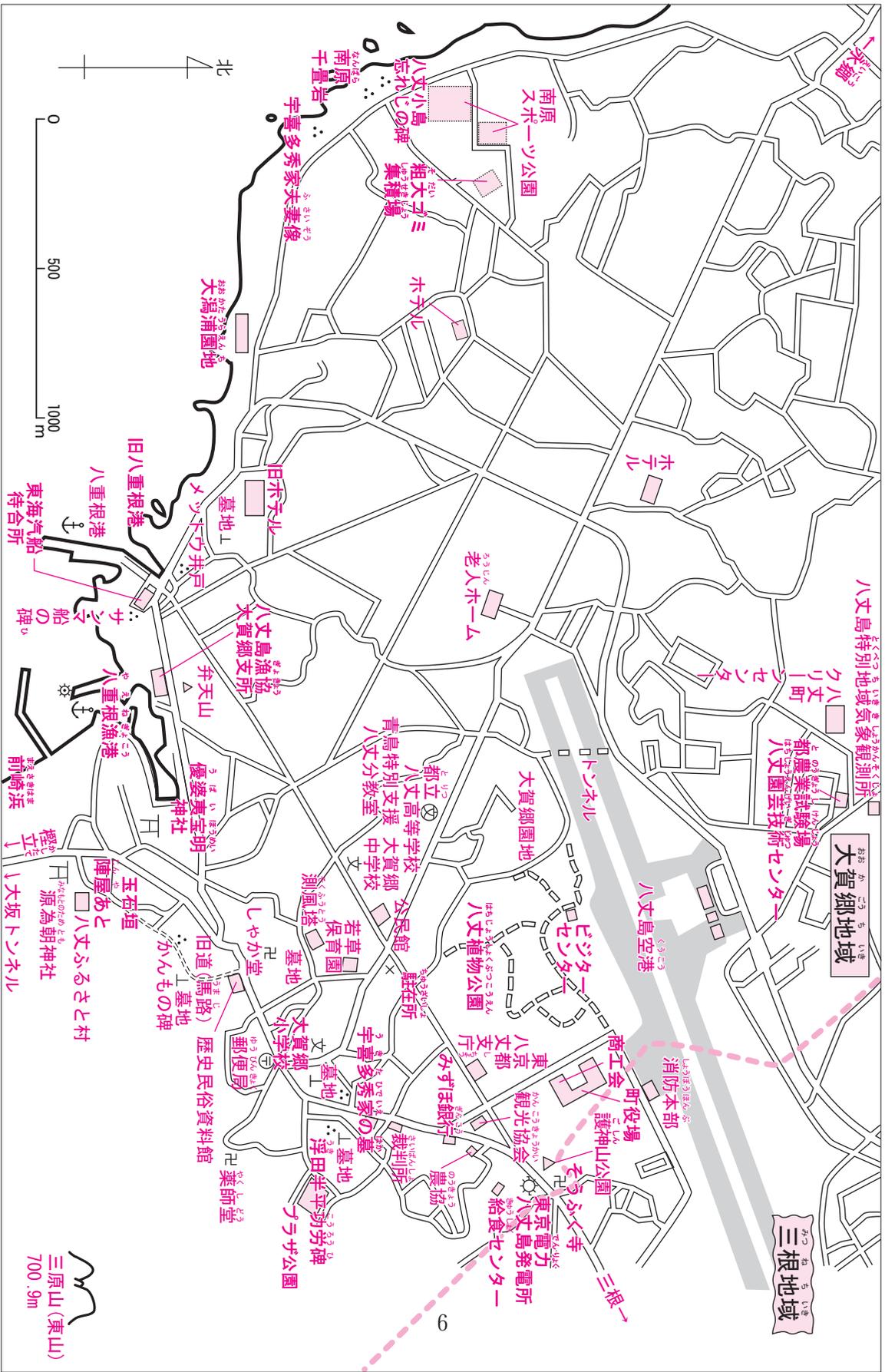
三原小学校より

方角を見ました。中之郷の家の屋根が見えます。南には遠く青ヶ島も見えます。

みなさんの学校のまわりにはどんなものがありますか。方角や位置を調べて絵地図をかきましょう。自分の家や友だちの家はどこにあるでしょうか。確かめてみましょう。



三根地域



八丈島特別地域気象観測所
八丈町
クリスタ
八丈園芸技術センター
八丈園芸試験場
都農センター

大賀郷地域

三根地域

八丈島空港

トンネル

大賀郷園地

ピクニックセンター
八丈植物公園

東京支店
八丈支店

みずほ銀行
八丈支店

東京電力
八丈発電所

給食センター

農協

歴史民俗資料館

郵便局

大坂トンネル

源為朝神社

八丈根漁港

八重根港

東海汽船
待合所

大滝浦園地

宇喜多秀家夫妻像

千畳岩

南原

八丈小島
忘れじの碑

祖大次郎
築構場

ホテル

老人ホーム

旧ホテル

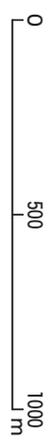
八丈島漁協
大賀郷支所

弁天山

八丈ふるさと村

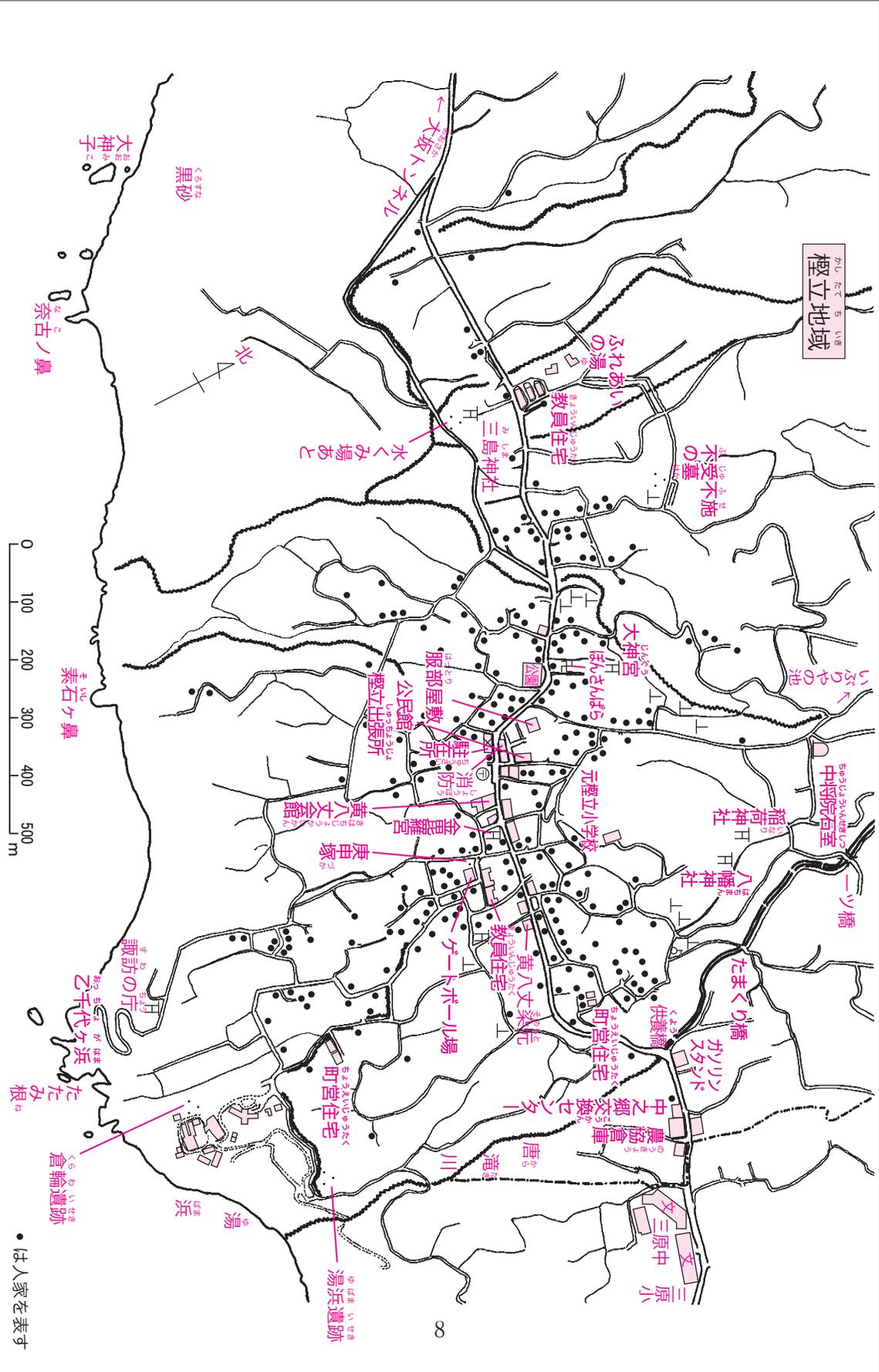
陣屋あと

三原山(東山)



三原山(東山)
700.9m

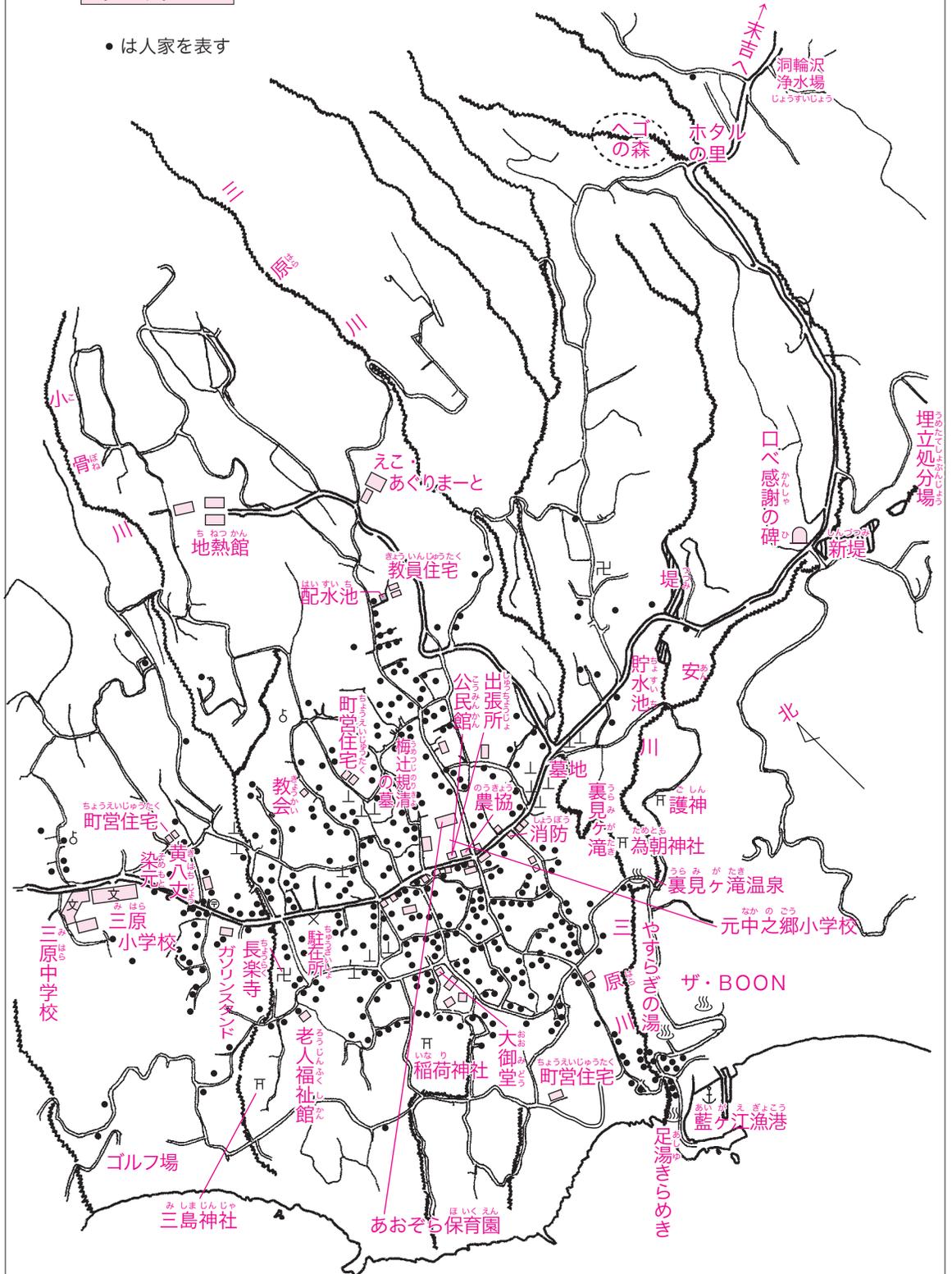
櫻立地域



●は人家を表す

なかのこうちいま
中之郷地域

● は人家を表す



二 八丈島のようす



三原山から見た坂下と八丈富士

上の写真は、三原山（東山）の頂上から見た坂下のようすです。

空港が見えます。また、道路や建物も見えます。

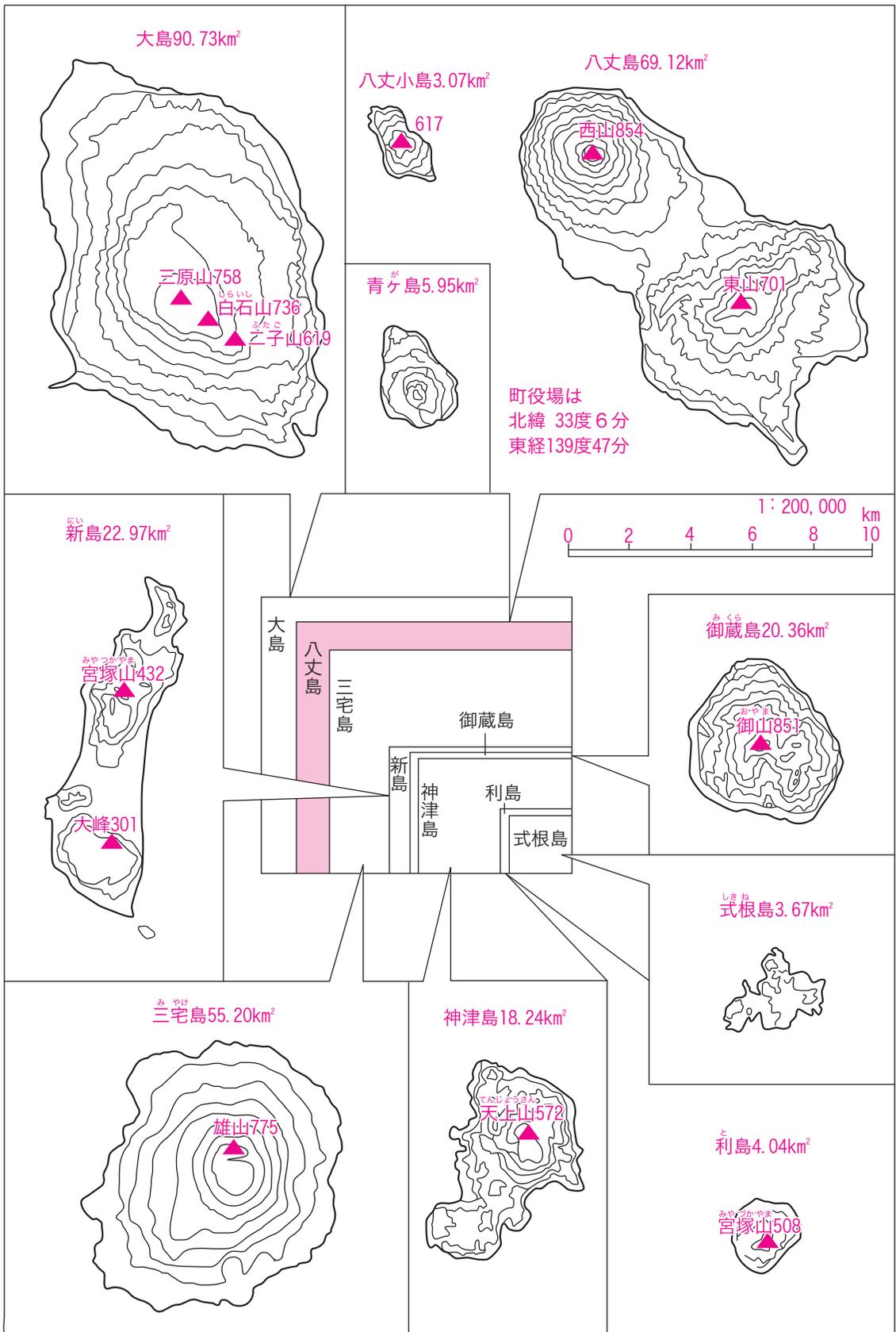
六八五〇人ぐらいの人々が住んでいる、この八丈島のようすを、これから学習していきます。

わたしたちの八丈島は、日本のどのあたりにあるのでしょうか。

また、どのようにしてできた島なのでしょうかが。

土地のようす、気候、島の生きものなどはどうなのでしょうかが。

このようなことをくわしく調べ、人々のくらしとどんな関りがあるのが、学習していきましよう。



国土交通省国土地理院調べ 2024年7月1日現在

ひょうたん形の島

地図をみてわ

かるように、八丈島を上から見た形は、三原山（東山）と八丈富士（西山）がつながっていて、ひょうたんの形をしています。①

三原山と八丈富士のあいだの土地は、広く、平らで、多くの人たちが住んでいます。島のまわりには、けが多く海に落ち込んでいるところもあります。また、三原山の北側はけわしく、南側はゆるやかな傾斜地になっていきます。この台地にも多くの人たちが住んでいます。

青ケ島

八丈島の六十七



青ケ島



連絡船（くろしお丸）



青ケ島との連絡船（あおがしま丸）（代船）

キロメートル南には、青ケ島があります。青ケ島は二重式火山の地形で、百六〇人ほどの人がくらししています。平成五年から八丈島との間をヘリコプターが飛ぶようになり、人の行き来は便利になりました。しかし、生活に使われる物などは船で運ばれ、欠航も多いので大変です。⑤⑬⑯

(二) 三原山(東山)と八丈富士(西山)

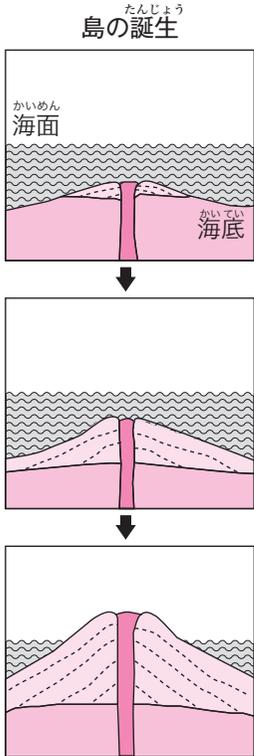
火山でできた島

大島や三宅島が

噴火したように、日本は火山が多く、
 海の底でも噴火が起きていることが
 わかっています。

このように、海底の火山がなんど
 も噴火をくりかえし、長い長い時間
 をかけて、海の上に出て来たのが、
 伊豆諸島の島々で、八丈島もその一
 つです。

八丈島のできかたは、産業技術総
 合研究所地質調査総合センターの資



料によれば、次のよう
 になっていきます。

① 今まで海だったところ
 に、海底での火山活
 動で島ができ始めまし
 た (図①)。

② その後も噴火が続き、
 今よりも少し大きい三
 原山のもとができまし
 た (図②)。

③ 一・二万年ぐらい前
 に八丈富士が噴火を始
 め、三原山とつながっ
 て、今のひょうたん形
 の八丈島ができました

(図③)。



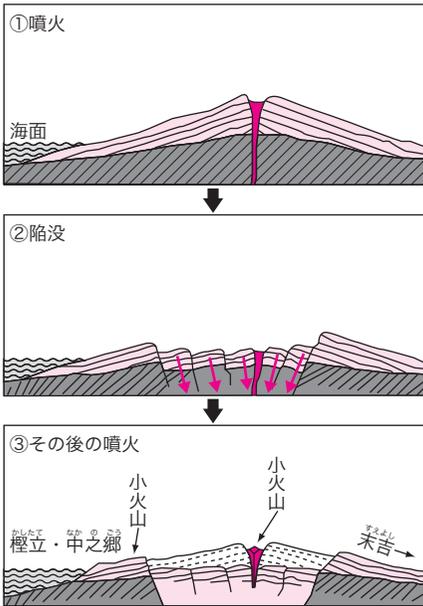
古い三原山(東山)

現在の高さは

およそ七〇〇メートルです。⑨⑥

十数万年前に噴火を始め、初めの形は、今の八丈富士のようでした。

その後二万九千年ぐらい前に大噴火があつて、そのすぐ後に大陥没を起こしました。その後も噴火をくりかえし、また、雨や風で岩がけずられたり、土を流されたりして、今の形になりました。



榎立・中之郷の人たちは、三原山の終わりごろの噴火で、溶岩や火山灰が積った所に住んでいます。

また、三原山の切り通しなどで見られる黄土色の土の層は、噴火で積った火山灰や軽石などで、よく調べると、噴火のようすがわかります。

この黄土色の土は、水をよく保ちます。

このため、三原山には水のしみ出る所が、たくさんあり、それらは、大川・鴨川・か



榎立から見た三原山



名古の瀧 (末吉)

います。

このように、三原山の土はつぶが細かく水もちがよいので、草木の育ちが早く、シイ・タブノキなどがよく繁っています。

新しい八丈富士(西山)

高さは

八五四メートルで、伊豆諸島で一番高い山です。噴火を始めたのは、今から一・三万年ぐらい前と考えられ

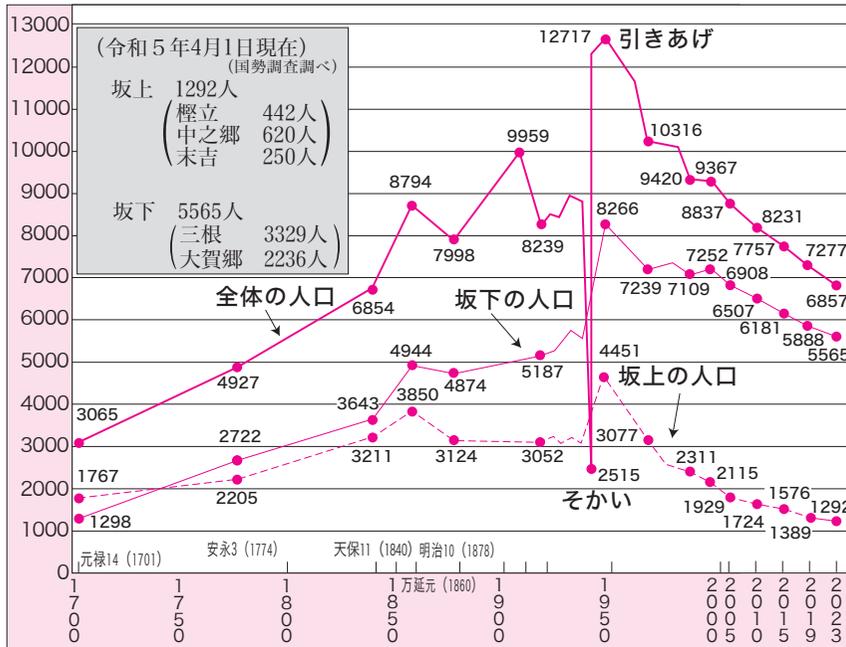
ています。③

八丈富士は、噴火のたびにそのすそ野を広げ、三原山との間の海が埋められて、三根・大賀郷の平地ができました。また、神山なども、噴火でできたものです。八丈富士は、溶岩や石、じゃりのところが多く、土が少ないので、生えているヒサカキ・タブノキ・ヤブニツケイなどは、育ちがよくありません。

八丈富士は、今は噴火を休んでいますが、昔の人が書いたものによれば、一四八七年、一五一八年から一五二二年にかけて、そして、一六〇五年に噴火したことがわかっています。

坂上と坂下の人口のうつりかわり

(『八丈実記』、国勢調査などより)



坂上と坂下 (八丈島は、大坂トンネルと登龍峠を境にして、坂上(榎立・中之郷・末吉)と坂下(三根・大賀郷)の、二つの地域に分け

られています。

グラフで見ると、坂上の人口は、平成十年と、三百年前とであまり変わらぬのに、坂下は五倍近くに増えていくことがわかります。

もともと、八丈島は、食べ物が少なく、飢え死にすることが多い島でした。食べ物が多ければ人口が増え、少なければ減ったのです。

島は、雨が多く暖かいので作物によいのですが、雨で肥料分が流されやすい上に、雑草の育ちも早く、台風や日照りなどで作物がだめになることが多いからです。土の中でいもが育ち、風や潮の害が少ないサツマイモがたくさんできるように

なって、飢え死にすることが少なくなつたと言われています。

三原山みはらやまとそのまわりは、土のつぶが細かくて水持ちがよく、また、人々の努力どりよくでわき水や川の水が使えたので、麦やアワなどの畑はたけだけでなく、何百年も前から田んぼがありました。

しかし、坂下のじやりや石混りの土地では、土やわき水もなく、住むのも農業のうぎょうをするのも大変たいへんでした。人々は、一にぎりの土も大切にたいせつにして畑をつくり、ため池や用水を掘り、土を運んでつきかため、田んぼを増やすなどの努力をしてみました。

ところが、昭和四十年しやうわ（一九六五年）ころから、ようすが大きく変わっ

てきました。道路どうろがよくなり、水道や電気が引かれ、トラックを使って土を運び客土きやくどができるようになって、坂下でも家を建てたり、畑をつくる人が増えてきたのです。

特に、昭和五十年とく（一九七五年）ころから生活べんりに便利な坂下に移り住む人が多くなつてきました。坂下は、港や空港があり、役所や商店などが多く、勤め先が増えてきたからです。



客土のうちされた農地

(三) 自然のめぐみときびしさ

暖かな島 八丈島は黒潮の影響を

受けて、冬は暖かく霜がおりたり雪が積もったりすることは、めったにありません。木々はあまり紅葉しません。

冬でもいろいろな作物が作られています。特にアシタバは冬でもよく育ち、昭和五十三年（一九七八年）から東京などに生葉が野菜として出荷されるようになりました。⑦⑨

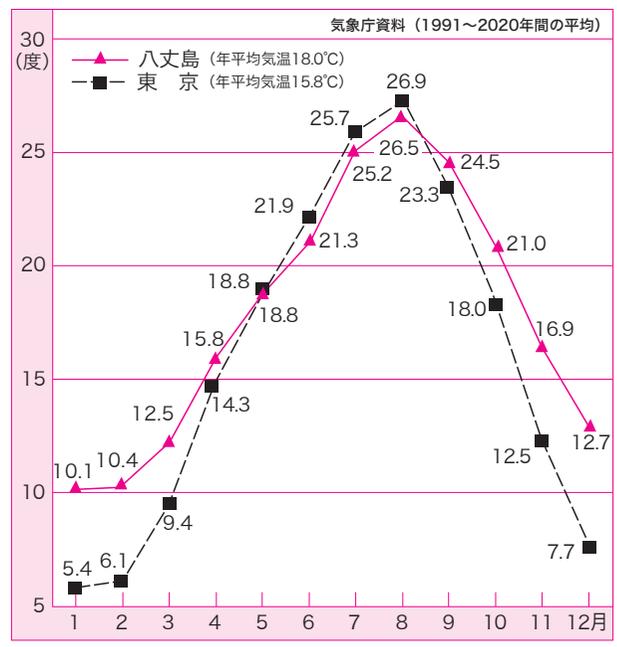
また、ほかの土地ではあまり見られない観葉植物や切り葉・切り花も、さかんに送り出されて、島の人々のくらしにたいへん役立っています。

- ⑤④
- ⑦③
- ⑧⑦
- ⑧①
- ⑧②
- ⑧⑦
- ⑧⑨
- ⑧⑨



なんぼうけい 南方系のピロウヤシのなみ木

八丈島と東京の平均気温





のうぎょうようすい なかの ごう
農業用水の池 (中之郷)

ゆたかな水

八丈島は雨が
多く、伊豆諸島

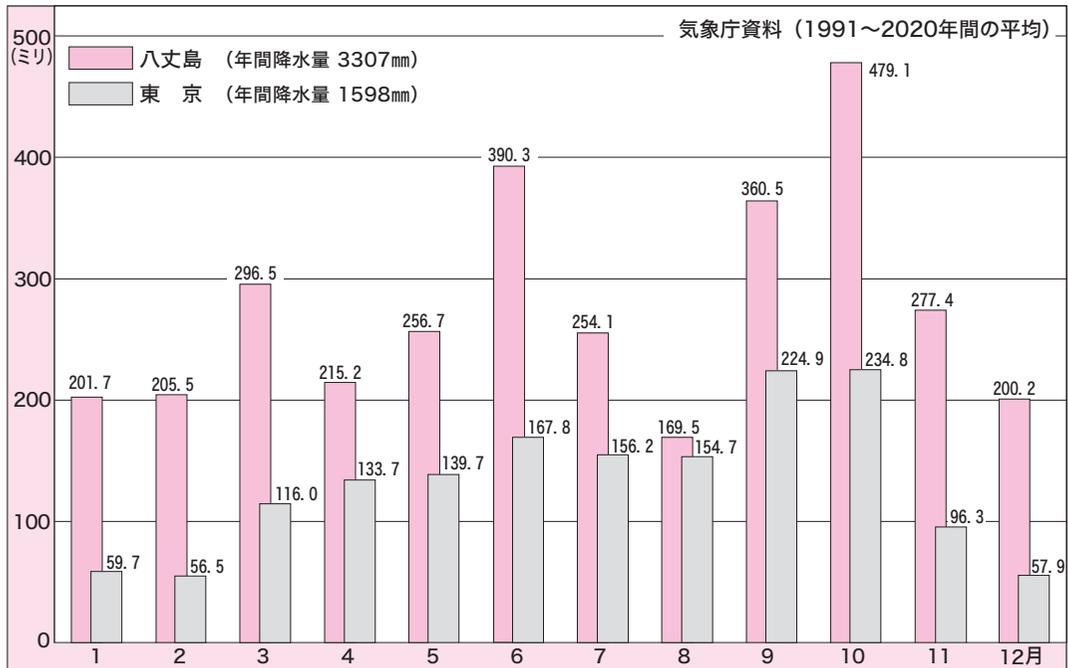
の中では、水に
めぐまれている
といわれていま
す。三原山が水

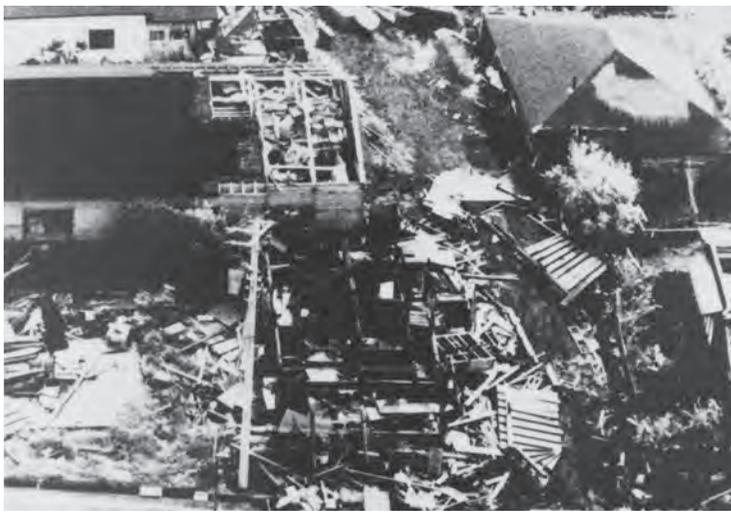
源になっており、一年中水にこまる
ことはありません。昔はその水を利
用して、電気を起こしたり、米づく
りもおこなわれていました。

伊豆諸島の中で、水田があるのは、
八丈島だけです。

しかし、今では水田が減ってきて
三根地区の一部を残し、ほとんど見
られなくなっていました。

こうすいりょう
八丈島と東京の降水量





台風でこわれた家 (昭和50年10月5日 台風13号)

強い風と台風

八丈島は、一年を

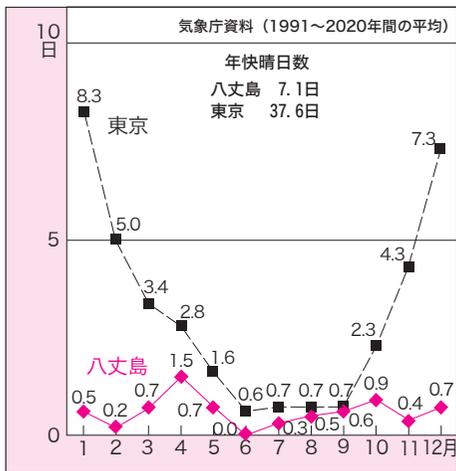
通して強い風の日が多く、つゆ明け後の七月・八月はおだやかな南西風の晴れの日が続きます。九月になると北東風の雨の日がだんだん多くなり、

台風にもたびたび襲われます。昭和五十年十月の台風十三号では、おおがごう大賀郷小学校の校舎がこわれるなど、とても大きな被害が出ました。

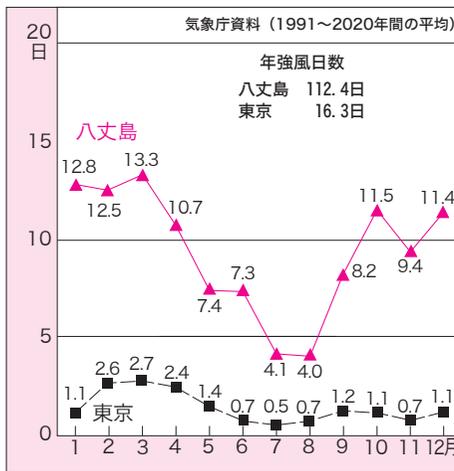
平成七年九月の台風十二号によって、港の堤防がこわされたり、漁船が流されたりしました。

また、十二月ごろからふき始める西風は、一月・二月ごろがとくに強く、四月、五月ごろまで続きます。風が強

快晴日数 (雲量1.5以下の日数)



強い風 (風速10m/秒以上の日数)



※八丈島の値は参考値

いと、船や飛行機が欠航したり、漁に出られなかったり、農作物が塩害を受けたりしてこまることがあります。

風から守るくふう 一年を通して

強い風がふく八丈島では、風を防ぐために、さまざまな工夫をこらしてきました。

昔の家は平家で、やしきのまわりには風よけの石垣や防風林がありました。今では風に強いコンクリートの家が増えています。

畑のまわりにも、風や潮による被害を防ぐため、ハチジョウススキ(まぐさ)やヒサカキ、オオバヤシヤブシ(へいのき)などが植えられています。



ぼうふうりん
防風林



畑のまわりに植えられたハチジョウススキ(まぐさ)

(四) 島の生きもの

植物しよくぶつ

気候きこうが暖あたかく、湿気しつげも多い

ので、昔から、シイ、タブノキ、ヤブツバキなどが生おい茂しげり、一年中みどり緑どりに覆おおわれています。シダ類るいなども多くはえています。⑦②⑥⑧⑥⑦⑦⑦⑦⑨⑩

また、最近では、ヤコウタケなどの光るキノコが注目されています。⑧⑤⑧⑥



石垣いしがきの上のヤブツバキ



スタジオの古木こぼく

また、風よけなどのため、家のまわりにはシイ、ヤブツバキ、タブノキが、山や畑はたけには、ヒサカキ、ハチジョウススキ（まぐさ）、グミ、オバヤシヤブシ（へいのき）、クワなどが植うえられました。⑦②⑥⑦⑧⑥⑦⑦⑦⑨⑩

今ではフリージアやフェニックス・ロベレニー、ストレチアなどの花かき園えん芸植物げいぶつもたくさん植えられます。③⑦⑨⑩⑧⑦⑦



ツバキとメジロ

動物

鳥は植

物が繁しげっている

ので、アカコツ

コ、ヒヨドリ、

メジロ、キジバ

ト、ウグイスな

どのいろいろな

鳥がいます。しかし、農薬のうやくやネズミ

たいじにはなされたイタチのため、

鳥、マムシ、トカゲの数がとても少

なくなってしまうました。⑨2

また、昭和しやうわ三十五年にキジもはな

されましたが、今では増えすぎて、

農作物のうさくもつの被害もでています。

昔は田畑たがやを耕たがしたり、荷物にもつの運搬うんぱん

に牛つかが使われ、明治めいじになって乳牛にゅうぎゅうも

養やしなわれました。

島にもいろいろいな虫がいますが、

特にシロアリの被害には、昔からと

ても悩なやまされています。⑨4

島のまわりには黒潮くろしおが流ながれている

ので、魚さかなの種類しゆるいが多く、春から夏の

トビウオ、夏から秋のクサヤモロ(ム

ロアジ)は有名ゆうめいです。また、カツオ、カ

ンパチ、シマアジ、イスズミ、メジナ

なども多く、本土からもたくさん

釣つり客きやくが来るようになりました。⑨5

島のくらしに役立やくたっていたフクト

コブシ、ギンタカハマ(めつとう)、

テングサなどは、平成七年(一九九五

年)ごろから磯いその状態じやうたいが悪くなり、

ほとんど取れなくなっています。

三 島の人の仕事しごと



キンメダイ漁りょう



はち物の出荷もの しゅつか

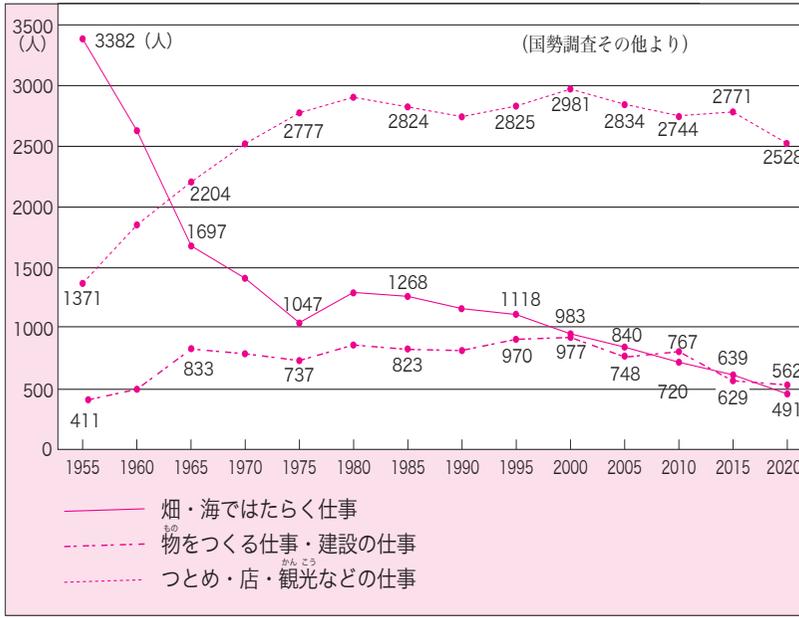
みなさんのお家の人たちは、どんな仕事をしていますか。

まわりを海にかこまれ、温暖で豊かな自然に恵まれた八丈島では、それを生かした次のような仕事がさかんです。

フェニックス・ロベレニーの切り葉などの花き園芸業、キンメダイ漁などの漁業、自然を求めてやって来る人々をむかえる観光業、そのほかにも、港をつくったりする建設の仕事やお店などの仕事もあります。

また、昔から伝えられている島酒づくりや黄八丈織りも大切な仕事です。

べっじんこう
仕事別人口のうつつりかわり



(一) 島の働く人々
島の人々は、さまざまに仕事をしています。
昔と今を比べると、仕事別人口のようすがかわってきました。

5地域のはたらく人々のようす

(『令和2年国勢調査、東京都区市町村丁別報告』より)

	農業	漁業	建設業	製造業	輸送・郵便	商業	宿泊・飲食	サービス業	教育	医療・福祉	公務	その他
三根	166人	58	229	78	107	205	204	340	48	212	160	58
大賀郷	110人	24	140	25	43	117	117	179	84	161	101	40
榎立	58人		17	12	9	24	13	25	58	35	18	8
中之郷	50人		31	12	8	40	22	44	20	32	23	13
末吉	23人		18	5	7	8	25	10	15	9		
合計	407人	84	435	127	172	393	364	613	210	455	311	119

※グラフの広さは人の多さ少なさを表す。

(二) 島の農業 のうぎょう

八丈島 はちじょうじま

八丈島では、稲 いね やいもなどの作物 さくもつ をたくさん そだ 育てるために、力を合

せて、山をけずり、谷を埋 う め、池を

つくり、田や畑 はたけ を広げてきました。

そして、ほとんどの農家 のうか が、牛を

飼 か い、こやしを作り、土に混 ま ぜてよ

い田や畑をつくってきました。

よりよい作物を育てたいという農

家の願 ねが いは、どんな小さい土地にも

こめられているのです。

昭和三十五年ほどまでは、水田で

お米 こめ を作り、畜産 ちくさん (乳牛 にゅうぎゅう 養 やしな い) や林

業 ぎょう (炭 すみ 焼 や き) の仕事 しごと もしていましたが、

これらの仕事 しごと がほとんどなくなり、

今では水田は口 くち 畑 はたけ に変わり、そして、

今では水田は口畑 くち畑 に変わり、そして、

八丈島の産物の売り上げ高のうつつりかわり (八丈支庁産業課調べ) 黄八丈1.7 (%)

八丈島	昭和10年	0.3 ちく産 28.7 (%)	かいこ 5.4	りんさんぶつ 林産物 21.3	ずいさんぶつ 水産物 35.5	その他 5.9
	昭和31年	1.2	5.8	16.1	16.0	34.4
	令和4年	10.0	60.6 (%)	285	26.3	2.2

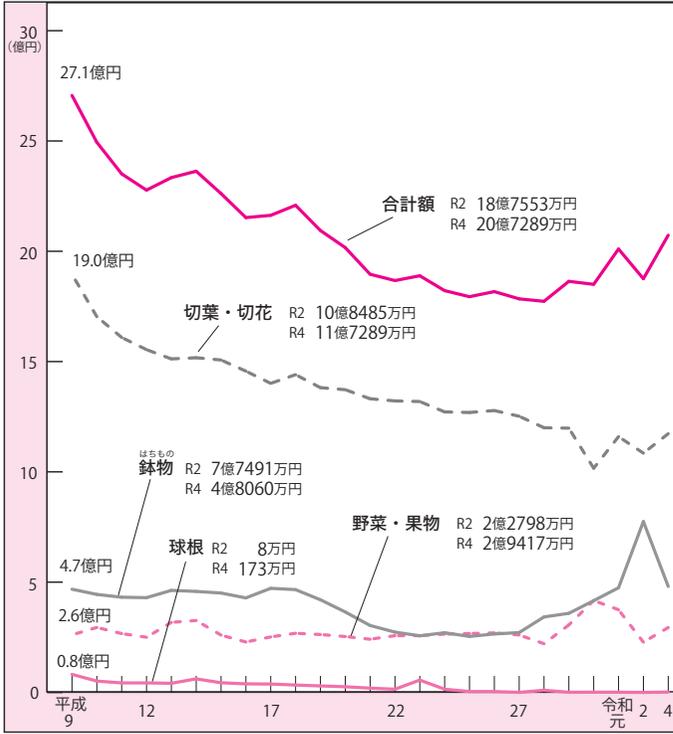
八丈島と日本全国の農業生産高比べ (八丈町勢要覧)

八丈島 (令和4年)	0.8	81.9 (%)	0.1	13.3	2.8
全国 (令和3年)	15.9 (%)	23.9	38.6	10.2	8.0

(農林省資料、『農業総産出額』より) 工業作物 2.0

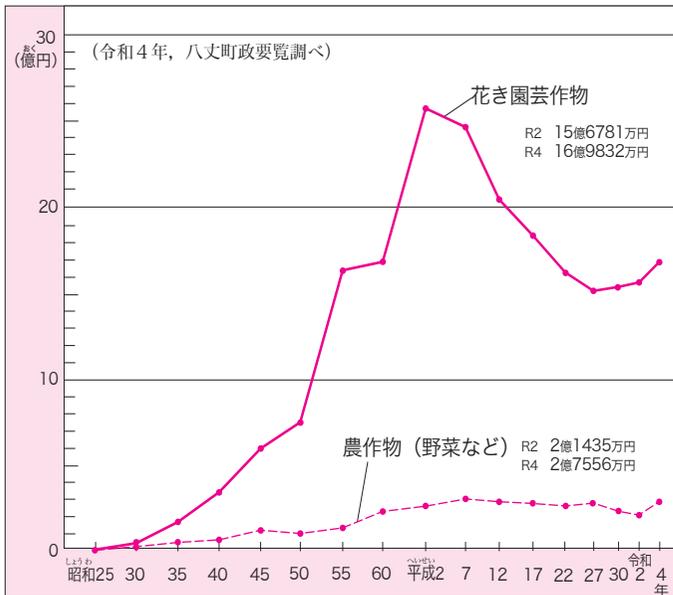
アシタバ畑 あしばたはたけ などが すす 増えてきました。最近 さいきん では、高齡化 こうれいか が すす 進み農業 のうぎょう を つか 使われない畑 はたけ きなくなる人が すす 増え、

花き園芸作物生産額の変化



も多くなってきたてきていますが、新たに農業をやる人が出てきています。
さかんなロベ作り 八丈島ではいろいろな花き園芸作物が作られています。ロベ（フェニックス・ロベレニー）は、島の気候に合い、日本のロベのほとんどが八丈島産です。

花き園芸作物と農作物（野菜など）の生産金額



花き園芸作物を売った約十六億円のうち、ロベ、ルスカス、レザーフアなど切葉は約十一億円です（令和五年。四年前と変わらず）。
花き園芸をさかんにする努力 花き園芸作物は、高い値段で売れるとき、安いときのちがいが大きい

い作物です。そのため園芸作物を
作っている人々は、

• よい作物を育てる

• 安定供給をする

• 共同出荷をする

• 新しい品種の物を、取り入れる

• 品種改良を行う

などの努力をしています。

最近では、国や都の補助金を使っ



ロベの作業



共撰共販出荷所

ロベなどの値段の、時期と市場によるちがい (令和元年南海タイムズ)

単位：100本 左：高値 右：中値

共撰共販市況速報 12月9日		大田花き		東日本板橋花き		東京フラワーポート		世田谷花き		仙花	
ロベ	3,240	2,372	2,700	2,226	3,240	2,393	4,860	3,135	2,700	2,428	
レザールスкас	6,480	3,920	4,320	2,956	5,400	5,016	7,560	4,022	4,860	4,538	
	3,780	3,500	-	-	-	-	2,800	2,800	-	-	

(令和2年南海タイムズ)

共撰共販市況速報 6月8日		大田花き		東日本板橋花き		東京フラワーポート		世田谷花き		仙花	
ロベ	3,348	2,625	3,240	2,994	4,320	3,575	4,860	3,483	3,240	2,933	
レザールスкас	4,428	2,849	2,916	1,418	5,400	4,290	3,240	2,112	4,860	4,180	
	5,076	2,600	3,780	2,300	3,780	2,800	4,320	2,600	4,320	2,900	



かんれい遮 (寒さや風などから守るための網)



ビニールハウス

て、風に強い鉄骨ハウス
やストロングハウス、ラ
スハウスなどが建てられ、
畑に行きやすいように農
道の工事なども進められ

ています。

きょうどうしゅつか

共同出荷は、ロベヤレザーファン、ルスカス、サングーソニアに加えて、平成十八年度から全ての切り葉や切り花で行われるようになりました。

野菜

はちじょうしま

八丈島では、自分たちが食

べるための野菜を作っている人たちが、売るために作っている農家の人たちがたくさんいます。

のうきよう

いちとお

とうない

農協のせり市を通して、島内のお店で売られているのは、サツマイモ、

サトイモ、トマト、キュウリ、スイカ、

パッションフルーツ、八丈フルーツ

レモンなどで、百種類ほどあります。

はちじょうしま

ちゅうもく

八丈島の野菜で、注目されている

けんこうしょくひん

のはアシタバです。健康食品として、

作る量が増えています

す（平成三〇年七五

七トン生産）。八丈島

は、他の島より圧倒

的に生産は多いので

すが、東京から遠く

運賃が高くなったり

しおれたりするため、生食用でなく

粉末などの加工品が多いのです。

らく農

らく農は、乳牛を育て、

牛乳やバターなどを作る仕事です。

八丈島は、一年中青草がしげり、牛

を飼うのにはとてもよいところです。

島では、六百年よりもっと前から、

牛を養ってききましたが、乳牛で

はありませんでした。また、牛を食



あしたばのお茶や石鹸

べることは禁止きんしされていて、畑はたけや田いりんぼを耕たがやしたり、たい肥ひを作つくったり、荷物にもつを運はこんだりしながら、家族かぞくの一いち員いんのように育そだてられていました。

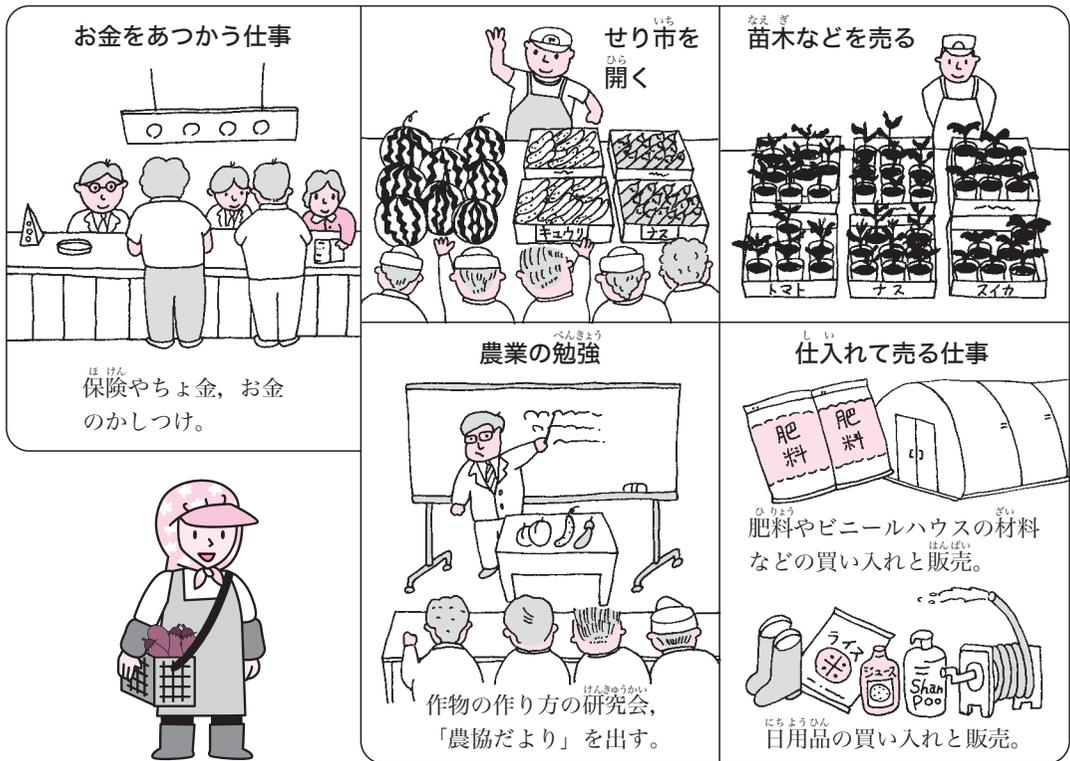
八丈島はちじょうじまのらく農のうは、明治十三年に外国がいこくから来た乳牛にゅうぎゅうを飼かったのが始はじまりです。第二だいに次じ大戦たいせん前は、出る乳ちちの量りょうが世界せかい一の牛いちがいるほどさかんでした。しかし、現在げんざいでは、乳牛にゅうの数はすごく減へってしまいました。

農業協同組合の仕事

平成十三

年、各島のうきようの農協のうきようが合併ごうへいして、東京都島しょ農業協同組合とうきょうと島しょのうぎようきょうどうくわいができましたが、令和三年五月に、各島の農協のうきように分わかれてやっていくことになりました。

農協の仕事は次のようなことです。



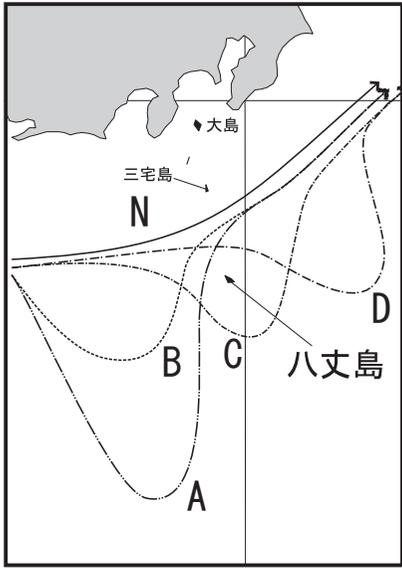
(三) 島の漁業

黒潮と漁業

はちじょうじま

八丈島の近くの海

は、よい漁場として知られています。それは、島の近くを黒潮という暖かい海流が流れていることと、島の近くの海が浅かったり、瀬といわれる場所があるからです。八丈島の北には、黒瀬や新黒瀬といわれる有名な漁場があります。そこは、深さが百



黒潮の流れのパターン

黒潮は、幅がほぼ50km（八丈島と御蔵島の間が約100km）、時速5kmほどで流れる。Nは、冷水塊がない時の流れ。A～Dは、冷水塊がある時の流れ。

〜二百メートルほどですが、まわりは千メートル以上もある深い海です。瀬では、海流の力で海の底にある魚のえさになる栄養がわき上がってプランクトンが増え、それを食べるために多くの魚が集まってきました。黒潮は上の図のように蛇行して流れ、その内側に冷水塊といわれる冷たい水の塊を伴うことがよくあります。黒潮が八丈島の近くを流れる年は、キンメダイやハマトビウオのよい漁場が、島の周りにできます。八丈島が冷水塊に囲まれた時は、流れがゆるくなり、水温や流路が変わり、とれる魚の種類が変わります。

魚の種類と漁期

八丈島周辺の

漁場ぎよじょうでとれる代表的な魚だいいょうてき・漁法ぎよほう・漁

期を写真や図で見てください。魚

によってとり方や漁期がちがいます。

漁師さんは目的の魚をねらって出漁

します。主なとり方は・底魚そこうお一本釣いっぽづ

り漁業（キンメダイ・メダイなど）。

流しさし網漁業あみ（トビウオ類）・ひ

き縄漁業なわ（カツオ・マグロ類）・棒ぼう

受け網漁業（クサヤモロ）などです。

魚の漁期ちがが違うのは、黒潮しおの流れに

のってくる魚と毎年同じ場所に棲すん

でいる魚がいるためです。

漁師さんたちは、魚の資源しげんを確保かくほ

するために、とる数を決めたり、禁きん

漁期間せつていを設定したりしています。

八丈島周辺漁場で漁獲される代表的な魚



カツオ
とれる時期：3月～5月頃 大きさ：50cm



トビウオ (写真：ハマトビウオ)
とれる時期：2月～5月頃 大きさ：40cm



キンメダイ
とれる時期：周年 大きさ：50cm



ムロアジ (写真：クサヤモロ)
とれる時期：8月～12月頃 大きさ：30cm



マグロ (写真：キハタ)
とれる時期：2月～5月頃 大きさ：1m



メダイ
とれる時期：周年 大きさ：90cm

資料 八丈支庁産業課

八丈島における漁業操業状況

そうぎょうじょうきょう

■■■■■ : 操業期 ■■■■■ : 最盛期

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
底魚一本釣り漁業	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
流し刺し網漁業		■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■							
ひき縄漁業	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
棒受け網漁業								■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■



きんめだい底魚一本釣り漁業

とびお流し刺し網漁業

かつお・まぐろ等ひき縄漁業

むろあじ棒受け網漁業

資料 八丈支庁産業課

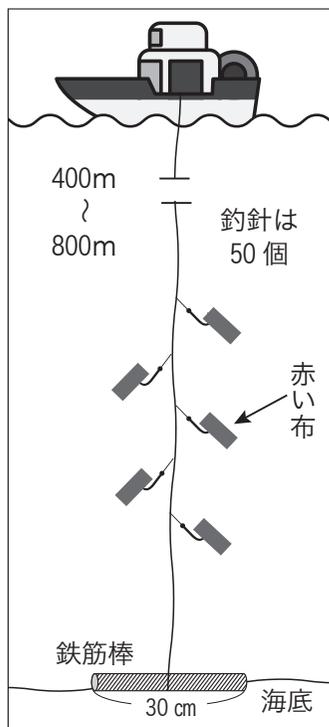
さかななキンメダイ魚 十年ほど

前までの漁業は、金額の^{がく}高いカツオ漁がさかんでしたが、最近^{ぎょかく}は漁獲量が^{りょう}とても少なくなりました。原因は、くわしくはわからないのですが、最近^{ぎょかく}はキンメダイを中心にとっています。⑨5

八丈島近海はキンメダイの良い漁場にめぐまれていて漁獲^{ぎょかく}高も伸びています。多くの漁師^{いさ}さんが、他の^{ほか}地域^ちより漁場が大きく、値段^{ねだん}の安定しているキンメダイをねらって漁に出ています。漁法は底魚一本釣り漁法で海の深い所（水深400mから800m）にしかけをおろして釣ります。えさは、以前はイカが多かつ

たのですが、最近は工夫して、疑似餌と呼ばれる物を使っています。

日帰りや二三日で帰れる漁場でとることが多く、船がもどってくる夕方の港は水揚げでにぎわっています。そこでは、魚のサイズによって大・中・小に分けられます。水揚げされた多くは橘丸で東京に出荷されていて、豊洲の市場では高値（一キロ一二〇〇円〜二五〇〇円）で取引されています。



キンメダイ漁 最近のしかけ

漁師のおじさんの話

数年前までは、カツオがたくさんとれていたけれど、最近はあるまりとれなくなつた。この頃は、キンメダイとトビウオをとっているよ。特に、キンメダイは大きさも他のものより大きく、値段も高いので、多くの漁師がとっているよ。心配なのは、今はたくさんとれるけれど、これから先どうなるかわからないので不安だよ。

漁師をやっていて幸せと感じる時は、しかけにたくさん魚がかかって豊漁の時だな。五十のしかけに四十ぐらい魚がかかっているとうれしいな、反対にしけで何日も漁に出られないと困るな。また、イルカが魚をねらって食いついてしまうのは困ったもんだよ。また、潮の流れをよく見て、しかけをおろすのが大変だよ。魚の値段は、需要と供給のバランスで決まるのでむずかしいな。

伝統あるくさやづくり クサヤム

ロヤトビウオなどは、ある時期にまとまってたくさんとれます。⑨⑤⑩⑩

そのため、江戸時代の終わり頃から生で食べるだけでなく、長くとっておけるよう、くさやや塩干し、くんせいなどにしていきます。特に、くさやづくりには、くさや液に魚をつけるので、独特の香りがします。これらの多くは神湊港の近くの工場でたくさん作られています。島の人だ

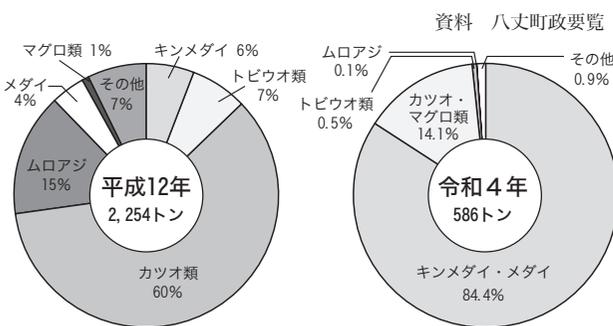


けでなく観光客もおみやげで買っています。

変わっていく漁業 漁業はとれる

魚の種類や値段によって大きく変わってきます。左の図は平成十二年と令和四年の水揚げ魚種のちがいです。これを見るとたくさんとれる魚が、オカからキンメダイに変わっているのわかります。また昔はとっていたテン

八丈島漁協 水揚げ魚種構成



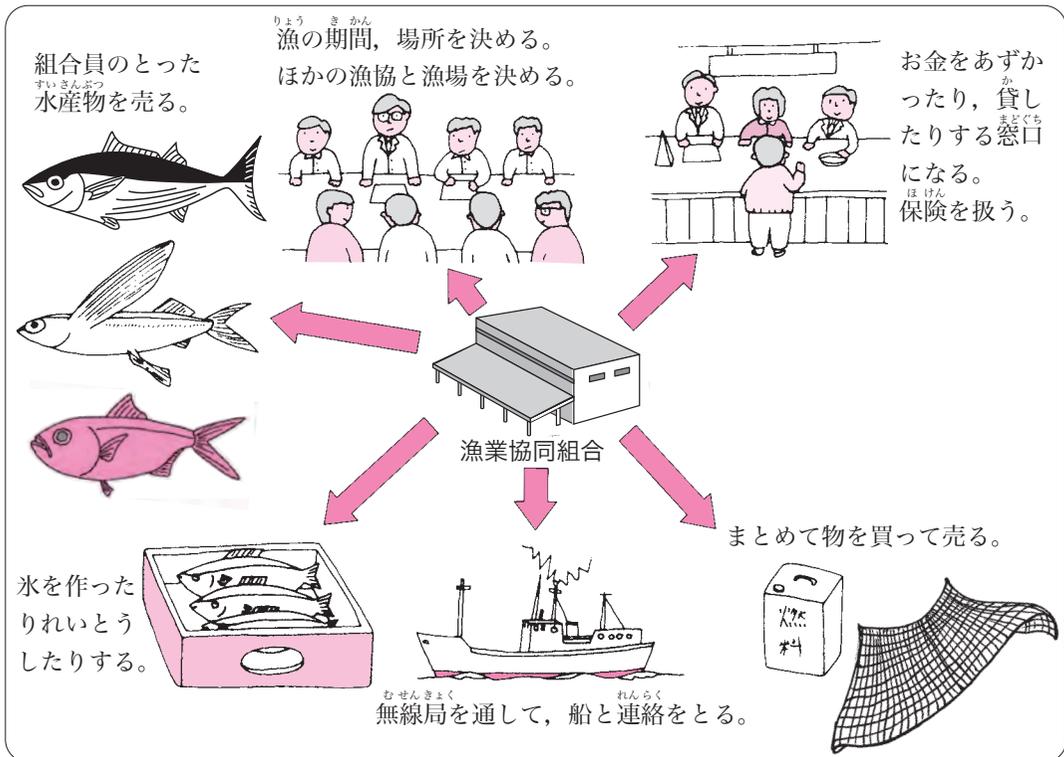
グサヤトコブシなども温暖化の影響などです。漁師の後を引き継ぐ人は年々少なくなっています。最近、島外から漁師になる人もいます。⑨③

新しい漁業をめざして 八丈島の

魚などのとれ高や金額は全体的に減ってきています。金額は約十億円ほどです。

そこで、漁業協同組合と都と町と協力してさまざまな取り組みをしています。魚が集まる浮き魚しよう(パヤオ)を設置したり、カツオの移動中の水温、水深などを記録できる標識を使って生態調査などを始めています。漁協の女性部は、島の魚を食べてもらおうために、魚を加工して、島の給食などで使っているだけでなく、都内の学校でも島の魚を宣伝する出前授業をしたり、給食に使ってもらっています。

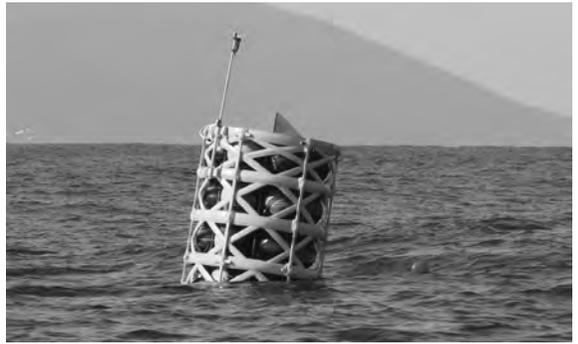
漁業協同組合のはたらき



漁業協同組合の仕事



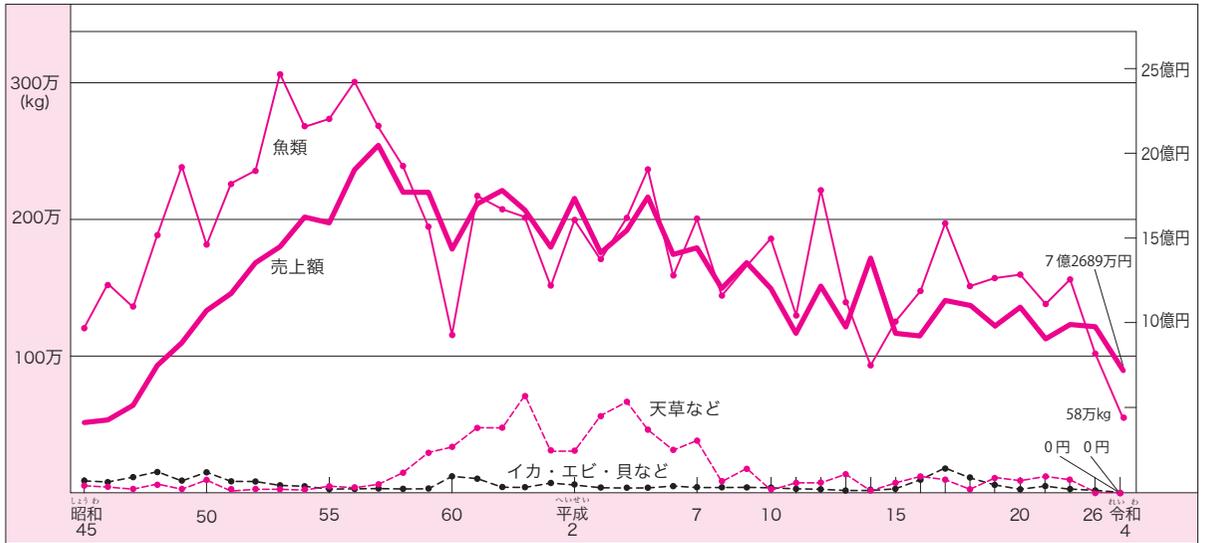
都内での出前授業



うぎよ 浮き魚しょう (パヤオ)

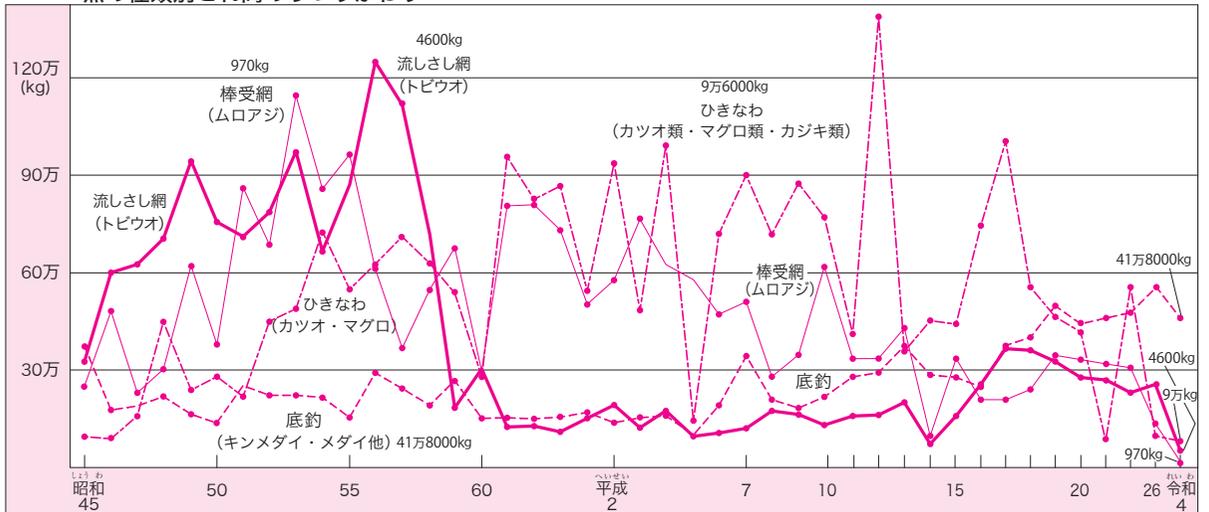
八丈島の漁業のうつきわり (種類別とれ高と売り上げ高)

(「八丈町政要覧」による)



魚の種類別とれ高のうつきわり

(「八丈町政要覧」より)



(四) 観光の仕事

八丈島に来る観光客

八丈島は、

富士箱根伊豆国立公園の中に入っています。南の島のきれいな海や美しい自然、心安らぐ温泉をもとめて、一年中観光客が来ます。④⑥⑦⑱⑲⑳

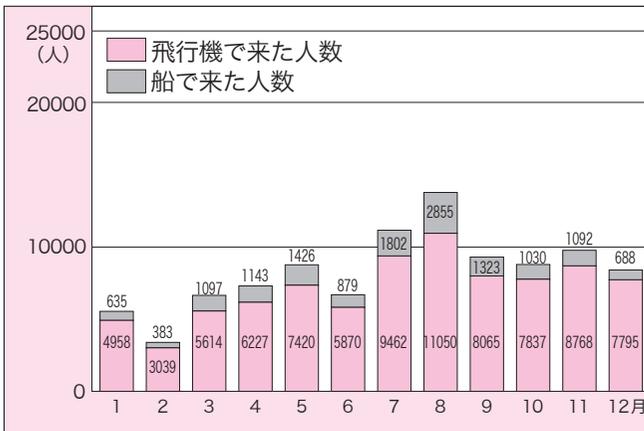
は減つて
る人の数
島に来
わいます。
ともにぎ
どでもつ
どでもつ
族連づな



底土港についた観光客



到着した飛行機

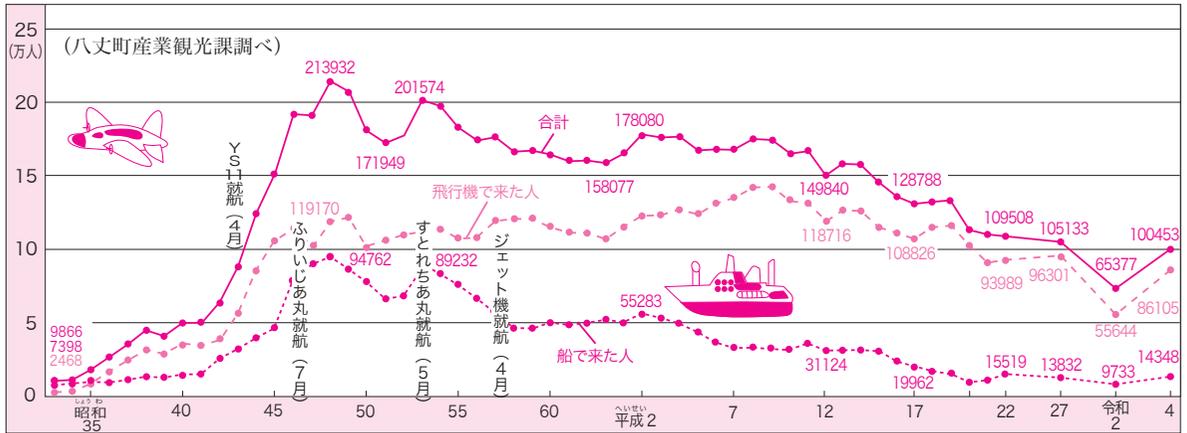


島に来た人の数 (令和3年)



みやげもの店

島へ来た人のうつつりかわり



いまは、平成二七年から増えてきています。そこで、町では、観光客を増やすため、春のフリージア祭りや夏祭り、パブリックロードレースなど、いろいろな行事を行ったり、

空港や海岸を整備したりしています。最近では、人気のダイビングや釣りの観光客も増えていきます。また、スポーツイベントへの参加の呼びかけ、歴史や自然に興味のある人のためのツアーなど、要望に合わせた様々な形の受け入れをすすめています。④

観光の仕事をしている人 八丈島に観光に来る人の多くは、ホテルや旅館・民宿に泊まります。観光の仕事をしている人は、観光客によるこんでもらうように、いろいろな工夫をしています。あるホテルの支配人のおじさんの話を聞いてみました。

ホテルのおじさんの話



町でおこなっているイベントには、ホテルの人たちもいろいろなお手伝いをしています。また、ダイビングやサーフィン、釣りのお客さんのための施設をつくったり、船で来たお客さんのために午前中から部屋を用意したりするなどの工夫をしています。「八丈の方は、みな優しいですね。」とお客さんに言われるのがとてもうれしいです。また、光るきのこを見るためのイベントなど、八丈島の自然をより感じていただけるようにしています。



釣りをする観光客



ダイビング



とうきょう せんでん
東京で島の宣伝

(五) 店の仕事しごと

いろいろなお店

は、くらしに必要な品物ひつよう しょうものを、どんな
お店で買っているでしょうか。買い
物調べをしてみましょう。

島の中には、電気製品せいひんや衣料品いりょうひんな
どを専門せんもんに売る店、昔からある「い
ろいろな物を売っている店」、スー
パーマーケットなどがあります。



スーパーマーケットの中



でんきでん
電気店

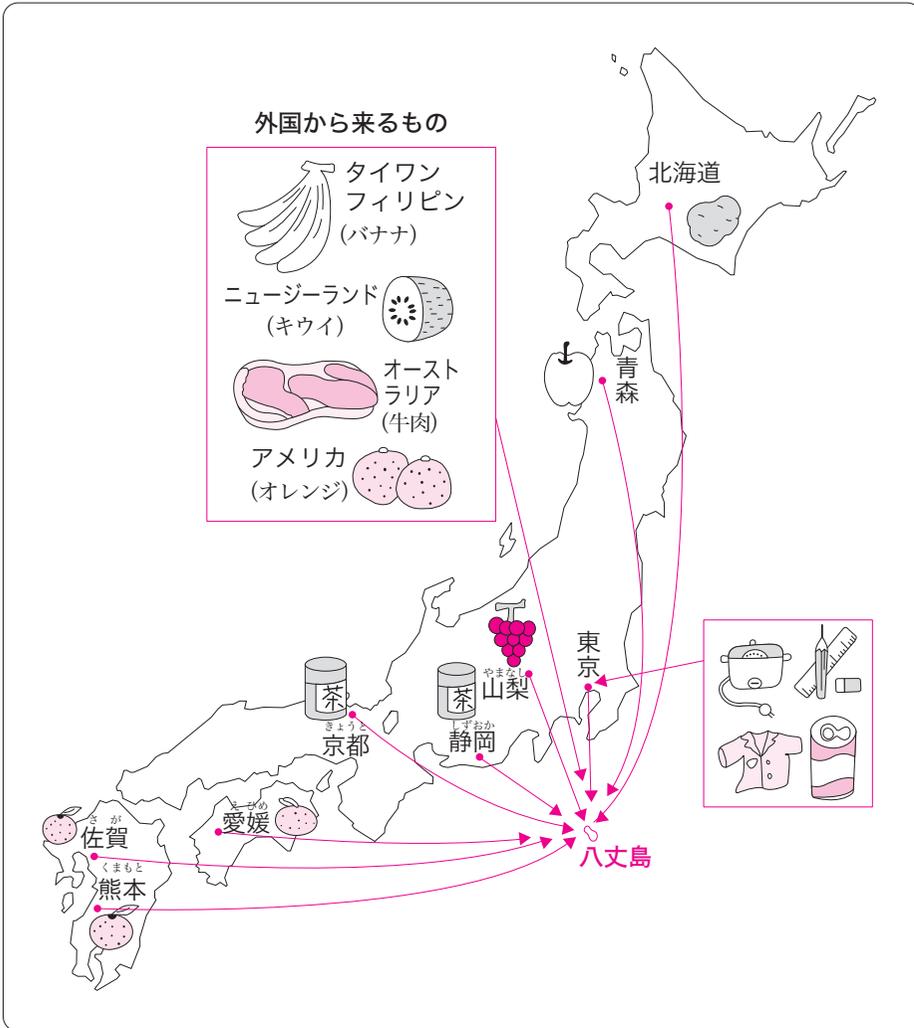


とけい
時計店



いろいろな物を売っている店

品物はどこから来るか



店に来る品物しなもの

店にはいろいろな

品物がならべてあります。これらの品物はどこから来るのでしょうか。

あるお店の人の話

うちでは野菜・果物・お菓子など、大部分は都内から送ってもらいます。

問屋さんとオンラインで結んでコンピュータで注文します。また直接、送ってもらうこともあります。島内からの仕入れは、パン、野菜などです。

買い物ものの工夫くふう

家の人は、毎日の

ように島のお店で買い物をする。良い品物を安い値段で買うなどのいろいろな工夫をしています。

○日づけをよく見たりするなど品物

の新しさや産地に気を付けて買う。

○チラシなどにより、特売日などに

気を付けて、ほしい物を安く買う。

○カードで買ってポイントをためる。

○台風などで品物が入荷しないと予

想される時は、買いだめをしておく。

他にはどんな工夫をしているか家

の人に聞いてみましょう。



電子マネーの機械



チラシ広告

島では、多くの人が車を利用して
買い物をしています。

離島りまである八丈島はちじょうじままで商品しょうひんを運ぶ

には、船ふねや飛行機ひこうきを使つかって島まで運

び、それから自動車じどうしゃでお店まで運とどび

ます。そのため、品物がお店に届とどく

まで、日数がかかります。また、運

ぶための費用ひようや、品物を傷いためないた

めの費用が、品物の値段ねだんに含まれた

りもします。

この頃ごろは、テレビやカタログなど

によって注文ちゆうもんする通信販売つうしんはんばい（通販つうはん）

やパソコンによる買い物（インター

ネットショッピング）を利用りようする家

庭ていが増えてふいます。中には、外国がいこくに

注文ちゆうもんする人もいるそうです。

しょうてん 商店の工夫

しょうてん
や努力どりよくをしてしているのか、あるスー
パーマーケットのおじさんに話を聞
きました。

遠くからでも来られるように、ちゆうしゃ駐車を
場じやうをつくっています。これは、交通こうつうの不
便べんな八丈島では、とても大事なことです。
また、地域ちいきのみなさんによるこんでも
らうために、高価こうかな品物や専門せんもん店であつ
かうような商品しょうひんでも、特別とくべつにそれだけ東
京きやうなどからとりよせることもあります。
それに、安売りの日をつくったり、よ
い品物をいつでもそろえておくための工
夫などもしています。

台風など
の時は欠航
になり、困
ります。



お金を支払う機械

しょうてん
商店は商工会しょうこうに入いって、力を合あわ
せています。

商工会は、どのようはたらにすれば売り
上げが増えるか、お店で働く人たちが
が気持きもちよく働けるようにするには
どうするか、などの講習こうしゅう会を開ひらいた
りしています。

夏まつになると八丈島夏祭り、十二月
には福引ふくびき大売り出しなどをして、
お客きやくさんを集あつめることもしています。



夏祭り



大売り出しの福引き

(六) 建設の仕事

左の写真は横間道路の写真です。

この道路は、坂下地域と坂上地域を結ぶとても大事な道路です。

また、横間の展望台から見える八丈富士や八丈小島は、すばらしい景色で観光の名所にもなっています。東京都では、この道路をより安全に安心して通れるようにするために、六十一億円ものお金と、十年以上の期間をかけて工事をおこない、完成させました。



横間道路（平成6年4月に完成）



道路を広げる工事

このような仕事を建設の仕事といいいます。

このほか、港をつくりかえたり、道路を広げたりするための工事や、学校や役所などをたてたり、みなさんの家をたてるのも建設の仕事です。

八丈島には建設の仕事をしている人がたくさんいます。

(七) 古くから島に伝わる仕事

黄八丈 島には昔から伝わる黄八丈という絹織物があります。

着物や帯やネクタイなどにしています。黄八丈は染めに特徴があります。島に自生している草木を原料にした煮汁で糸を染めていて、黄色、かば色、黒色を基本としています。最近では中間色などで染めています。黄八丈は江戸時代には年貢として

黄八丈ができるまで

- 1 かいこのまゆから糸をとる
- 2 糸ひき
- 3 糸をせいれんする
- 4 染める (ふしづけ・あくづけ)
- 5 はたおり
 - ①たて糸にのりづけ
 - ②糸くり
 - ③せいけい(織機にいとをはる・たて糸1500本くらい)
 - ④せいしょく(おり始める)
- 6 布として完成する
- 7 せいひん製品に加工する



座繰り機で糸をひく



ふしづけ



沼づけ

糸が染まるまで			
色	黄色	かば 榊色	黒色
材料	コブナグサ (干したカリヤス)	タブノキ (まだみの生皮)	スタジイ (かんそうした皮)
ふしづけ (煮汁につけ こむ)	かんそうしたコブ ナグサをせんじた 汁につける	30年以上たったタ ブノキの生皮をせ んじた汁につける	スタジイの皮を 7、8時間せんじ た汁につける
最後に色を定 着させる (あくづけ・ どろぞめ)	ツバキやサカキの はいじる 灰汁につけると黄 色に発色する	ぎつぼく 雑木の灰汁につけ ると榊色に発色す る	沼づけ(どろぞめ) 鉄分の多い田につ けると黒色に発色 する
完成するまで の日数	30日ほどかかる	40日ほどかかる	50日ほどかかる



幕府に納められ
ました。伝統的
工芸品として国
からも指定を受
けています。

黄八丈の仕事
をしているおば

さんは、次のように話してくれました。

コブナグサ（カリヤス）を干している時、急に雨が降ってくると、家中の人が総出で取り込まなくてはならないのです。それは、少しでも雨にぬれると、色が落ちて染める時に、いい色に染まらないからです。

また、のりづけによって、うまく織れるかどうかきまるので、すぐく神経を使います。これからは、黄八丈を守り続けていくために、若い人の手が必要です。

*黄八丈の名前は比較的新しい呼び名で以前は「たんご」と言っていた。また、江戸時代には黄紬とよばれていた。丈は長さの単位一丈（約3m）である。今では、四丈で織っている。

島酒 八丈島には、酒を造る工場

が四つあります。そこでは、主にさつまいもや麦を使って、焼酎（島酒）

をつくっています。つくられた島酒は、島内をはじめ、島外にも送られています。今では観光みやげにもなっています。



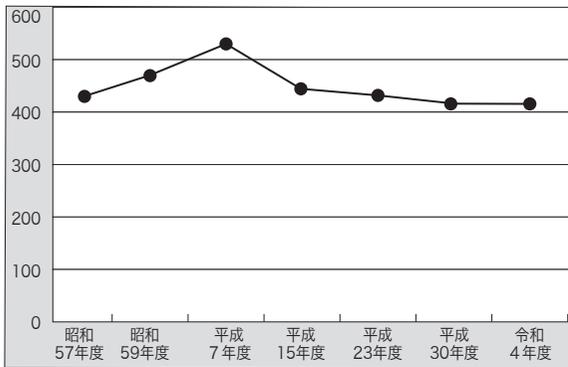
島酒を作っているようす

一人当たりの水道使用料の変化

八丈町水道使用決算資料による

年 度	人口(人)	有取水量 (トン)	一人当たりの 年間使用量(トン)	一人当たりの 一日使用量(ℓ)
昭和57年度	10,126	1,589,530	157	430
昭和59年度	10,024	1,721,213	171	470
平成7年度	9,476	1,830,848	193	530
平成15年度	8,930	1,469,248	164	444
平成23年度	8,154	1,296,121	159	430
平成30年度	7,250	1,142,012	157	421
令和4年度	6,837	1,083,639	158	422

一人当たりの一日使用量 (ℓ)



江戸時代の水くみのようす

(「八丈三宅新島神津島諸職業図」より)

四 住みよい八丈島に

上の写真は江戸時代に書かれた八丈島の水くみのようすです。

このおけ一ぱいの水(十八リットル)を、一軒の家ぞくが料理や飲み水として大切に使っていました。もちろん、洗濯や風呂には使えませんでした。一方、現代のわたしたちは昔とは比べものにならないほど水を使っています。(一日に一人あたり、およそ五百リットル)

わたしたちのくらしは、水だけではなく、多くの場面で便利になってきています。わたしたちが住みよい島にするために、どのような努力や工夫がされてきているのでしょうか。調べてみましょう。

(一) くらしと水

水道ができるまで

左の写真は、

昔の水くみ場あとのようすです。

「庭ニラ二井戸イドナク、近クノ谷ヤ小川ノ

水ヲ朝夕、女ノ人ガ汲クミ来ルナリ」

と、近藤富蔵こんどうとみぞうが『八丈実記じっぎ』に書い

たように、昔は東山から流れ出るわ

き水や川

の水を、

飲み水、

洗濯、牛

養やしないなど

に使って

いました。

水くみは、女の人の大切な仕事で

したが、水くみ場が遠かったり、水

が少なかつたりしたので、夏は朝の

三時ごろ起きて、日の出前から順番

を待ちました。

八丈島に初めて水道ができたのは、

末吉すえよしで、一八五九年（安政六年）の

ことでした。そのときの地役人長戸

路ろ収蔵しゅうぞうは、工事の費用ひようを全て出し

て、この仕事を始めました。

木をくりぬいて作ったといで、二

キロメートルはなれた水源と村をつ

なぐ工事は、千六百六十人の人手と

六年の月日にかけて大工事でした。

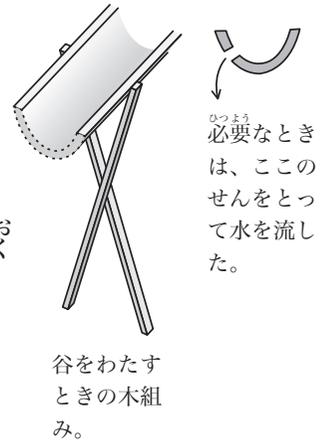
続いて中之郷なかのこう・榎立かしたてにも、といを

使った水道ができました。



むかしの水くみ場あと（末吉）

杉・しいをたてにわり、
くりぬいて作ったとい



坂下でも、だいぶ遅れましたが、

村のあちこちに水槽を作り、川上から土管で水を送るようにしたので、水くみはとても楽になりました。

今の上水道は、昭和三十年ごろにできて、消毒された安全な水になりました。消火栓も取り付けられました。また、土管も鉄管やプラスチック管にかわり、水もれもなくなりました。

その後、園芸・観光・家庭用に水がたくさん使われるようになり、断水や時間給水がたびたび起きました。



おおかわ しゅすいげき
大川の取水堰



八戸の井戸

町では水源を増やし、大賀郷の八戸・大里や三根の片根山に井戸を次々に掘るなどしたので、水不足はなくなりました。

また、昭和四十年ごろには、それまで雨水などを溜めて使っていた大賀郷の西見・甚太や永郷、そして檜立の伊郷名にも、水が送られるようになりました。

水が届くまで

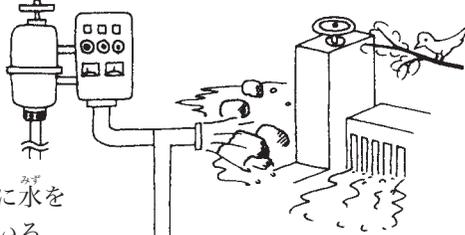
今では、家庭や学

校など、ほとんどの場所に水道があり、わたしたちは自由に飲んだり使ったりすることができます。

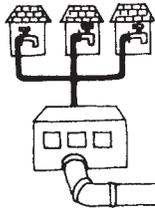
取水口から水道のじゃ口まで

①井戸…ポンプを使って地下水をくみあげます。

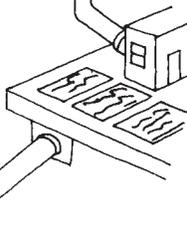
取水口…きれいな水をパイプに取りこみます。



③配水池…さらに水を消毒し、いろいろな所へ配ります。



②浄水場…送られた水の中の不純物を取りのぞいたり、塩素で消毒したりして、さらに水をきれいにします。



使った水やし尿のゆくえ

八丈島

では、昔はし尿（おしっこやうんち）を、畑の肥料として利用していました。また、お風呂や台所の水も地面に捨てていましたが、いまでは各家庭の浄化槽で、よごれた水をきれいにしています。

浄化槽の中に溜まった汚泥かすは、平成二十四年に完成した汚泥再生処理センターで肥料に生まれかわり、島民の農作業に利用されています。

②②



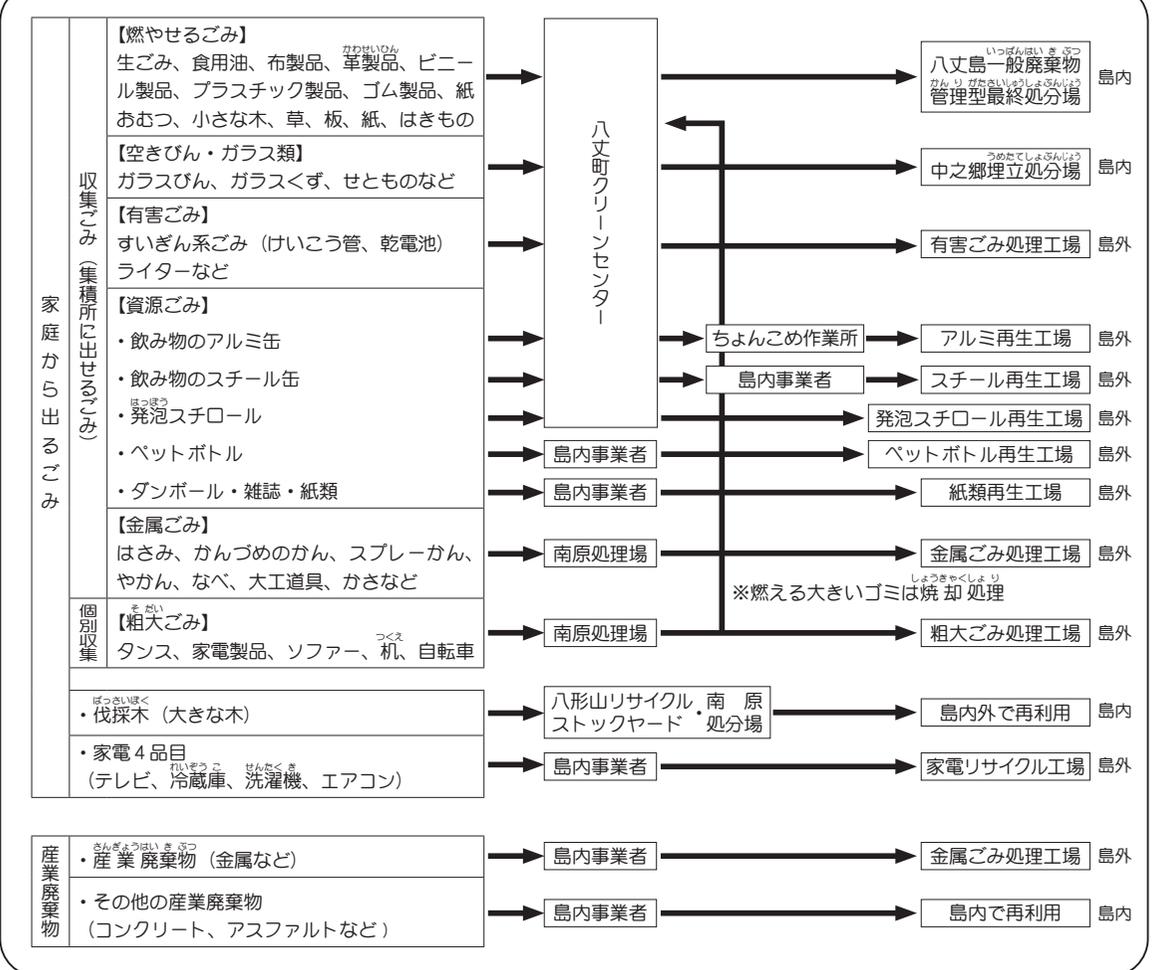
おでいせいせいしより
汚泥再生処理センターでの作業

(二) くらしとごみ

わたしたちは、毎日たくさんのごみを出していますが、このごみ処理は、町の大切な仕事の一つです。昔のごみは、量も少なく、生ごみなどが中心で、家畜のえさにしたり、燃やしたりしていました。最近のごみは、下のようさいきんに種類が多く、腐らないしゅるいものや、燃やすとダイオキシンのような害の出るがいものが多くなっています。ごみは、リサイクルできるものもあります。

⑳

現在の八丈町のごみの種類とゆくえ (町役場住民課環境係作成)



増えるごみ

八丈島のごみについて、町役場の
住民課長さんにお話を聞きました。

燃やせるごみは、新しく令和五年度にできたごみ焼却場（クリーンセンター）で燃やしています。八百五十度〜九百度の高温で処理し、ダイオキシンなどの有害物質の発生を抑えています。伐採した木は南原処分場や八形山リサイクルヤードで処理され、燃料や土壌改良材として利用されています。空きびんやガラスくずは細かくくんで、中之郷埋立処分場で埋め立てしています。空き缶、発泡スチロール、ダンボール、ペットボトル、粗大ごみ、家電4品目（エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機）、金属ごみなどは島外でリサイクルされています。年間約3千トンのごみを燃やすと、十分の一の量の三百トンの灰となり、その灰は

みずみやま
水海山の最終処分場に埋めています。



ごみクレーンを動かす



缶の分別



クリーンセンターの 作業員の方のお話

クリーンセンターでは焼却炉に燃えないものが入らないように、作業員が注意していますが、それでも焼却後の灰の中には乾電池、スプレー缶、ライター、ハサミなどの金属の小物が混ざっています。

また、衣類やロープ等は小さく切らないとクレーンから落ちてしまい、取り除くのには苦労しています。

施設の故障や火災につながりますので、ごみ分別のルールはキチンと守ってくださいね。

(三) くらしを守る

災害に備えて 左の写真は「防災

行政無線」の受信機と無線鉄塔です。

これらの機器は、台風や地震などの緊急放送に使われます。また、ふだんのお知らせなどにも使われます。

こちらは、防災八丈です……。
町役場からお知らせします……。



防災無線機



防災行政無線の鉄塔

いのち 命や財産を守る ① 消防の仕事

火事や事故、病気の人たちの救助に備えているのが、消防本部です。

消防本部は、一日中いつでも出動できるように、救急車や消防車を準備して待機しています。

各地区には消防団があります。皆さんのお家の人や地域の人が入っています。



防火水そう



消防本部の消防車など



八丈町防災訓練

いうときに消防本部と協力してはた
らきます。

消防本部や消防団は、毎年十月五日ごろに「八丈町防災訓練」を町や支庁、警察と協力して行っています。

この日は、昭和五十年に台風十三号で大きな被害があった日なのです。

女性でも

入っている

人がいます。

消防団の

人たちは、

いつもは自

分の仕事を

しています

が、いざと

命や財産を守る②

警察の仕事

八丈島には警察署があり、各地域に駐在所があります。島で、何か事故や事件が起きると、真先に駆けつけて対応するのが警察です。また、パトカーは、定期的にパトロールをしています。

左の写真は、末吉の石積にある石碑です。昭和五十一年に、海に落ちた釣り客を助けようとして亡くなった、新関さんという警察官の顕彰碑です。



朝、警察官

の人が、学校の近くの横断歩道に立って、皆さんに見守りをしたり、学校で交通安全教室が開かれたりしていますね。

交通事故があるとパトカーがやってきて、事故の様子や原因などを調べたりします。また、春と秋の交通安全運動もやっています。

島での、防犯運動や子どもたちの柔剣道の指導などもしています。



電気とくらし

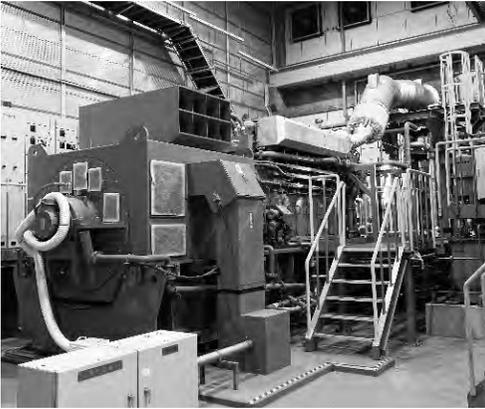
今の私たちの生活は、電気がなかったら成り立ちません。大きな地震や台風、洪水などがおきたとき、テレビなどの報道を見ていると、停電や断水などでの大変な様子がよく出てきます。皆さんも、電気のない生活を想像してみてください。どうなるでしょう。

本土の方の電気は、かなり離れた所から送電線で運ばれてきて、家庭や工場、鉄道などで使われているものがあります。八丈島の発電所は、おおがごう防衛道路の入口の右側にあって、高い煙突が六本見えます。建物の中には、何台かの大きな発電機があり、その時の必要な電力の量

に合わせて動かしています。

八丈島には、第二次世界大戦の前から、伊豆諸島では他の島にはない水力発電所が二つありました。昭和四七年の大きな地震で送水パイプが壊れ、ディーゼル発電だけになって、現在に至っています。

なお、平成十一年から中之郷で地熱発電が行われていましたが、設備の老朽化により廃止されました。現在再開のための取り組みが始まっています。



(四) 暮らしをささえる

住民総会

わたしたちは、もっと豊かで、楽しい暮らしをしたいという願いをもっています。

坂上三地区には「住民総会」という、話し合いのための集まりがあります。

わたしたちの願いが、住民総会を通して、どのようにかなえられているのでしょうか。

中之郷自治会長さんの話

中之郷では、住んでいる人たちから会費を集め、まちづくりをすすめています。この会費をもとに、裏見ヶ滝遊歩道の清掃、盆踊りや体育大会の実施、敬老の集いなどを行っています。

また、美しい街にするために枝や雑草を切り取る里道づくりや道に季節の花を植える仕事もしています。

催しにしても草刈りにしても多くの人たちの協力はかせません。

みんなから集めたお金でする仕事にも限りがあります。たとえば、曲がり角のカーブミラーの設置や暗いところの明かりの取り付けはできません。

そこで、各地区の振興委員が三か月に一回（年に四回）集まり、自分たち

—— 花いっぱい作業ごよみ ——

(しごと)	(月)
ハイビスカスの剪定	2月中旬
くすりまき	5月中旬
スベリヒユ植え、除草など	7月上旬
パンジー植え、除草など	12月上旬

だけではできないことを出しあい八丈町役場にお願ひしていただきます。地区のことに ついて相談していくために、年に一回住民総会が開かれ、年間の予定や役員を決めています。

八丈町役場

町役場は、わたしたちのくらしを支える大事な仕事をしています。町役場では、町民の選挙で選ばれた町長を中心に、いろいろな課や係に分かれて仕事をしています。この章で学習した水道の仕事、ごみの処理、災害からくらしを守る仕事もそうです。このほかにも、わたしたちの戸籍を作る仕事、税金の仕事、町民の健康を守る病院の仕事もあります。

⑬⑳

教育委員会

町役場の中には、教育委員会があつて、学校に關係する仕事をしています。わたしたちが勉強しやすいように校舎などを修理したり、学校で使う道具をそろえてく



三根小学校のプール工事

れたりします。
 また、^{こうみんかん}公民館や図書館、スポーツ
^{ちやうみん}公園など、^{せわ}町民が勉強やスポーツを
 するための世話をしたりする仕事も
 しています。
 ⑮
 ⑳
 ㉑
 ㉒



^{としよかん}図書館



英会話教室



^{きゆうしよく}給食センター



^{ほいくえん}保育園



^{うけつけ}町立病院の受付



ラッピングバス



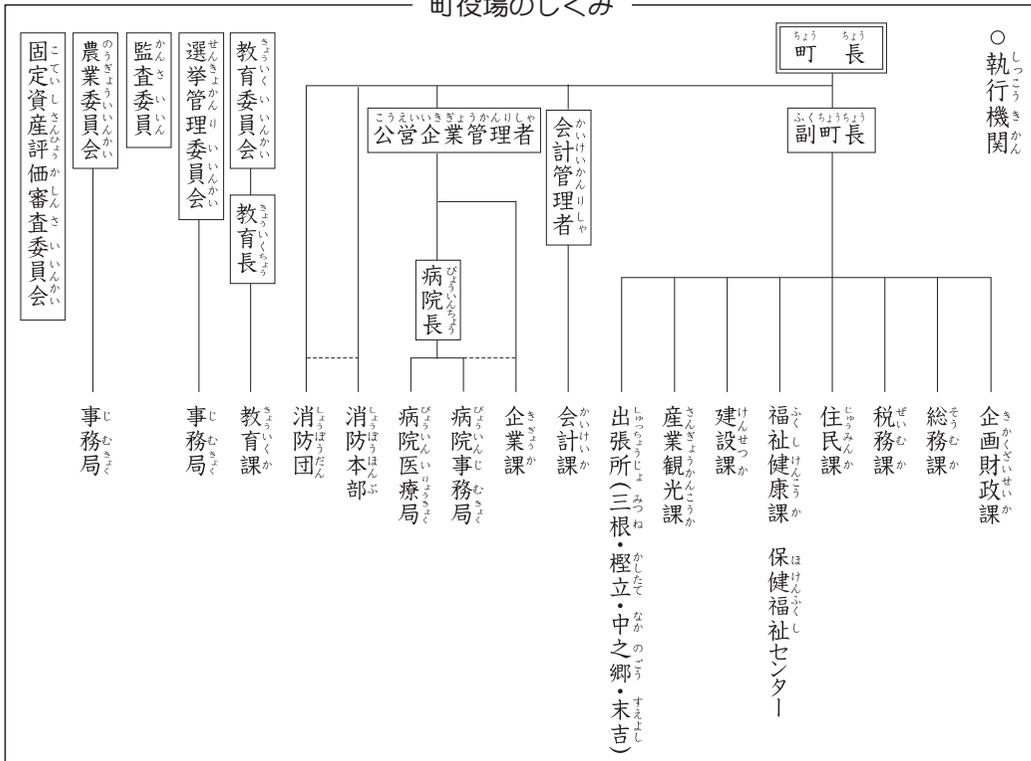
八丈町議会の様子

八丈町議会

町議会は、町民の選挙で選ばれた十二人の町議会議員によってすすめられています。この人たちが、わたしたちの願いや、これからの八丈島の発展を考えた町の

仕事のための予算や、町の大切なきまりなどについて話し合います。特に大事な問題には、特別委員会を置いて取り組んでいます。

町役場のしくみ



○ 議決機関
町議会
議会事務局

○ 執行機関



ちてんひょう
地点標

八丈支庁^{しちちやう}

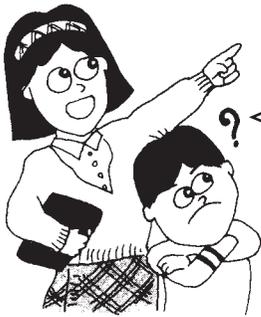
八丈島

は、東京都に含まれていて、わたしたちのくらしをよくする

ために、いろいろな仕事を中心になつて進めるのが八丈支庁です。その他に東京都は写真のような場所で、仕事をしています。
⑪ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓



しちちやう
八丈支庁



あの数字のついた石の板は何かしら？



都島しよ農林水産総合センター



八丈島ビジターセンター



都八丈島園芸技術センター



ほけんじよ
保健所



そっこうじよ
測候所のゾンテ打ち上げ



都立八丈高等学校



みずみやまさいしゅうしょぶんじょう
水海山最終処分場での作業



けいさつかん
警察官



くうこう
八丈島空港



にほんゆうびんかぶしきがいしゃいん
日本郵便株式会社社員



そごどせんきやくまちあいじょとうかいきせん
底土船客待台所 (東海汽船)



NTT・ME

その他の官公庁の仕事
かんこうちよう

その他の大切な仕事
たいせつ

(五) これからの島のくらし

これからの島の仕事 八丈島は、
暖かい気候と美しい自然と海の幸に
恵まれた島です。

島の人たちは、昔からこの自然を
利用して、仕事をしてきました。こ
れからの八丈島の仕事でも、この自
然を利用した地元の仕事をさかんに
していくことが大切です。

そのためには、次のようなことが
考えられます。

一 八丈島にあった農業のしかたを工
夫して、花き園芸をもっとさかんに
する。

二 漁業では漁港をもっと整えたり、

魚を守ったり増やしたりする取組を
広げていく。

三 昔から伝わる黄八丈などの仕事を
大切に育てる。

四 観光業では、観光客が八丈島にみ
力を感じるように取り組み、農業や
漁業などとの結びつきを深めるよう
に考える。

島の仕事は、この四つの仕事に関
係し合って、のびていくことが大切
です。

そのためにも、東京都や八丈町と協
力しながら、さらに研究を深め工夫
を重ねたり、後つぎを育てたりする
ことが必要です。



八丈老人ホーム

豊かな生活をめざして

右の写真

は、老人ホームの写真です。日本は、長生きできる国になりました。

八丈島にもお年寄りが増えてきました。年をとると、体が弱くなりました。病気にかかりやすくなります。そういう人たちを守るためにつくられたのが老人ホームです。また、心や体に障害がある人のために活動も

行われています。みなさんのまわりにも、お手伝いしている人がいます。

②④
③④
④④

このように島に住む人たちすべてが、幸せにくらせるように、みんなで知恵を出しあい、力を合わせてきているのです。

ところで、わたしたちの八丈島をもっとすみよい島にするためには、やる事がたくさんあります。

- 人口を増やす努力をする。
- 道路や港をよくしていく。
- 水道やごみ処理場を整備する。
- 台風や地震、津波、噴火、火事などに備える。

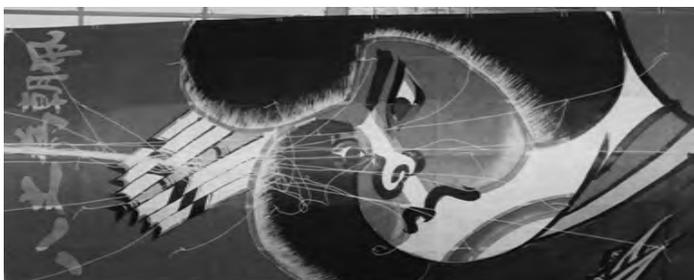
○ 健康なくらしができるように、病気を予防したり、より良い病院にし



だいこ
八丈太鼓



かしたて
樫立おどり



ためとも
為朝だこ

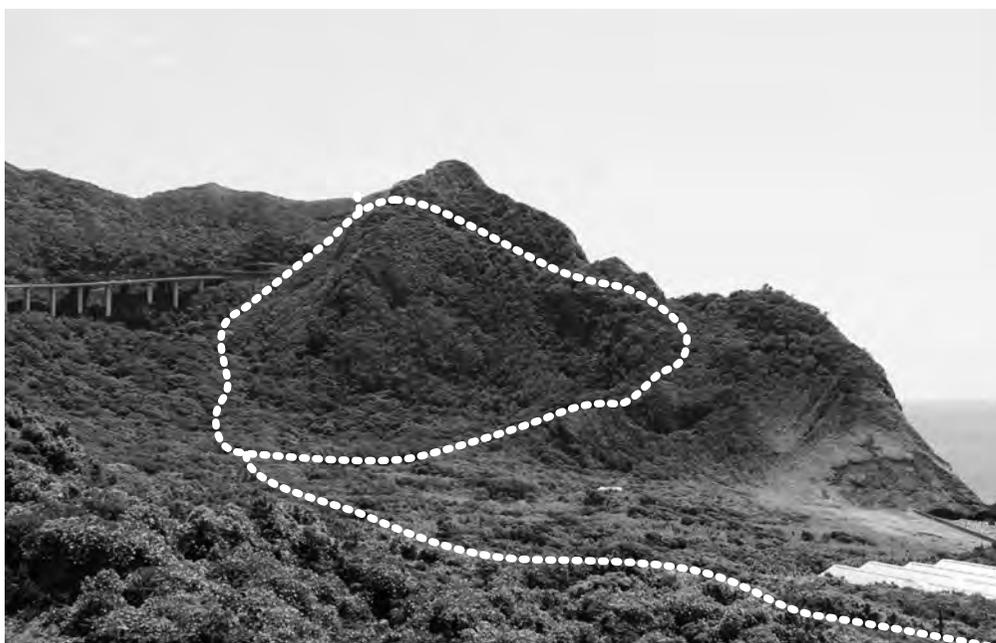


たかくら かや
高倉 (茅ぶきでねずみ返しがある)

- たりする。
- お年寄りや障害のある人のくらしをよくしていく。
 - 美しい自然を守り、昔から伝わるものを大切にします。
 - 豊かなくらしができるような土地の使いかたを考える。

これからの八丈島や日本、世界が、よくなるかどうか、ということとは、みなさんの今と、これからの勉強や努力にかかっています。

五 島の人々のくらしと交通



横間の旧道 (点線は旧道)

幅の広い舗装された道路が、島内を一周しています。また、坂上と坂下を結ぶ横間道路には、大坂トンネルがあり、坂上の人は坂下へ、坂下の人は坂上へと、いつでも行き来ができます。

そして、大型化された船や飛行機が、毎日、東京と八丈島を往来しているのです。わたしたちのくらしはたいへん便利で豊かです。

では、昔からこのように便利な生活をしていたのでしょうか。

これから、昔と今の八丈島の島内や、本土との交通について、みんなで調べながら、学習していきましょう。

(一) 島内の交通

きゆうじゆう 旧道を歩いてみよう みなさんの

住んでいる地域の旧道を歩いてみましょう。お年寄りなどに「昔の道」を聞いてみるとよいです。

旧道は、曲がりくねった道が多く坂道もあります。昔の人々は背負子に荷物をつけて坂道を歩いて運びました。女の人は、背負い籠を背負ったり、頭の上に荷物を乗せて運んだりしました。大きな荷物は牛の背に乗せて運びました。昔の人々は、自分たちの地域で生活することが多く、あまりよその地域へ行ったりするこどがなかったようです。旧道には、お地藏様や道しるべになるものがある

ります。探してみましよう。

背負籠をせおう
—昭和の中ごろ



旧道 (三根：矢崎)



頭の上のせて運ぶ
(潮波み)
—昭和の始め



地藏様 (大賀郷：馬路)

大賀郷の旧道を訪ねて

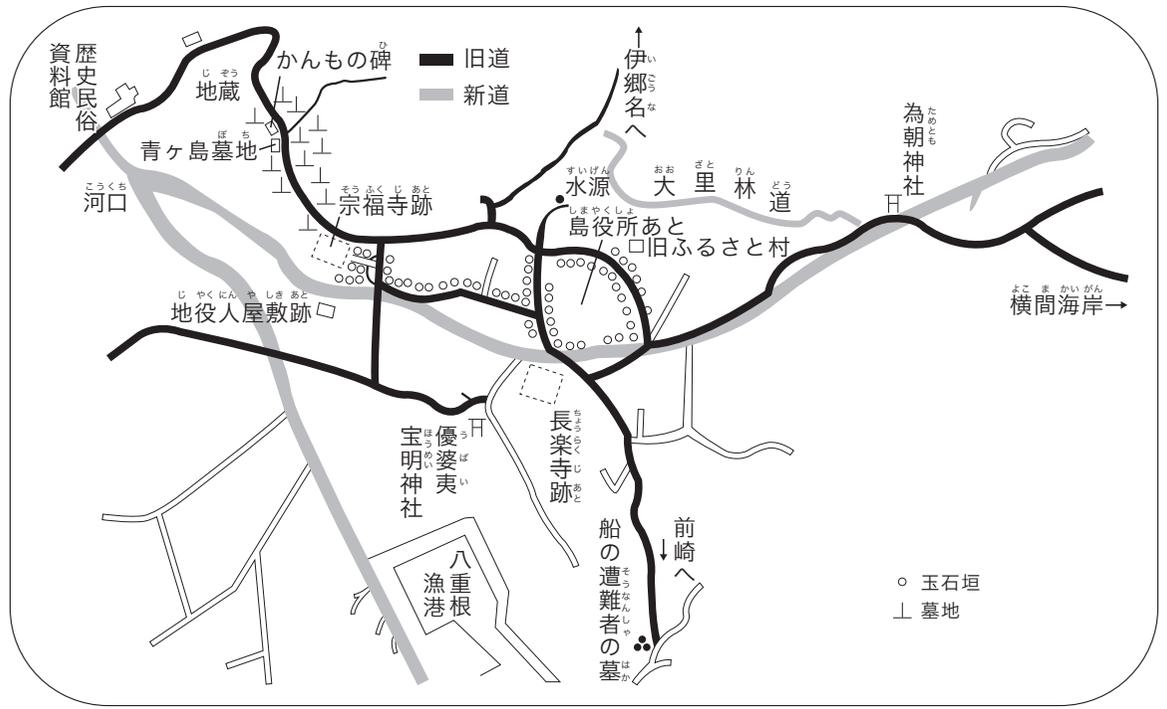
下の図は

大賀郷の歴史民俗資料館の横から
 為朝神社までの、新しい道と古い道
 の地図です。玉石垣に囲まれた家の
 まわりの曲がりくねった道は旧道で、
 水源や海、畑へ続いています。

歴史民俗資料館の横から入って行
 くと、地藏様や、古い墓石がありま
 す。大木におおわれ、落ち葉を踏ん
 で歩く、このあたりは、馬路といわ
 れています。

馬路に続く大里は、昔は、島の中
 心地でした。元の宗福寺や陣屋のあ
 とや玉石垣などが残っています。さ
 らに行くくと横間海岸から、檜立に登
 る大坂峠の旧道へと続きます。

大賀郷、大里の旧道と新道の略図



大坂トンネルと道路

坂上と坂下

を結ぶ大坂トンネルは、島の交通にとって、とても大切な所です。

では、大坂トンネルができる前の坂上と坂下の行き来は、どうしていたのでしょうか。

榎立側には大坂峠、末吉側には登龍峠の急な坂があります。これらの坂には細い道がつけられていましたが、登り下りが急なので島の人々は一日がかりで行き来をしていました。『八丈島誌』に、次のような榎立の八助おじいさんの話のついでに、

大坂峠の道は、とても険しく、こまつたな。坂の中には、とがった石もある。

り、登るのはどうにかなったけど、坂下へ下るのがこわかったよ。背負子に荷物をつけて下るとき、背負子が石のはしにあたろうものなら、ぶっこちそうになって、おっかなかったぞ。

榎立・中之郷の人たちも、わざわざ末吉まわりで、坂下に下ったものだよ。

そこで、大坂峠にトンネルをつくらんと、という計画が考えられ、一九〇五年（明治三十八年）、島司（今の支庁長）であった阿坂多一郎という人や各村長が中心になり、日露戦争に勝った記念としてつくることになりました。

道はそれまでの横間が原の小道を広げるのではなく、新しく大里から

大坂峠までの広い道をつくり、長さ百七十メートルのトンネルを掘る、というものでした。

そのころ、島では「そんなことができるわけない」、と考えていた人が多かったのですが、阿坂島司は計画をかえませんでした。

その工事には、島の人たちは夫役（割りあて^わ）られて、ただではたらくこと）で参加^{さんか}した場合があります。夜も道づくりやトンネル掘りに協力^{きよう}しました。しかし、地質^{ちしつ}が弱く、何回もくずれて、何人かの人が犠牲^{ぎせい}になりました。

トンネルは、檜立側と、大賀郷側^{おおかごう}から掘られ、二年間かかって、一九

○七年について完成^{かんせい}しました。

このトンネルによって、坂上と坂下の行き来が、とても便利^{べんり}になりました。

しかし、そのトンネルは、今のはちがい、せまくて、荷馬車^にが一台通れるだけのものでした。また、電燈^{とう}もなかったので、まっ暗でした。



大正13年頃の大坂トンネル（車が通れるようになった）



今の太坂トンネル（令和2年）



八丈島で運ばんに使われた牛車 (昭和28年ごろ)

かわつてきた交通

大正時代にな

ると、七〇ページの図のように、旧道と別に広い新しい道（新道）がつけられました。

しかし、大坂トンネルができたり、新道がつくられても、物を運ぶのは人や牛の力でした。ところが、

一九一〇年に大八車^{だいはちぐるま}が島に入り、その後は馬力^{ばりき}といわれた牛車が使われました。一九二五年になると、初めて貨物自動

車が牛乳や船の荷物、炭などを運ぶようになり、

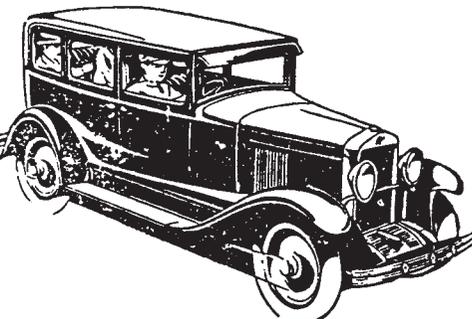
昭和四年からは、「乗合自動車」も

走り始めました。貨物自動車も

乗合自動車も初めは坂下^{さかした}だけを走っていました。が、その後は中之郷^{なかのこう}・末吉^{すえよし}にまで行くようになりました。

しかし、ふつうはとなりの地

乗用車の御用は……



是非朝日運翰へ御用を命!!

……電話十(島丈八)番……

菊池寛六
奥山秀雄

乗用車営業開始

キツト御氣に召す

乗心地百パーセント

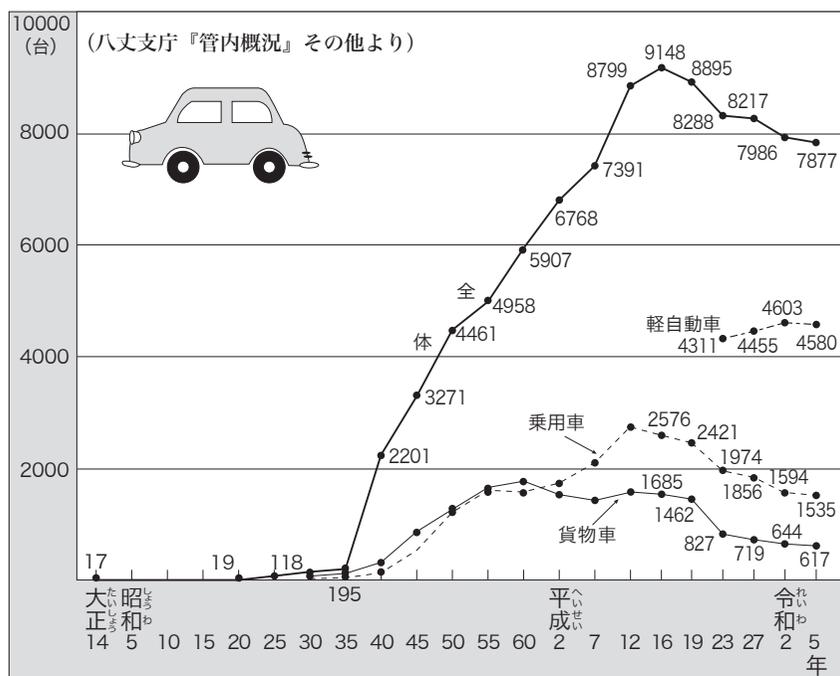
迅速・親切をモットーとする

当店へ是非!

朝日運翰

電話八丈島十番

自動車のふえかた (バイクをふくむ)



域に行くことも少なく、行くときがあっても、自動車に乗らずに歩いて行くのがほとんどでした。
戦争が始まると、ガソリンや車の

部品もなくなってしまう、自動車の仕事もできなくなっていました。

戦争が終わって、ふたたび自動車が使われるようになり、昭和二十三年からは、島で「運転免許試験」も始まりました。

その後、昭和三十年ごろから道路を広げる工事が始まり、八丈一周道路づくりや道路の舗装も進められ、大坂トンネルも今のようにつくりなおされました。

このような中で、自動車は昭和三十五年ごろから台数がどんどん増え、今ではほとんどの家で乗用車を持つようになり、近い所でも車で行くことが多くなりました。

(二) 島と本土との交通

毎日来るようになった船 わたし

たちの島は、何千年前の大昔おおむかしから、よその土地との行き来には船を使うしかありませんでした。現在げんざいでは、飛行機ひこうきやヘリコプターなどもありますが、それはここ約七〇年以後のものです。特に、昔むかしの船は乗り心地ごこちも悪く、海が荒れると遭難そうなんするなど、命がけの危険な乗り物でした。しかし、船なしの島のくらしはありえないものでした。今でも、船の欠航けっこうが何日も続いたら大変たいへんことになることは、皆さんも知っているでしょう。次のページの年表を見てください。海上交通こうつうの便べんが良よくなってきている

ことがわかります。しかし、それは自然しぜんになったものではなく、先人せんじんたちが自分たちの力で努力どりよくしたり、政せい府ふや船会社に交渉こうしょうするなどを行なった結果けつかだったのです。

江戸時代えどじだいは、幕府ぼくふの船は年に二回来るだけでした。明治時代めいじになって、小笠原おがさわらへ行き来する船が年に数回寄る程度ていどでした。明治の終わりになつて、やっと毎月一回船が来るようになり、しだいに船便ふなびんが増え、昭和十年ころに、定期船ていきせんが毎月三回行き来し、小笠原航路こうろの船も年に二十回ほど寄るようになりました。しかし、人々が島を出入りするということは、大変難むずかしかったのです。

◎海の交通の歴史

『八丈島誌』より

M=明治時代、T=大正時代、S=昭和時代、H=平成時代 t=トン

年 代	できごと
江戸時代の終わり	幕府の船が3隻あり、年に2航海していた。民間船もあった。
明治時代の始め	官船がなくなり非常に困った。帆船を造ったり、雇い船をしたが、失敗が続く。
1887(M20)年	政府は、小笠原開発のため、八丈經由の小笠原航路を開き、半分軍艦の明治丸(1028t)を年2回走らせることにした。
1888(M21)年	政府補助金により、日本郵船が、横浜～八丈島～小笠原を年4回運航。
1894(M27)年8月	日本郵船が横浜～小笠原母島航路を、3隻(721～1398t)の船で年6回運航。八丈島にも寄港。
1902(M35)年3、4月	東京～八丈間を数回試験運航したが、運航をあきらめた。
1906(M39)年夏	八丈島有志代表により八丈島航路を開くことについての要望。
1908(M41)年5月	東京～八丈で、大の浦丸(199t)試験運航、後、命令航路として続けて運航。
1910(M43)年4月	八丈島有志総代の浮田欽吉、山田喜代吉両氏と東海汽船が、東京～八丈島航路(月1回以上)の契約をする。
1920(T9)年5月	南洋群島が委任統治地となり、日本郵船が中国の拿捕船・芝罘丸(別名、芝園丸。1934t)、筑後丸、赤城丸などを運行し、途中八丈に寄港した。
1922(T11)年5月	八丈丸(345t)、八丈島航路に初就航。東京～八丈島線が郵便物輸送航路となる。
1925(T14)年4月	八丈丸、神湊で遭難、沈没。船員13名死亡。
1926(T15)年4月	東海汽船、府知事より、三宅寄港、八丈島定期航路の命令を受ける。 神湊の岸壁、船溜まりなどの整備が進んだ。
1930(S5)年10月	東海汽船、八丈島寄港の小笠原行航路をはじめ。主に桐丸(531t)。1年で廃止。
1932(S7)年ころ	南洋定期船が年3回寄港。 日本郵船南洋航路定期船筑後丸が年3回寄港。
1933(S8)、34年ころ	観光団が来島するようになる。
1934(S9)年	茂手木八百一の努力により、神湊修築工事決定。内務省の指定港湾になる。
1935(S10)年7月	八丈島汽船運輸組合が横浜の木村組と契約し、月の3と8の日に貨物輸送を行った。1936(S11)年3月に廃止になる。
1935(S10)年ころ	近海郵船小笠原航路は年16回寄港だったが、往路26回、復路16回寄港。 東海汽船の定期船は、毎月3回就航。 八丈汽船運輸組合の高運丸(700t)が月6回就航。1年弱で中止。
1936(S11)年8月	東海汽船「橘丸」で460人の観光団が来島。
1945(S20)年	復員兵800名を乗せた桐丸が、台風により三宅島で沈没。死者2名。
1946(S21)年	東海汽船の「高千穂丸」が不定期で就航。
1947(S22)年7月	東海汽船の貨客船「黒潮丸」(496t)が毎月6回来る(所要時間13時間)。
1951(S26)年	120万燭光の八丈島灯台できる。無線方位信号所ともなる。
1953(S28)年	離島振興法が公布され、離島整備の法的根拠ができる。
1956(S31)年	黒潮丸、毎月7回来るようになる。
1961(S36)年4月	大越鼻灯台できる。
1962(S37)年6月	八丈島接岸港促進連盟がつくられ、活動が続いた。
1965(S40)年8月	底土接岸港ができあがり、2000t級の船が横づけできるようになる。
1968(S43)年	貨物船「弥栄丸」(320t)が週3回来るようになる。
1971(S46)年	大型客船「ふりいじあ丸」(2286t)が毎週5回、三宅島寄港で就航する。
1978(S53)年4月	大型客船「すとれちあ丸」(3708t)が就航する。
1985(S60)年5月	八重根港に初接岸。底土港に船客待合所ができる。
1991(H3)年10月	本船が御蔵島に週1回寄港するようになる。
2012(H24)年1月	八重根船客待合所、完成。
2014(H26)年6月	大型客船「橘丸」(5681t)就航。底土港船客待合所が移築。

昭和22年より



黒潮丸 (496トン、全長50m)

たいへいようせんそう
太平洋戦争が

終わり、昭和二

十二年に黒潮丸

が月六回、十三

時間ぐらいで来

るようになり喜

ばれました。

しかし、そのころは、まだ直接接

岸がでできる大きな港みなとがなく、神湊かみなと、八

重根えね、洞輪沢ぼらわのざわなどの港では、本船ほんせんは

沖にとまって、「はしけ」とよばれる

小さな船で、人や

荷物にもつを何回にも分

けて、港と本船の

間まを往復おうふくしました。

島の人たちは、



はしけ

はしけを使っていたころの

おじさんの話

はしけで三十分ほど揺られて本船にのりかえたが、のりかえる前に酔ってしまっていたいへんだった。黒潮丸は小さいので、揺れが激しく、ベルトをはずしてつり皮のようにして体を支えることもあった。牛もいっしょに甲板かんばんにつないで運ぶこともあり、尿にょうはたれ流ながされていたのでくさくてこまった。そのうえ、天候てんこうが悪いと二十時間ほどかかり、ほとんどの人が酔ってしまい、たいへん苦勞くろうの多い船旅せんりょだったなあ。

大きくて速はやい船が横よこづけでできる港が

できることを願ねがっていました。そし

て、昭和四十年、ついに底土そこどに二千

トン級きゅうの船が横よこづけでできる港ができ

たのです。⑰

しかし、底土港は強い北東風が吹

くと欠航けっこうになることが多いため、反はん

平成14年より



さるびあ丸 (4965トン、全長121m)



かめりあ丸 (3837トン、全長103m)

対側の八重根港の整備が必要とされ、昭和六十年に、やっと港が完成しました。②⑤

今では、船は大型になり、スピードも増し、十時間ほどで来るようになりました。また、回数も毎日一往復になっています。

しかし、台風や大きな低気圧が来ると、船が欠航になります。欠航の

昭和46年より



ふりいじあ丸 (2361トン、全長84m)

昭和53年より



すどれちあ丸 (3700トン、全長111m)

回数や底土・八重根港への接岸回数は、年によって大きく変動していて、異常気象の影響などは感じられません。(82ページの「一覧表を参照」)

また、客船だけでなく貨物船も週に二回来ています。多くの荷物は、コンテナに入れて運びます。それまで、一個一個バラバラだった荷物が、



港についたコンテナ



コンテナを積み降ろしする貨物船

コンテナにまとまって入れられるようになったため、荷づくりや船の積み降ろしが楽になり、また、荷物のいたみも少なくなって、大変便利になりました。ただ、船のコンテナと東京などで使っているコンテナではサイズが違うため、積み替える必要があり、不便です。

便利な空の交通

長い間、本土との交通は船だけだったため、急ぎの用事や急病のときなどには、とても困ることがありました。

昭和二十七年、二つの高校の生徒や連合青年団など七百人が、戦争中につくられた飛行場の草を刈り、ゴツゴツの土をローラーでならすなどの滑走路整備作業を行いました。

これと同じように、八丈

島村長会は、

民間航空会

社と連携し

て航空路を開

設の申請を

旅客大人片道運賃(飛行機)の移り変わり (単位:円)

年 度	機 種	運 賃	そのころの 初 任 給
昭和30年	ビーチクラフト	4,400	4,900
40年	フレンドシップ	4,600	14,400
50年	YS11	7,600	64,200
60年	B737-500	11,610	95,500
平成8年	B737-500	12,650	139,300
10年	B737-500	14,050	140,700
12年	B737-400	16,500	141,900
17年	A-320	16,700	140,100
20年	A-320	18,200	138,400
23年	A-320	19,800	140,100
28年	A-320	22,390	142,100
令和2年	B737-800	20,390	148,600

で最も着陸の難しい飛行場と言われ、専門の資格も必要な飛行場です。

さらに、悪天候による欠航、満席で乗れない時期がある、などの問題がありました。そこで、昭和五十七年から、空港が広げられ、いろいろな設備が整えられて、ジェット機が飛ぶようになりました。そのために、近くの家約百軒と富士中学校や保育園が移転し、三根小学校の校舎の位置も変わりました。

平成十二年にYSプロペラ機が廃止。平成十六年九月にジェット機の大形化や運航の安定化のために滑走路が二〇〇〇メートルに延長され、現在は、A—320、B737—

800も運航されています。②

平成十七年度には、八丈町と全日空で取り交わした、「年度内に昨年度実績を一人越えたら運賃値下げを継続する」という課題について、町は「一人プロジエクト」に取り組み、達成したということがありました。これは、今も「木島平との交流」などに残っています。

平成元年から実験運航した後、平成五年八月から、伊豆諸島の島々がヘリコプターで結ばれるようになりました。特に、青ヶ島や御蔵島の人々には、この愛らんどシャトルと呼ばれるヘリコプターは、大切な交通機関となつています。⑤

◎1年あたりの、船便の欠航の回数 東海汽船調べ

年	2007	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
欠航回数	30	48	34	41	40	48	50	43	35	34	41	41	37	35	45	36	30
八重根寄港	51	41	23	24	17	9	2	4	10	7	14	6	8	17	18	32	9

◎空の交通の歴史 『八丈島誌』より

年 代	できごと
昭和2年	神止山(富士中学校)前に、海軍旧飛行場が造られた。昭和5年に拡張。滑走路の長さ約800m。
昭和19年	現在の飛行場のもとになった海軍の飛行場が、朝鮮人労働などによって造られた。
昭和27年	朝日新聞社の飛行機、八丈島で不時着試験を行い、無事成功。八丈高校生、明治大学付属高校生、青年団など700人の勤労奉仕で、滑走路の整備を行った。
昭和29年	村営空港として開港。青木航空、7人乗りのビーチクラフト機で東京と八丈の空の交通がはじまる。切り花の輸送はじまる。
昭和30年	日ペリ航空就航。双発ダブ機になり、毎週2回来るようになる。種籾の輸送はじまる。
昭和31年	青木航空が日本遊覧航空と社名変更。双発ダブ機が週4回くるようになる。
昭和32年	日ペリ航空、極東航空と合併し、全日空となる。
昭和33年	観光地としてのブームがはじまる。金環日食観測のため、多数来島。日本遊覧航空が、週2回就航し、航空郵便取り扱いはじまる。東京都が本格的な八丈空港の建設に着手する。
昭和34年	全日空の15人乗り4発ヘロン機が来るようになり、初めて客室乗務員が乗るようになる。
昭和35年	30人乗りのDC3型機が毎週2回来るようになる。日本遊覧航空が藤田航空と改名。ヘロン機が名古屋とも行き来するようになる。
昭和37年	空港ターミナル、ラジオビーコンなどが建設され、「東京都管八丈島空港」として使用開始。滑走路が1200mになる。新聞の空輸がはじまる。
昭和38年	40人乗りのフレンドシップ機が来るようになり、1日5便となる(東京ーフレンドシップ2便、ヘロン2便。名古屋ーヘロン1便)。ヘロン機が八丈富士に墜落し、乗員・乗客19名全員死亡(8月18日)。藤田航空が全日空に合併した。
昭和42年	滑走路のかさ上げ着工。長さを403m延長して1320mになる。
昭和44年	64人乗りYS11型機が来るようになる。(YS3便。フレンドシップ4便)。航空券予約にコンピューターが導入される。
昭和45年	八丈島路線が、全日空の路線で利用率全国1位になった。名古屋直行便はじまる。
昭和47年	滑走路を1500mに延長。
昭和57年	滑走路が1800mに延長され、色々な設備がととのえられて、ターミナルが、滑走路反対側の現在地に移転。126人乗りのジェット機(ボーイングB737-500)が来るようになる。
昭和60年	名古屋便が休航になる。
平成元年	全便、エア・ニッポン(全日空の会社)運航になる。ヘリ・コミューターの実験運航はじまる。
平成5年	ジェット機の便数がふえる。ヘリ・コミューター(愛らんどシャトル)の正式運航がはじまる。
平成8年	ヘリ・コミューターが毎日就航するようになる。
平成12年	YS便がなくなり、B737-400(愛称アイランドドルフィン)が1日4便運航される。
平成16年	滑走路が2000mに延長される。
平成17年	エアバスA320就航。大島経由便運航開始。浅沼町長、「1万人プロジェクト」を成功させる。
平成21年	大島経由便廃止。1日3便の運航となる。
平成25年	管制業務が羽田空港に移転される(現在は、新千歳空港で行っている)。
平成29年	GPS(全地球測位システム)による運航により、就航率が向上する。航空運賃島民割引カード(アイきっぷ)はじまる。
令和2年	新型コロナウイルス発生により、減便などの影響が出る。

六 八丈島の移り変わり



①東光丸の碑 (末吉、台ヶ原)



②ランプ



③水がめ



④自在かぎ

わたしたちは、これまで、今の八丈島のようなすや島の人たちの仕事、くらしの工夫などを調べてきました。しかし、今のようになるまでには、いろいろなできごとや人々の苦勞などがありました。

昔を訪ねて 上の①の写真は、太平洋戦争のとき、八丈島の人を乗せた疎開船「東光丸」が沈められ、多くの人が命をなくした悲しいできごとをしるした石碑です。②・③・④の写真は、昔の八丈島の人々が使った道具です。⑮

昔のようすを知るには、このように、残っている昔の物を調べるやり方があります。



うらみ がたき なかのごう
裏見ヶ滝の用水 (中之郷)



かしたて
いぶりやの池 (榎立)



水の碑
(末吉)



すうじゆつしよにゆう (まちしよぞう)
「数術初入」(町所蔵)



ほうそこの碑 (三根)

ほかには、昔の人々が生活していた所を掘ってみる方法(発掘)、言い伝えや昔話を調べる方法、昔書か

れたもの(古文書)を読む方法などがあります。

年表をみて これから、八丈島の

移り変わりを、次の八つに分けて学習していきます。

- (一) おおむかし 大昔の八丈島
- (二) むろまち 室町時代の八丈島
- (三) えど 江戸時代の八丈島
- (四) せんそう 戦争前までの八丈島
- (五) 戦争中の八丈島
- (六) 戦争後の八丈島
- (七) たんじよう 八丈町の誕生
- (八) 昔から伝わるもの

この本のうしろに八丈島のできごとの年表があります。それも利用しながら学習していきます。

(一) 大昔の八丈島

八丈島には数千年前から人が住んでいたことがわかっていきます。その人たちは、丸太を石の道具で彫って船をつくり、黒潮を渡って来たのでした。そのころのようすは、次の遺跡の発掘の結果から、わかったものです。

湯浜遺跡・倉輪遺跡 両方の遺跡

とも、榎立の元温泉ホテルの敷地内で発見されました。

湯浜遺跡は、昭和三十七年の夏に、三原中学校の生徒が磨かれた石おのを発見したことがきっかけになって、調査が始められました。

倉輪遺跡は、昭和五十二年に発見

(48)

湯浜遺跡と倉輪遺跡 (湯浜遺跡・倉輪遺跡の発掘調査報告書より)

		湯 浜 遺 跡	倉 輪 遺 跡
発見	ようす	榎立温泉ホテルの温室工事現場から三原中の生徒が石おのを発見	榎立温泉ホテルの温水プール工事による。
	年月日	昭和37年夏	昭和52年9月
本格的調査		昭和39年3月、昭和52年2月	昭和53年3月～昭和61年5月までの7回
出てきた物	家あと	たて穴式2、ろあと、土のあな	家あと2、ろあと5、土のあな4
	土器	厚手でもようのないもの	近畿・関東などからきた縄文式土器
	石器	石おの、たたき石、石ざらなど	矢じり、みがき石、石ざら、と石など
	動物		イノシシ(多量)、犬・魚・鳥・クジラなどの骨
	その他		人骨(大人の男1人、大人の女2人分)かざりもの(みみかざり、ペンダント)
年代		約7000年前	約5000年前

され、人骨や耳かざり、ペンダント、犬やたくさんのイノシシの骨などがみつかりました。(49)

これらの遺跡の調査から、次のよ



たてあな 縦穴住居跡の断面 (白く細長い物は竹串で、炭粒を表す) (湯浜遺跡)



せつき 石器・土器 (湯浜遺跡)

うなことがわかってきました。

① 八丈には、七千年ほど前から人が住んでいたこと。しかし、ずっと住み続けていたわけではないこと。これは、人の住んでいたあとや出た炭を調べてわかりました。

② 人々は、島伝いに移って来て、また移って行った、あるいは死に絶えたこと。それは、遺跡の規模、神津島産の黒曜石の矢じりや本土から持ち込んだ土器、丸木舟を作ったと思われる石器が出ていることからわかりました。

③ 水が近くにあり、木の実や山いも、魚・貝・鳥などが手に入りやすい場所に住んでいたこと。倉輪遺跡

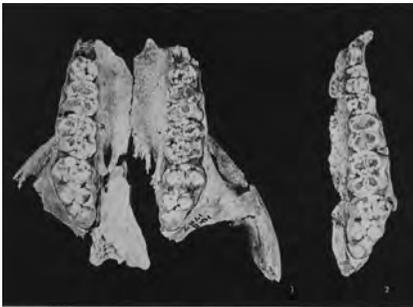
倉輪遺跡から出たもの



石のかぎり物



黒曜石などの矢じり



イノシシの骨

時代に、犬やイノシシの骨がたくさん出ていることから、以前に持ち込んで増えたイノシシを狩りしたのではないかとも考えられます。生活は、自然のきびしさや食べ物が限られていることなどから、かなりたいへんだったと思われる。

八重根遺跡

八重根漁港を広げる

工事を行っていたところ、地層の中に三つの層になって含まれる、弥生時代から江戸時代ころの遺跡が発見されました。

魚や海草などを煮たたくさんの独特な土器や炉のあと、糸をつむぐ道具、鎌倉時代ころに本土で使われた中国のお金、ふいごの破片なども出土しています。農業については、稲もみのあとが見ついた奈良時代の土器が出ており、鎌倉・室町時代のイネ・アワ・オオムギもありました。



地割れの海砂

八重根遺跡から出たもの

江戸時代の地震の時に、地割れに津波の海砂が入り込んだものも見つかっています。



中国の古いお金と糸つむぎの石

八重根遺跡 (発掘調査 昭和62年10月～平成3年5月までの4回)

(『八重根遺跡発掘調査報告書』より)

	第1文化層 (地層の第VI層)	第2文化層 (地層の第IV層)	第3文化層 (地層の第II層)	
時代	弥生時代後半～古墳時代前半	古墳時代後期～奈良・平安時代	鎌倉時代～江戸時代	
出てきた物	炉・土杭	炉121、土杭8	土坑群	
	石器	石器を作ったかけら		
	土器	弥生式 (煮炊き用のかめ、貯蔵用のつば) 古墳時代のお碗、杯 (本土産)	厚手の独自の物 (魚・貝・海草の煮炊きに使ったつば・かめ・はち・碗・杯)	陶磁器
	その他	糸つむぎ用の石		ふいごの部品、中国の古いお金、牛一体分の骨 (うめられたもの)、地震の地割れのあと、大溝、玉石垣
栽培植物		土器にイネもみのあとがある	イネ・アワ・オオムギの栽培	

※火の湯遺跡 (平成元年8月発掘) の調査で、平安時代に海水から塩を作っていたこと、奈良時代に八丈にイネがあったことがわかった (栽培したかは不明)

(二) 室町時代の八丈島

室町時代の末の八丈島

八丈島は、鎌倉時代には幕府によって直接治められ、また室町時代には、関東管領である上杉氏の家来であった、神奈川の奥山氏によって支配されました。支配といっても、三年に一度ほど船で絹織物を運ぶ程度でした。

室町時代の末になると、神奈川の奥山氏、三浦の三浦氏、小田原の北条氏の争いの場となり、最後は北条氏が勝利しました。

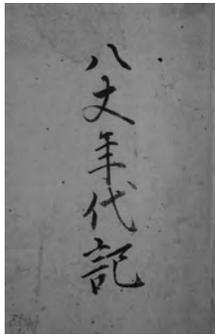
この争いの原因も、「丹後（絹織物）」であったと言われています。上杉氏の支配のころから「丹後」につける印が決まっています、北条氏の支

室町時代の八丈島支配

この表の人名は、ずっと八丈にいた者もあるが、来島した者をそのつど書いたものもある。

(『八丈実記』より)

領主名		奥山氏 (上杉氏)	北 條 氏	三 浦 氏
本拠地		神 奈 川	小 田 原	三 浦 半 島
上杉時代	1338(南北朝時代)	奥山伊賀、菊池治五郎		
	1456(室町時代)	佐右衛門		
	1483(戦国時代)	奥山八郎五郎忠茂		
	1486(")	奥山新五郎忠利		
二者並立	1490(")		朝比奈(あさひな) 六郎	
	1498(")	奥山式部(八郎五郎忠弘)	長戸路(ながとろ) 七郎右衛門	
	1503(")		菊池右馬之助	
	1505(")	奥山八郎次郎忠督		
三者並立	1507(")		太郎三郎	奥山彌三郎(やさぶろう)
		(坂下・檉立・小島を支配)	(末吉・青ヶ島を支配)	(中之郷を支配)
	1512(")		左衛門太郎(三浦に降伏)、藤兵衛	
戦争	1513(")		長戸路十兵衛真隆	
	1514(")	奥山八郎五郎北条に降伏	奥山八郎五郎(左の神奈川代官と同一人物)	
	1515(")	奥山八郎次郎入島 奥山八郎五郎北条に降伏	(北条軍の勝利と支配)	奥山彌三郎入島 奥山彌三郎北条に討たれる
北条時代	1516(")		長戸路七郎左工門、水野七郎左工門	
	1517(")		弥藏(やぞう)	
	1522(")		奥山式部忠督(元神奈川代官八郎次郎改め)	
	1525(")		奥山与次郎忠俊	
	1527(")		長戸路七郎左衛門真定	



配のころには、年貢が「鬼丸」・「蛇丸」という船で運ばれたと言われるほどで、八丈は絹の産地として重要だったのです。

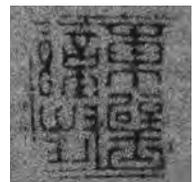
現在の八丈島には、奥山・菊池・浅沼（長戸路）などの姓が多くあります。これらの姓は、代官として八丈島にやって来て、その後も地役人や神主などとして島の支配層となりました。家柄に関係のある姓です。

生活のようすはよくわかっていませんが、少ない記録の中に残っているものを見ると、噴火や飢饉などで苦しんだようすがわかります。

小田原北条氏が使わせた丹後に付けた印



龍泉美記の印



東壁謹封の印

(東京都公文書館蔵「八丈島古文書類」より)

飢饉や災害の記録

『八丈実記』より

1456 (康正2) 年	9月に大風がふき、また、病気が非常にはやった。飢饉で、牛を食いに山に入った。
1487 (長享元) 年	11月噴火(ふんか)。島中ひどい飢饉になった。
1503 (文亀3) 年	春、干ばつで大地が乾(かわ)いて割(わ)れた。2月には雪や霜(しも)が何回もふった。
1505 (永正2) 年	大飢饉。3年間山に住み牛を食った。牛を食わなかったのは役人や神主(かんぬし)など18軒(けん)だけだった。
1506 (永正3) 年	飢饉で作付ができなかった。種などをお願いしに国地に船が出、帰ってみんなで分けた。この年麦のできがよかったので、死人はなかった。
1510 (永正7) 年	元旦(がんたん)に大風。1月2日に洪水(こうずい)になった。
1511 (永正8) 年	大風がふき作物はとれず、死んだ人が出た。
1512 (永正9) 年	飢饉で年貢(ねんぐ)を1年分おさめられなかった。
1518 (永正15) 年	富士山が噴火。6年続く。特に、1522(大永2)年と翌年は、大きい噴火であった。人家に煙(けむり)がかかり、麦や蚕(かいこ)がだめになった。
1532 (天文元) 年	麦がだめになった。餓死人(がしにん)が多く、5つの村とも牛を食いに山に入った。

※日本では、けもの肉を食べることは、奈良時代から江戸時代まで許されていなかった。

八丈島では、明治時代の初めても牛を食べて処罰されている。



うめつじのりきよ
梅辻規清
(なかの郷)

うきたひでいえ
宇喜多秀家
(おおが郷
(大賀郷))

⑬ 流人は、二百六十五年間に千九百人ほどになっていきます。流罪の理由にはその時代を特徴づけるものもあり、現代では考えられないようなものもありました。

江戸時代になると、八丈島は幕府に直接治められるようになり、また、多くの流人が送られてくる所になりました。

(三) 江戸時代の八丈島
およそ四百年前、

流罪理由が特徴的な八丈流人

(『八丈島流人銘々伝』より)

名前	流された期間	流罪になったできごとの内容など
宇喜多秀家	1606～1655	関ヶ原の戦いの西軍の副将。家族や家来など13人で流された。
宗寿	1683～1701	町人流人の初め。不受不施の罪で流された。
山本兵助	1687～1697	知人が吹き矢でツバメを射ているのを見ていたということで、生類憐れみの令で流された。
天野五郎太夫	1687～1693	江戸城で井戸に蓋をしておかなかったため、猫が落ちて死んだので、流された。(生類憐れみの令)
伊左衛門	1687～1693	病気の馬を捨てたというので流された。(生類憐れみの令)
三郎左衛門	1775～1816	飛騨(岐阜県)の有名な百姓一揆のリーダーであった。
折田与右衛門	1792～1807	藩主(鹿児島藩)が、幕府が禁止していたツルをとったため、身代わりで流罪。
近藤富蔵	1827～(1880)	探検家近藤重蔵の長男。隣の家を7人を殺傷して流罪になった。
佐々木卯之助	1836～1868	飢饉のため、農民に幕府の鉄砲場の開墾を勝手に許可したというので、青ヶ島に流された。赦免されたが、青ヶ島に残った。
梅辻則清	1847～1861	京都上賀茂神社の神主。神道を広め、その影響が大きくなったため、流された。
丹宗庄右衛門	1853～1868	回船業で鹿児島島津家の御用を勤めていたが、藩財政立て直しのために行った密貿易の罪で流された。
八郎(八老)	1860～1862	庄屋の息子だったが、水戸一揆に関係したというので流された。
鹿島則文	1860～1868	鹿島神宮の宮司の長男。勤皇の志士であった。

のもあります。

流人の中には、武士やお坊さん、大工さんのような学問や技術を身に付けた人もいました。こうした人たちは、村の書記をやったり、教育をしたり、さまざまな技術を伝えたりして、島にとって大切な人々となりました。

特に江戸時代の初め百年くらいは、武士やお坊さんが多く、しかも人数も少なかったため、島の人々も流人を大切にしました。

しかし、その後は、毎年たくさん流人が送りこまれ、しかも、罪の内容もけんかやかけごとなどが増えてきました。そのため、島で抜け舟（島

り、尊敬されなくなっていくようになった。抜け舟）や暴動などが起こるようになった。

島に来てから特徴的なことがあった流人たち

(『八丈島流人銘々伝』より)

名前	流された期間	特徴的な内容
和田 藤左衛門	1728 ~ 1769	サツマイモを切って干した「きんぼし」を作った。
勘 兵衛	1768 ~ 1783	豆腐の作り方を伝えた。
下 枝 菜 女	1769 ~ 1782	お多福豆1粒を植えたことから、八丈島・小島に伝わった。
加 藤 又 兵 衛	1788 ~ 1793	樫立のいぶりやの池を造る指導をした。
つ 辻 彦 之 丞	1781 ~ 1838	島で初めて商売をした。
伊 辺 定 左 衛 門	1792 ~ 1838	
近 藤 富 蔵	1827 ~ (1880)	島のことを調べたりして『八丈実記』を書き残した。家系図・木や石の彫刻を残す。公立学校ができる前の、末吉や三根の学校の教員を勤めた。明治13年に赦免され東京に出たが、島に戻って死んだ。
(石工) 仙次郎	1834 ~ 1856	石を切りだして石碑を作り、文字を刻むことを教えた。
(佐原) 喜三郎	1836 ~ 1838	博打の罪で流されたが、2年後に仲間7人と抜け船し、本土にたどり着いた。
利 右 衛 門	1843 ~ 1860	1860(万延元)年におきた、流人30人ほどによる「利右衛門騒動」のリーダー。騒動は失敗し、皆無残な最期を遂げた。
石 山 留 五 郎	1844 ~ 不明	島一の大工。末吉長戸路家再建の棟梁。
梅 辻 則 清	1847 ~ 1861	学者で、中之郷の子どもたちに読み・書き・ソロバンを教えた。
丹 宗 庄 右 衛 門	1853 ~ 1868	サツマイモから「しょうちゅう」を造ることを教えた。
八 郎 (八老)	1860 ~ 1862	末吉に蚕の飼いを教え、そのため末吉地域は潤った。
鹿 島 則 文	1860 ~ 1868	八丈島詩会を始めて、八丈八景を選んだ。明治維新よって赦免され、伊勢神宮や鹿島神宮の神主になった。
平 川 親 義	1869 ~ 1873	末吉の長戸路教行と島で最初の学校、末吉夕学堂をつくる。

飢饉とさつまいも

八丈島は台風

などによる大風・潮の吹き上げが多く、虫やネズミの被害もあり、はやり病のため作づけができないなど、よく飢饉に襲われました。離島であることや流人が多かったことも、その被害を大きくしていました。

流人の抜け船や暴動も飢饉に関係があったと言われています。明治維新のときに、人口八千人に対して、三百五十人が罪を許されました。それほど、流人がたくさんいたのです。しかも、八丈島では結婚して子供のいる流人もいました。

飢饉については、中之郷の「冥福之碑」、民話の「こんきゆう坂」、「と

江戸時代の飢饉・疫病・災害の記録 (死者のあったもの)

年	原因	様子	死んだ人の数
1604(慶長9)	◇つなみ(八戸)	田畑半分壊滅	75人
1636(寛永13)	●はやりやまい		多数
1637(寛永14)	●はやりやまい		多数
1641(寛永18)	●小島 ほうそう		53人
1646(正保3)	●はやりやまい・大しけ(末吉)		180人以上(八丈島・小島)
1677(延宝5)	◇つなみ(八戸)		1人
1682(天和2)	●はやりやまい		30~40人
1688(元禄元)	●はやりやまい		100人以上
1700(元禄13)	八丈島・小島で大風雨	麦不作	飢え死にした者多数
1701(元禄14)	大風	諸作凶作	冬~夏700人以上(中之郷・小島が多い)
1703(元禄16)	◇大つなみ(末吉以外の地区)		中之郷3人流される。
1709~11(宝永6~8)			中之郷で3年間に664人
1711・1712(正徳元・2)		秋作不作	2年で990人
1713(正徳3)	大風・日でり		(末吉380人以上)
1749(寛延2)	大しけ	諸作凶作	2年で100人以上
1767~69(明和4~6)		諸作凶作	八丈島全体で1500人以上(中之郷733人)
1776(安永5)	●ましん		患者(かんじゃ)すべて死ぬ。
1787(天明7)	●ほうそう		樫立300人。中之郷10数人。
1788(天明8)	●えきり(10月~翌年6月)		三根・末吉で170人以上
1795(寛政7)	●ほうそう		三根500人、大賀郷450人
1821(文政4)	●ほうそう(大賀郷)		40~50人(大賀郷)
1832(天保3)	日でり		300人以上(大賀郷)
1834(天保5)	(八丈島・小島)		800人以上

◇つなみ ●病気 無印：台風・ひでりなど

「こら」、「人捨てヤア」などが残っています。

八丈島では、サツマイモが広まるまでは毎年のように飢饉にあっていました。幕府も、食べ物を与えたり、お金を貸したり、困い倉（非常の時にそなえてこく物をたくわえる倉庫）を作ら

冥福之碑めいふくのひ 中之郷なかのこう・大御堂おほみどうにある碑の内容ないよう

明和三年（1766）から明和六年（1769）までの四年間、作物がひどくとれなかった。飢死にした人は中之郷村で七百三十三人、生き残った人は四百人ほどであった。子孫である我々は、それを思うと悲しくてしかたがない。そこで、みんなで相談して、このことを石に彫って、死んだ人の幸せを祈り、このことを後の世に伝えるものである。

明治二十三年（1890）十月



冥福之碑

※でびやくしよう
せたり、出百姓をさせるなどの対策をとりましたが、飢饉はなかなかなくなりませんでした。

※出百姓は、よその土地に出て行って農業などをすること

天保七年（1836）、流人の近藤富蔵の飢饉体験

妻は、五歳の女の子と二歳の男の子と、そして、自分三人が飢死にしないようにと、山に登ったり、野原に行ったり、浜を歩いたりして、食べ物を探したが、ほかの人も同じように探しているのも見つからなかった。

やつと、二里（8km）ほど離れた山に登ってマダミという木の実を二、三合（コップ4、5はいい位）ひろって家に持ち帰り、つぶして粉にして餅を作り、自分も食べ、むすめにも食べさせた。乳におできができていて、乳が出なかつたので、二歳の子にも、ひどくえがらつばいこの餅を食べさせようとした。この子は、見ることは見たが、なみだをいっぱいにして、口の中に入れようとはしなかつた。でも、おなかが空いてがまんできなかつたので、どうしようもなく、後では食べた。苦しい様子のその子より、そばで見ている母の悲しさは、何にもたとえることができない。

このような毎日が続いたので、食べ物見つかりそうな山もなく体が疲れて、とうとう寝こんでしまった。女の子はどうしようもなく枕元で泣き、懐にいる子どもは乳が出ないので泣き叫んでいる。母の心は生きた気持ちもしいないが、どうしようもない。生きていくけれども、食べ物何もないという苦しみを味わって、ただ、死を待っている。ある夜、私が、たった二寸（6cm）より短いトコロ（つる草の根。苦い）を二つ持って帰った。妻に渡して、その晩は、二人でずつと泣き続けていた。（以下略）

（『八丈実記』より）

飢饉への対策

- ①牛食いに山に入る。
- ②年貢を少なくしてもらふ。
- ③お金を借りて食べ物を買う。
- ④食べ物(米・麦など)をもらう。
- ⑤サツマイモを作ることをすすめる(1725年～)。
- ⑥稲荷神社を建てる(1769年)。
- ⑦奉公に島を出ることを認める(1770年)。
- ⑧出百姓をする(1772年～)。
- ⑨流人の結婚を禁止する(1774年)。
- ⑩「囲い倉」を作り、作物を貯蔵する(1791年～)。
- ⑪家の数を決めて増やさない(1799年)。
- ⑫作方世話人(つくりかたせわにん)を決め、世話をさせる。
- ⑬漂流船の積荷の米などを食べる。
- ⑭酒づくりを禁止する。

飢饉の時の食べ物

アザミ、イグマ(リュウビンタイの根)、まだみ(タブノキ)の実、葛(くず)の根、トコロ(どこら)、竹みそ、へんご(天南星、まへんご、ささばへんご)、サルトリイバラ(山帰来-サンキライ)

サツマイモ栽培の歴史

1727(享保12)年	幕府が「白さつま」の苗を送ってきたが、作り方がわからず、たくさんはできなかった。
1770年(明和)頃	サツマイモは食べられるようになったが、たくさんはとれなかった。
1811(文化8)年	新島から「赤さつま」の種をもらった。
1812(文化9)年	国地から「ハンス」の種をもらってきたが、土地に合わなかった。
1835年(天保)頃	作り方が工夫され、種が島に合うようになって、たくさんできるようになった。



サツマイモ伝来の碑(大賀郷馬路)

このころのふつうの人たちの食事は、夏は麦、冬場はサトイモを中心に、アワやアシタバなどを入れたぞうすいなどを食べていました。サツマイモが広まると、サツマイモが中心になったといわれています(夏は『切干』を食べました)。

飢饉のときは、へんご・アザミ・サルトリイバラの根・リュウビンタイの根なども食べていました。

流人の近藤富蔵が、飢饉のときに、末吉の長戸路家に頼んで、アザミの根を掘らせてもらい、うれし泣きして帰ったという話が残っています。

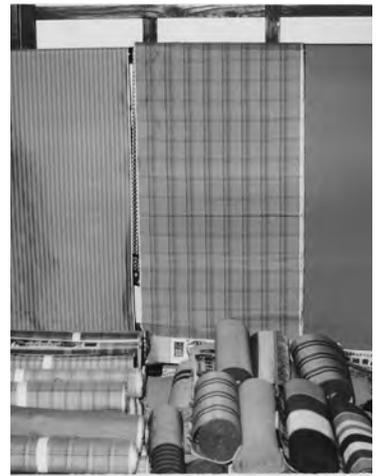
こうした八丈島でしたが、サツマイモが広まると、飢饉は少なくなるといわれています。サツマイモは、八丈島の人々の命を救った食べ物でした。

年貢としての黄八丈

八丈島で作

られていた絹織物は、八丈絹とか丹後とか言われ、貴重なものでした。

江戸時代には、検地といって田や畑の広さを測り、年貢（税）を決めていきましたが、八丈島の年貢は米ではなくこの丹後でした。納める反物の数も多く、幕府などが使うため役人の検査も厳しかったので、優れた物が作られていきました。色も黄・樟・黒の三色に決まっていき、特に黄色は目立ったため、一般の人々にも売られるようになった江戸時代後期からは、島外では総称して黄八丈と言われるようになり、八丈島の重要な産業となりました。



黄八丈の織り物

ある家の記録では、「嫁に来るとき、丹後を織って得た

二百両ほどのお金を持参し、田畑を買った」とあり、機織りのできる女の人は大切にされています。

男の人は畑・田・海・山の仕事、桑の葉とりなどをしましたが、女の人は力仕事はせず、機織り中心の生活でした。手が荒れていると、機織りで糸を扱う時に困るため、外での仕事をしないようにしていたのでした。

海上交通と小笠原開拓

島外との

交通は、船にたよるだけでした。今と違い、帆掛け船でしたから、風まかせなので、よく遭難もしました。

幕府は、七百石の船（長さ約二十三m、幅約六m、重さ約七〇t）を二隻造り（後に一隻を三百五十石船二隻、合計三隻にした）、それぞれ春と秋に八丈と江戸を往復させていました。

また、廻船と言われる個人の船もありましたが、記録があまり残っていないのでよくわかっていません。幕末になると、外国の船が開国を求めてやってきました。幕府は、国を守るため、島の人に武器を渡したり、

海岸に石積を築かせたりしました。

また、一八六一（文久元）年には、領土が確定していなかった小笠原の調査に咸臨丸が行き、中之郷の菊池作次郎がお供をさせられています。その翌年、八丈島の男女十五組が開拓に送り出されまして、一八六三年生麦事件のため引き揚げられています。

御船預かりの歴史

御船預かりの歴史		年 代	私 船 (廻 船)	
大船方 (700石船)	小船方 (700石船、1830年から350石船2隻)			
笹本氏 (23年以上)	佐藤氏 (41年)	1619 (元和5)	個人船の所有を願い出る。	
		1623 (元和9)		
鈴木氏 (35年)	玉置氏 (96年)	1644 (正保元)	7隻	
		1657 (明暦3)		
山下氏① (147年)	服部氏 (130年)	1700 (元禄13)	4隻 (菊池氏2、高橋氏2)	
		1739 (元文4)		
		1790 (寛政)頃		
山下氏② (63年)	山下氏① (9年)	1803 (享保3)	大吉丸 (300石)、七面丸 (700石)	
		1830 (天保元)		
		笹本氏 (7年)		1838 (天保9)
		高松氏 (7年)		1850 (嘉永)頃
		笹本氏 (9年)		1854 (安政元)
長戸路氏 (4年)		1860 (万延元)		
		1865 (慶応元)		

山下①と山下②は別の家。山下②は浅沼（末吉の長戸路）家から出た家。

(四) 戦争前までの八丈島

小学校ができたころ

江戸幕府が

ほろび、明治五年には、だれでも学校に入れるきまりができました。

八丈島でも、いちはやく、末吉に

小学校が作られたのを初め、どの村にも、間もなく公立の小学校ができました。八丈島の人たちが教育に熱心だったことがわかります。⑥1

明治時代、島の名小学校ができるまで

西暦	明治	できた学校名
1868	元	
1871	4	末吉夕学 <small>せきがっこう</small> 塾
1872	5	だれでも学校に入れる <small>きまり</small> ができる。末吉小学校
1874	7	青ケ島小学校
1875	8	みつね <small>ね</small> 小学校 三根の郷 <small>ごう</small> 小学校
1877	10	かした <small>たて</small> 小学校 樫立の郷 <small>ごう</small> 小学校 おおか賀郷 <small>ごう</small> 小学校

店ができて 八丈島で初めての店

が、一八八二年（明治十五年）ごろにできましたが、そのころは、まだ、物と物との交換こうかんをしていました。

やがて、一八九〇年（明治二十三年）ごろから、お金で売り買いするようになりました。そこで、島の人たちは、春はカイコやしなを養い、夏はテングサをとり、秋から冬には炭すみを焼くなどしてお金を稼ぎました。

大正時代たいしょうじだいから昭和時代しやうわにかけて、木炭もくたんや乳製品にゅうせいひんの生産せいさんがとてもさかんになり、東京とうきやうをはじめ、本土各地かうちに売られるほどでした。

大坂おおさかトンネル 一九〇七年にトン

ネルが完成かんせいして坂上かみと坂下かみの行き来

は便利べんりになりましたが、今のよう
自動車やバスはなく、荷車にぐるまで物を運はこ
び、人は歩いていました。

昭和しやうわになって、水力発電すいりょくはつでんで電燈でんとうが
つき、定期バスていきも通るようになり、
電話もひかれて、くらしは、少しず
つ便利べんりになっていきました。

移民いみん 小さい島おおぜいに大勢おおぜいの人が住ん
でいると、食べ物などにこまること
もありました。そこで、江戸時代えどに
は次男じなんや三男さんなんが、出百姓でびやくしやうといつて
ほかの土地へ移り住むことがたびた
びありました。

明治めいしに入いってから、小笠原諸島おがさわらしよとう・
鳥島とりしま・大東島だいたうじま・南洋諸島なんようしよとうなどへの移
民いんが行われ、開拓かいの中心かみになりました

た。

そのころの生活しゆしやくのようす 島の人
の主食しゆしやくは、江戸時代とあまりかわら
ず、サツマイモ・サトイモ・麦・ア
シタバなどでした。

人々は炭を焼いた後、焼き畑はたにし
て、マグサやサトイモなどを植うえま
した。また、牛やニワトリ、ブタな
どの家畜かちくを飼かい、なぎの日は海へ出
て、魚や海藻かいそうをとるなどしてくらし
ていました。

大正から昭和をへて、船の便数びんすうが
増えたり、人々の生活にゆとりが出
てくるようになると、今までとち
がって、朝と夕にごはんを食べられ
る家も増えてきました。

(五) 戦争中の八丈島

戦争中の学校

日本は中国（昭和六年〜二十年）やアメリカ・イギリス・オランダなど（昭和十六〜二十年）と長い戦争をしていました。

八丈島でも大勢の人が、兵隊にもられたり、軍属として働き、五百人以上の人が亡くなりました。

※軍属とは、軍の仕事をした民間人のこと。



兵隊の見送り（大賀郷小学校）

国全体が戦争一色で、働き手である若い人たちは軍隊に行き、食料や衣

類、生活必需品なども配給になっ

て、国民生活は困難になりました。

そのころ

の学校の勉強は、天皇

のため、国

のためにつくすことが大切という考えが中心になっていました。

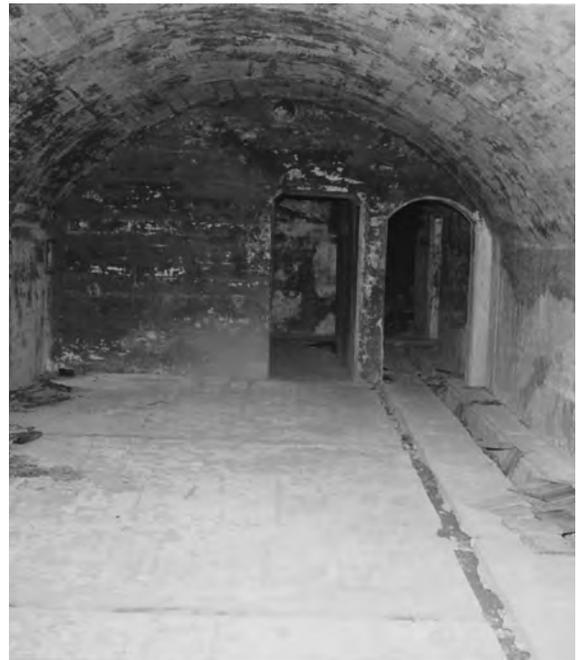
戦争が激しくなった昭和十八年ごろの学校では、武道・体錬などといわれる、体をきたえる学習がふえてきました。



さかんだった武道会（三根小学校）

学校行事には、左の表のように、兵隊の見送りや戦死した兵隊の迎え、勝利を祈るための神社へのお参り、防空訓練、働き手が足りなくなつた農家の手伝いや軍の作業などが多くなつていきました。

行事	回数								
	昭和十七	昭和十八	昭和十九	昭和二十	昭和二十	昭和二十	昭和二十	昭和二十	昭和二十
兵隊の見送り	4	2	0	0	0	0	0	0	0
戦死者の迎え、村葬	4	7	0	0	0	0	0	0	0
警戒警報・防空訓練	12	4	0	0	0	0	0	0	0
体錬・武道	10	29	4	0	0	0	0	0	0
カラムシ・ツバナ(チガヤのは)集め (糸や綿の代用品となる植物を集めた)	2	5	2	2	2	2	2	2	2
鉄くず集め	2	1	0	0	0	0	0	0	0
害虫取り・草取り	2	2	20	0	0	0	0	0	0
軍の作業	0	2	14	0	0	0	0	0	0
大神宮・八幡のお参り	10	13	2	0	0	0	0	0	0



陣地のあと (鉄壁山)

軍隊が入る

昭和十九年六月、サ

イパン島がアメリカ軍に占領されると、次は八丈島に上陸するだろう、ということになり、軍隊一万六千人ほどが入ってきて、洞窟陣地などをつくり始めました。新飛行場(朝鮮の人も働きました)・特攻兵器の「回天」や「震洋」、サイパンなどから

北上して来るB29をとらえるレーダー基地なども作られました。

そのため、学校や大きな家が軍隊の宿舎や病院として使われることになりました。建物が使えなくなつた学校は、お寺や大きな家を借りて、

出るようになり、勉強はだんだんできなくなりました。

昭和十九年の終わりごろは、勉強もほとんどしないで、食料にするためのツワブキやアザミをとって軍に出したり、上級生は大人にまじって、石あげ作業や木炭運び、陣地づくりなどの軍の手伝いをしました。

島の人の疎開 戦争がますます激

しくなると、島の女性・子ども・お年寄り、軍の命令で、内地の親戚や知人をたよって、島から出ました。このことを疎開といいました。八丈島では、およそ六千五百人が疎開しました。

特に、昭和二十年二月の硫黄島作



校舎がとりこわされて、校舎をバックにしてとれなかった卒業記念写真
(昭和19年度、榎立国民学校（高等科）卒業生。昭和22年3月撮影)

分かれて勉強しました。また、若い男の先生は次つぎと兵隊に行き、警戒報もたびたび



東光丸

戦の時に本格的な空襲くうしゅうがあり、きじゅうしやげきを受け、死んだりけがをしたりする人が出たので、それまで消極的だった人たちも危険を感じて疎開そかいするようになりました。そこで、千三百人ほどが長野県の軽井沢ざわに「集団疎開」しました。その中には、小学生が二百三十人もいました。しかし、食べ物も足りず、だれもおなかをすかして、勉強どころではなく作物を作ることを第一にしていました。

悲しい東光丸の事件

昭和二十年二月十六日、八丈島はおそろしい空襲くうしゅうを受けました。そこで、残っていた島の人たちにあらためて「疎開そかい」命令めいれいが出され、多くの子供・女性じよせい・年よりが、島を出しました。

四月十六日、島の人たちや傷病兵しょうびやうへい・船員せんいんなどあわせて百六十人ほどを乗せた疎開船「東光丸」は、昼の十二時過ぎす神湊みなと港を出港しゅつこうしました。これが最後の疎開船となるかも知れないというので、島の学校の大切な書類しよるいを持った先生たちも乗りました。

ところが、御蔵島みくらの南三十キロメートル付近ふきんで、突然アメリカ軍の潜水艦せんすいかんの魚雷攻撃らいてうげきを受け、船は沈み、百五十人ほどの命いのち（島の人五十五人）が奪うばわれました。この悲しい事件のことを伝える「東光丸の碑ひ」が末吉の台ヶ原たいがはらにあります。

(六) 戦争後の八丈島

そのころの学校

戦争が終わって、疎開した人々や戦争に行っていた人々、小笠原や南洋の島々にいた人々も帰ってきました。

十八ページのグラフを見てもわかるように、急に人口が増え、学校の子供たちも多くなりました。

しかし、島では、食べる物も着る物も足りない苦しいくらしがしばらく続き、みんなが困りました。

学校は、校舎が取り壊されていたり、まだ軍に使われていたりしたので、しばらくの間は役場や倉庫などを借りて勉強しました。

教科書は、進駐軍の命令で、すみ

で黒く消され

たところのあ

る物を使いま

した。

学用品や紙

も足りなくな

り、時々ノー

トが配給されました。

楽器は、オル

ガンがあるだけでした。

わらぞうりをはいて登校する子供

が多く、また、たいていはお弁当を

持って来ないで、お昼になると、家に食

べに帰りました。

昭和二十二年、新しい中学校がで

きました。校舎は、しばらくは小学校の高等科の建物などを使った後、



すみぬりされた国語の教科書
('兵タイゴッコ'のところ)

※進駐軍とは、日本を占領していたアメリカなどの軍隊のこと。

新しく建てられました。
 やがて、人々の努力で、しだいに
 島のくらしもよくなり、おちついて
 きました。どの学校も校舎が整えら
 れ、ピアノも備えつけられました。
 昭和二十九年には、島で初めてのブ
 ロック建築の富士中学校が建てられ
 ました。



旧富士中学校
 (島で初めてのブロック建築)



旧八丈町役場 (昭和33年10月完成記念写真)

(七) 八丈町の誕生

八丈島は、それまで、三根村、大
 賀郷村、檜立村、中之郷村、末吉村、
 八丈小島の宇津木村、鳥打村に分か
 れていましたが、昭和三十年四月に
 一つの町にまとまり、八丈町が誕生
 しました。このことで、今まで、村
 ごとに列々にやっていた、道路やバ
 ス、水道・
 消防・学
 校のことな
 どを、町全
 体として、
 進められる
 ようになり
 ました。

かわつてきた生活 八丈町が誕生

してから、人々のくらしのようすが、年々大きく変わってきました。

道路も交通の便もよくなり、観光

客も増え、民宿やホテルが、次々に

できました。また、火力発電所も

でき、昭和三十三年からは二十四時

間電気が使えるようになりました。

やがて、電気こたつ・電気洗濯機・

電気掃除機・電気冷蔵庫なども使わ

れだし、昭和三十六年には、三根・

大賀郷地区ではテレビも見られるよ

うになりました。

人口が、一万二千人位だった頃、

島内のお店の数は今より多くて、お

風呂屋さんもありました。

人口は年々減り続け、令和六年十

月では六八五〇人ほど、一番多かつ

た時の六割ほどになってきています。

一方、令和六年の六十五歳以上のお

年寄りの人口は、40%を超え、農業

などの仕事では、後を継いでくれる

若い人がいなくて困っています。

お年寄りの世話をするなど、福祉

の問題もあります。

また、生活が便利になるにつれて、

交通事故や増えるごみのことなど、

いろいろな困る問題も出てきました。

みんなの知恵と力を集めて、問題

を解決し、より住みよい八丈島をつ

くりあげなければなりません。

（八）昔から伝わるもの

島には、昔から伝わる大切な文化がたくさんあります。

節分の行事 島の節分の行事には

豆まき、厄落とし、フンクサなどがあります。豆まきは、夕方「鬼は外、福は内」と叫びながら豆をまくものです。厄落としは、厄年の男女がいる家で行われるものです。フンクサは、竹の棒にイワシの頭など生臭い物をはさみ、火にあぶっては、そのにおいを嗅いで、人々の願いを込めて次のように唱えます。

フンクサフンクサ カマツテソーロー
鶴は千年亀は万年 浦島太郎は百八つ
このやのあるじは百八代
フンクサフンクサ カマツテソーロー

米の千貫のいきとカマツテソーロー
まゆが千貫 いきとカマツテソーロー
むろが千貫 上がったいきと
カマツテソーロー

（注）かまる……島ことばで「におう」という意味です。

この他にも、盆踊りや月見踊り、神社のお祭り、サンチ（二十三日）、六夜様、為朝凧揚げ、カルタ、羽根つきなどが行われてきました。

昔から伝わる太鼓や民謡 八丈太

鼓は、有名で独特なものです。また、春山節やシヨメ節なども、東京都の文化財になっていて、盆踊りや宴会などで歌い継がれてきました。歌詞には当時の人々の気持ちや生活の様子子が表されているものもあります。

・沖で見たときや 鬼島おにしまと見たが
 来てみなみみりや 八丈は情け島じま
 ・南風みなみかぜだよ みな出ておじやれ
 むかえぞうりの 紅べにばな
 ・やまとおのこの 度胸どきょうがあらば
 こえておじやれよ 黒瀬川くろせ (黒潮くろしお)

伝えていきたい島の言葉(八丈方言)

次の言葉の意味がわかりますか。

- ・でーじきや
- ・あっぱめ
- ・あび
- ・ひつかする
- ・どんご
- ・かむ
- ・まじける
- ・おじやりやれ

どれも「島言葉」です。今、みな

さんは共通語きょうつうごを話してはいますが、昔

の島の人は島言葉で話す人がほとんど
 でした。しかし、今では「島言葉」

を話す人が少なくなり、このままで

は、近い将来、話せる人がいなくなっ
 てしまうことが予想されています。
 原因はテレビの影響えいきやうや子供世代に伝
 わっていないことが考えられます。

世界の言語について、国連教育科

学文化機関がくぶんかきかん(ユネスコ)が、二〇〇九

年に調査結果ちやうさけつかを発表しました。その

結果、将来失しやうらいわれてしまう言葉が、

日本の言葉では八つ指定されました。

八丈方言(八丈語)も、その一つに

指定されました。八丈方言は、日本

語の中でも、最も古い言葉の流れを

くみ、大変貴重きちゆうなものだと言われて

います。奈良時代ならに編纂へんさんされた万葉

集しゅうにも八丈方言と同じ使い方をし

ているものがあります。千数百年前の

言葉が、今でも、八丈島で話されていることは驚きであり、島に住む人にとって誇れることです。島の先祖から受け継いで話されていた八丈方言は島の大切な宝であると思います。

でも、このまま何もしなければ、いずれ消滅してしまふことになっていきます。八丈町は、この八丈方言を継承していく取組みをしています。

八丈町の小・中学校では、八丈方言を学ぶカリキュラムを作り、各学年ごとに三時間設けて、楽しく学んでいます。また、毎年、一月には「八丈方言かるた大会」を行っています。かるたに興味がある子供たちが真剣に、楽しく競技しています。

また、二〇二三年から、毎年一度「八丈方言大会」が催されています。

方言での語りや歌や発表など「おじゃれホール」でにぎやかに行われています。二〇二四年「危機的な言語・方言サミット」が八丈島で開催され全国からたくさんの方が集まり、継承について話し合われました。

これからも島の貴重な文化である八丈方言を絶やさない取組みが続けられることを願っています。



言語・方言サミットの参加者

七 歴史的な人物



玉置半右衛門が建てた鳥島罹災碑



南原の宇喜多秀家夫妻像



近藤富蔵が築いた服部屋敷の石垣

八丈島の人の歴史は、七千年ほどのものです。その間、人々の生活が営まれ、様々なできごとがあったはずですが。しかし、その様子は、記録が少なく、ほとんど分かっています。

そのような中ですが、ここでは、八丈島にかかわりのあった人物、宇喜多秀家、近藤富蔵、丹宗庄右衛門、玉置半右衛門、石井房次郎の五人について取り上げます。すべて、江戸時代以降の人たちです。初めて知る人物もいると思いますが、この人たちが、どんなできごとに出会い、どういう人生を送ったのかを知ることによって、八丈島の歴史についての理解が深まることを願っています。

ここでは述べていませんが、源為朝、高橋与一、大迫宇吉といった人物や不受不施派の流罪、小笠原開発と出百姓、和歌山サンマ船遭難事件、小島の全員離島などのできごともありました。機会があったら調べてみると面白いと思います。

(一) 関ヶ原の戦いで敗れ、八丈島流罪となった

宇喜多 秀家

宇喜多秀家は、岡山47万石の殿様でした。天下分け目の戦い、関ヶ原の合戦では、西軍（豊臣方）の中心人物で、敗れて鹿兒島に逃げました。徳川幕府に差し出されましたが、鹿兒島島津家の助命願いもあり殺されることなく、八丈島に流されました。伊豆諸島流人の第一号で、八丈島で長生きし、84歳でなくなりました。八丈流人の中では、一番の有名人と言えます。

豊臣秀吉の養子として活躍した秀家

父は、宇喜多直家という戦国大名で、父の死により8歳で家を継ぎ、10歳の時に、豊臣秀吉の養子になりました。14歳で秀吉の四国攻めの讃岐（香川県）方面の総大将、25歳ごろには、朝鮮出兵の総大将などを勤めました。秀吉が後ろ盾になっていたこと、父親時代からの優秀な家来がいたからと言われています。



岡山城と宇喜多家顕彰碑

27歳の時に、徳川家康や前田利家、毛利輝元、上杉景勝など60歳前後の有力大大名と並

んで、五大老と言われるトップ5の一人となりました。

秀吉なきあとの秀家

しかし、秀吉が亡くなると、宇喜多騒動と言われる家内争いがおき、有力な家来が離れ、徳川方についた者もいました。



流人・仏師民部作 宇喜田秀家像。民部は秀家とは会っていない

小さい時からの大坂暮らしで、岡山に帰ることも少ない秀家でした。秀吉の命令で出費がかさみ、藩の財政も厳しく、検地によって収入増を計画しましたが、土地にこだわりをもつ家来との意思の不一致があったとか、宗教問題（秀家の妻・豪はキリシタンでしたが、岡山は伝統的に日蓮宗が強い土地柄）があったとも言われています。関ヶ原の戦いでは、宇喜多家の兵士の数は多かったものの、有力な家来たちが徳川方だったとされています。

妻・豪と秀家

妻の豪は、加賀（石川県）百万石・前田利家の娘で、幼い時に秀吉の養女となり、秀家18歳、豪15歳の時に結婚し、男子二人、女子二人の子どもがいました。豪は、秀吉から「男であったなら」と言われたほどで、気性の強いしっかりした女性でした。

二百年以上にわたった加賀・前田家の援助

秀家が流罪になった後、豪は、江戸に人質にとられていた母を動かし、早くから八丈島の秀家を援助し、また、「沢橋が母」と言われる事件も企てています。これは、秀家の次男・秀継の乳母・阿いの子で、豪の家来であった沢橋兵太夫が、八丈の母に会いたいということで行軍秀忠への籠訴をし、阿いは「会わない」ということで、兵太夫の八丈島渡島はなりませんでしたが、これをきっかけに前田家に幕府から「秀家たちの面倒を見るように」という命令が出て、以後二百数十年にわたって、援助が続いたというものです。この事件後、兵太夫はまた豪の元に戻ったとされているので、豪の計略だったと思われるます。

秀家は、夫婦仲もよく、鹿児島に逃れたときに後から家来が二百人ほど慕ってやって来たと言われるほどで、人望はあったようです。

八丈島での秀家

八丈島には、親子三人と家来、乳母とその下女、医者など13人の大人数で、途中新島に立ち寄り、玉石浜の前崎海岸に上陸しました。

八丈島での様子は、八丈島には記録がほとんど残っておらず、本土で記録されたものなどが、『流人銘々伝』に載っています。釣りをしていたときの船頭のこ

と、代官所で出されたおにぎりのこと、馬路の道を夜怖くて通れなかった、といったことです。

秀家は、武士あるいは大名としては、評価が分かれる面はありますが、能を舞い、鷹の絵を描き、和歌も作るなど、文化人としては評価できます。八丈に来て更級日記の「姥捨て山」の和歌を書き残していますが、捨てられた身で、その歌を書いており、並み並みならぬ知識だったことが分かります。鷹の図も和歌も、板橋区の資料館が収蔵しています。

秀家の死後

島に秀家の墓がありますが、最初の墓は写真左側の細長い石で「南無阿弥陀仏」とのみ彫られ、右側の五輪塔は死後約180年に建てられました。戒名がつけられたのも約80年後で、政治犯としての扱いが続きました。幕府への反逆者ということで、本人も子孫も許されることなく、明治維新によってやっと許され、板橋の前田家に7軒の子孫が引き取られました。その後、八丈島に戻った子孫の方もいます。



宇喜多秀家の墓

(一) 有名な探検家の息子、『八丈実記』を残した

近藤 富蔵

近藤富蔵は、父と争っていた隣人を殺して、八丈島に流されました。島では、『八丈実記』など様々な物を残しました。明治十三年に許され東京に出て、明治十五年に島に戻り、7年後83歳の一生を終えました。

富蔵のおいたち

近藤富蔵は、一八〇五（文化二）年、江戸の駒込（現在の文京区本駒込）に生まれました。父は、40石取り（現在の年収にして3、4百万円。仕事をしていた時は、手当てが出てその2倍ぐらいの年収）の旗本（徳川家の家臣）近藤重蔵です。重蔵は小さいころ神童と言われ、身長180cmほどの大男で、蝦夷（北海道）や千島の探検で有名になり、後に、紅葉山文庫の書物奉行（現在の国会図書館長）を勤め、たくさんの本を残しました。当時の探検は大変で、地図もない言葉の通じない酷寒の異郷の地で行われました。探検後は「品がさがった」とも言われ、寛政の三蔵、化政の三蔵（寛政時代、文化文政時代の人で、名前に蔵がつく有名な三人）と変人・奇人扱いされ、気が強くて協調性のない所があったようです。女性関係も複雑で、7人も妻が変わっています。

こうした、父の性格や行い、母親が次々と変わるといったこと、また厳しい父の下（優秀な父からみたら、富蔵は期待にそえない子どもに見えた）の育ちは、富蔵の人間形成に影響を与えたと思われれます。

大坂での重蔵、富蔵

重蔵は書物奉行の時に、老中と言い争い、大坂の弓矢鍵奉行に格下げされました。何とか大坂に着きはしたものの、禁止されていた公家の娘を妻にするなどな問題行動を起こし、結局江戸にもどされ、小普請役という何も仕事のない立場になってしまいました。

一方、富蔵は、大坂でも行いが悪く、本教寺というお寺での謹慎を命じられたのですが、そこでそえという女性を好きになってしまい、父親に結婚を願い出しましたが、許されず父と一緒に江戸にもどりました。

江戸にもどった富蔵たち

重蔵は、大坂に行く前から、目黒新富士と言われる小さな富士山を造っていました。江戸では当時富士山信仰が盛んで、講というグループがたくさんつくられ（一説には江戸で800）あちこちに小さな富士山を造り信仰していたのです。目黒新富士（絵）はお参りする人が多く、隣の半之助は茶屋を出し、かなり繁盛していたといえます。重蔵と半之助は土地をめぐって争うようになり、喧嘩状態で裁判もおきていました。



富蔵は、相変わらず行いが悪く、越後（新潟県）高田の性宗寺に預けられ、預けられてすぐ、そえに会うため、物乞い状態で大坂に行きましたが、結局会わせてもらえずもどりました。4年ほど修行を続けていましたが、将来の見通しもなく、父に謝って江戸にもどることになり、そのときに、もう一度大坂に行きましたが、やはりそえに会うことは許されませんでした。

戻ってきた富蔵は、父たちの土地争いを見て、何とか解決したら、そえと結婚できるのではないかと考え、家来と一緒に7人を殺傷してしまいました。富蔵は4人を殺害し、2人に傷を負わせました。

その時代、武士は庶民を殺害しても「無礼打ち」で済んだのですが、手続きをきちんとせず、また父の評判の悪さもあり、最大の問題は女性まで殺害したというところで、結局、重蔵は琵琶湖西岸の高島に、富蔵は23歳の時に八丈島に流されました（一家断絶となる）。

八丈島の富蔵

八丈島に来た流人は、土地も財産もなく、小さな小屋をもらい、飢饉の島である八丈島で、自分のできる

ことをやって生活しました。富蔵は、身長190cmほどの大男で、剛力・無欲・大食などのエピソードを残し、『八丈島の民話』参照）、仏像や位牌入れを作り、石垣を築き、絵を描き、系図をつくるなどして生きていました。膨大で貴重な『八丈実記』を残し、これを東京府が買い上げています。殺された老婆が恨めしうに富蔵を睨みつけた目が忘れられず、島では仏教に帰依し、ノミもシラミも殺さぬほどの生活を送りました。また、宇喜多秀家の子孫にあたる女性を水汲み女（現地妻）とし、3人の子をもうけました。

明治維新になり、ほとんどの流人が許される中、大勢を殺傷した富蔵は、許されませんでした。明治十三年にようやく許され、東京にもどる途中で遭難し、三重県に漂着、何とか東京にたどり着きました。その後、弟を頼って大坂に行き、父の墓参をしたり、熊野古道の巡礼などもしています。しかし、結局、東京では面倒を見てくれる人もなく、明治十五年に島に帰り、三根の尾端観音堂やその下の小屋に住み、83歳で亡くなりました。

大正十二年には、顕彰碑が、昭和六二年には没後百年記念碑が建てられました。



富蔵の墓（中央）と碑（左）

(三) 島の人にお酒を伝えた流罪人

丹宗 庄右衛門

大賀郷の護神山公園に左の写真の碑があります。それは、島酒（焼酎）を仕込む甕です。なぜ、この碑があるか調べてみましょう。この碑は「島酒之碑」と呼ばれ、江戸時代の後期に八丈島に流罪人として送られた丹宗庄右衛門の功績を讃えた碑です。

江戸時代の八丈島の酒事情

八丈島は昔から飢饉の島といわれ、島民は慢性的に食料に困っていました。しかし、江戸より送られてくる酒を飲む島民は、有力者やお金持ちに限られていました。また、島で造った酒は濁り酒といい、風味はいが色が黒くて質が劣りました。その上、島は時折、飢饉がありました。そこで貴重な穀物を大事にする為、穀物から酒を造ってはいけないという酒造禁止令（一八二八年）も出ていたのです。しかし、島人は、酒が好きな人が多かったといわれ、酒を飲むことを望んでいました。



島酒之碑

丹宗庄右衛門の八丈島流罪

丹宗庄右衛門は鹿児島県出水郡阿久根村の出身で、家は代々回漕問屋（貿易問屋）の九代目。薩摩藩主島津家の御用を勤め、苗字帯刀を許されていました。幕末期の薩摩藩は財政が厳しく、その立て直しのため、密貿易を黙認して、その利益を藩の財政の立て直しにあてていました。

幕末期に至って密貿易に対する幕府の取り締まりが厳重になりました。早くから幕府はこの密貿易を察していたところ、一八五三年（嘉永六）四月、丹宗庄右衛門らが江戸へ回船したところを取り押さえました。彼らは、阿久根村沖で仕入れた広東シユス、帯地、陶器、香料などを千石船に積み込んで江戸に運びました。この船には義兄の源七も同行していました。江戸に着くとすぐ、幕府の捕吏が踏み込み、逮捕されました。この船は源七は逃げましたが、阿久根で捕まりました。地元で捕まったので厳しい裁きを受けず、一年間の牢獄生活を送るだけで、釈放されたのです。一方、丹宗庄右衛門は唐物一件（密貿易）の罪で八丈島へ送られました。本来、九州の罪人ならば、大坂奉行で裁かれるのが普通でしたが、彼は江戸で捕縛され裁かれたので、八丈島へ流罪になりました。

八丈島へ来てみて驚きました。島人は酒を飲んでい

ません。どうしてかと彼が尋ねると、酒造禁止令が出たのです。理由は貴重な穀物をつぶすからだと言ったのです。「では穀物をつぶさなければ、酒を造ってもいいか」と尋ねると、役人は「造れるのなら、造ってもよい」と。この言葉を得て、彼は故郷の阿久根でサツマイモから造る酒・焼酎のことを思いつき、阿久根から、道具一式と焼酎づくりに合うサツマイモを取り寄せました。

苦勞しながら、彼はサツマイモから酒を造りました。その味は評判もよく焼酎づくりが許されました。島のサツマイモを使うその製法は瞬く間に広がりました。島の人はそれまでは、酒を公然と飲めなかつたのですが、この庄右衛門の働きで酒を飲めるようになったのです。彼は島民からは神様のように感謝されたといわれました。現在でも島には四つの焼酎製造会社があり、「島酒」と呼ばれる焼酎を飲んでいきます。

丹宗庄右衛門の島での生活と赦免

彼の本名は丹宗庄右衛門直房でしたが、島では秀房を名乗り大賀郷村預かりになりました。年は四十二歳で流罪名は「唐物一件」でした。

島での彼の生活ぶりは、身の廻りの世話をする水汲み女との間に一子（浦吉）をもうけました。焼酎で島民に喜ばれ、船が入る時には、故郷から見届物も送ら

れ、流人の中でも生活が安定していたといわれました。また、流人生活中でも、流罪僧から、和歌を学び、八丈八景を和歌に詠み、島の文化人として過ごしたと言われています。彼は一八六八年（明治元）十二月に赦免となりましたが、内地へ渡る船は翌年四、五月頃に出帆し、ようやく故郷の阿久根村にもどりました。年齢は五十七歳でありました。帰国には人馬の供を連れ、士分なみの取り扱いは受けたといわれています。

故郷の阿久根村では、妻の美津と既に成長している三男二女が流罪生活をねぎらってくれました。彼の流罪中、彼の妻は子供たちの養育に専念しましたが、相当に貧しい生活を余儀なくさせられたと言われています。彼は、その後島の水汲み女と一子を阿久根に呼び寄せました。

彼は一八七五年

（明治八年）九月八

日六十四歳で没しま

した。彼の墓は丹宗家一族の墓地に手厚く葬られています。その墓の碑には八丈島を詠んだ和歌が刻んであります。「古郷を思ふ八丈の浪のうへをうらやましくも雁がね」です。流罪になった八丈島を想った歌です。



丹宗庄右衛門の墓

「八丈島流人銘々伝」参考

④ 鳥島や南大東島を開拓した

玉置 半右衛門

皆さんは、鳥島や南大東島という島を知っていますか。鳥島は、アホウドリという大きな鳥がたくさんいる島です。南大東島は、八丈島と姉妹島になっていてサトウキビをたくさん作っている島です。

実は、元々は無人島だったこれらの島を開拓したのは、八丈島出身の玉置半右衛門という人でした。

半右衛門の先祖は、和歌山の出身で、奈良県の山奥にある玉置神社と関係があると考えられ、船の関係で下田などに住んでいたのではないかと考えられます。

江戸時代に幕府のお船預かりだった玉置家が末吉にありますが、この関係者ではあるが別の家で、八丈島の代官の家来で島に来て、島の取締役をしていた玉置家の子孫にあたります。

半右衛門の一生 () 内は年齢

- 天保9年(0) 八丈島大賀郷に生まれる。
- 安政4年(20) 横浜で大工の修行をする。
- 文久2年(24) 小笠原開発に大工として参加。ジョン・万次郎と会う。翌年生麦事件で八丈に戻る。
- 慶応3年(30) 横須賀造船所で大工職となる。
- 明治元年(31) 大賀郷出身の10歳年下の須美と結婚。



- 6年(36) 台湾に海軍の大工職で従軍。
- 9年(39) 長男綱太郎誕生。小笠原開拓で大工職。
- 12年(42) 小笠原島

司と意見が合わず帰島。次男鎌次郎誕生。絹織物製造・販売業をはじめめる。

- 13・14年 自由民権家・松沢求策の、八丈での運動に参加する。失敗となり、同志たちと島を出る。
- 15年(45) 三男伝誕生。
- 16年(46) 本人は東京に移住。船による運送業を行う。

長女美知誕生。

- 20年(50) 東京府へ鳥島の拝借、寄港願いを提出。13人で鳥島に初上陸。置き去りにされ、40数日後に救助。
- 21年(51) 鳥島に14人で本格的な上陸。10万羽以上のアホウドリの羽毛をとる。

- 22年(52) 米・ウインケル社と羽毛売買の契約成立。東京の車町に事務所、新富町に倉庫を設ける。
- 25年(55) イギリスの会社とも契約し、東京築地に

本店を置く。

- 26年(56) 妻や子が八丈から東京へ移住。

○29年(59) 京橋区山下町に立派な家を建設。羽毛が値上がり。長者番付に載る。大賀郷に父母の墓を建てた。

○33年(63) 南・北大東島、ラサ島探検。

一月二十三日、総勢22人で南大東島上陸(半右衛門は不参加)。南大東島は断崖で港がなく、民間人でそれまでに上陸した者はなかった。出帆は、前年の十一月下旬で、八丈を出て、沖繩を経由して苦心の末到達した。七月16名、十月にも21名到着。○35年(65) 南大東島で黒糖製造。五月二十八日機械を携えて、半右衛門初上陸。

八月九日、鳥島の半分が吹き飛ぶ大噴火。島民125名全員死亡。翌年八丈島に慰霊碑を建てる。○39年(69) アホウドリが保護鳥となった。約6百万羽を撲殺し、残存数は数十羽とされる。

○43年(73) 鳥島に渡る途中で発病。十一月一日死亡。葬儀には2千人が参集という新聞記事あり。

半右衛門の人となりについて

① 江戸時代の終わりから、横浜や小笠原、台湾などに行き、鳥島や大東島を開拓するなど、進取の気持ちと大胆な発想のできる人だったと思われます。鳥島の開拓は50歳でした。

② 半右衛門夫婦は、文字の読み書きができなかったと

言われています。しかし、沖繩に行くときには、途中で計画的に荷物を請け負って運んだり、団員にお金の無駄使いを戒めるなど、細かい配慮と細心の注意で見通しをもって行動できた人のようです。

③ 半右衛門やその妻は、気が強い面があったようで、鳥島への置き去りのときには、須美が男たちを叱りつけたとも言われています。半右衛門は活動しながら病気を治したという生き方だったとも伝わっています。

④ 明治十三年、自由民権家・松沢求策と出会い、島の改革に勤めましたが、失敗に終わり、島から追われました。そのため、彼についての言い伝えは島に残りませんでした。最近まで生家も不明のままでした。⑤ 南大東島は、玉置村と言われ、学校や医院などを經營し紙幣なども発行していました。小さなコミュニティの独立的立国を目指したのかも知れません。

⑥ 大金持ちでしたが、長男・次男の仲の悪かったようで、現在半右衛門の墓の場所も不明です。



八丈の墓地。
高いのが弟の墓、
その右が父母の墓

(五) 中国の人々に助けられた

八丈の満蒙開拓団と石井団長

世界大恐慌を受け、日本は、経済不況を改善すると

して、昭和六年満州事変を引き起こし、翌年日本が支

配する満州国をつくりました。そして、昭和十一年「満

州農業移民100万人移住計画」がつくられ、満蒙開

拓団が大勢派遣されるようになりました。日本人が耕

作した場所の6割は現地中国人の耕作地を時価の1〜

4割で銃を使ったりして強圧的に買いたいたいもので

あったとされ、根強い反感が残りました。満州国には

国籍制度がなかったので、日本人は日本国籍で、日本

人コロニーを形づくり、その中で完結していたため、

中国人との交流はほとんどなかったのです。

開拓団員は全体で27万人といわれましたが、そのう

ち8万人が亡くなったといわれています。

千葉鴨川から八丈に来た石井房次郎

これらの開拓団の中に、八丈島の人々を中心に組織

された、石井房次郎を団長とする「長嶺八丈満蒙開拓

団」がありました。入植地は牡丹江省長嶺子（満州の

東京城の西35km）で、昭和十八年には、5ヶ村で

148戸・団員211名でした。昭和十六年には先発

隊が派遣され、昭和十七年には、花嫁たち4人が嫁い



でいきました。

団長の石井房次郎は、千葉

県鴨川の生まれ、クリスチャ

ンだったようで、徴兵された

ときに隠して聖書を持つて

いったそうです。家をお姉さ

んに譲って、大正十年ごろ八丈島に父母と一緒に来て、

永郷で炭焼きをしていました。『新青年』という雑誌

に投稿していて「或る事情の為」来島したと書いてい

ます。

その後、神湊の工事現場の事務のような仕事をした

後、三根村役場に採用され（後に、村長代理になる）、

開拓団の団長のときは東京府農林課勤務になっていた

ようです。妻は三根地域の女性でしたが、子どもはい

ませんでした。

昭和四年に昭和天皇が来島されたときに、不動の滝

で木陰から女性3人がシヨメ節を歌いましたが、それ

を企画し歌詞を作ったのも房次郎でした。

満州に渡ってからの石井団長

その時代、日本人は、中国人を差別し見下していま

した。しかし、団長はそういったことは許しませんで

した。また、開拓団は、国旗も掲揚をすることになっ

ていました。普通は、一本の竿に日本の国旗を上にし

て、満州国の国旗を下に掲揚するのですが、団長は竿を2本立てそれぞれの旗を立てていました。中国人のお祭りには、団の庭を開放したりしました。団員も、中国人と日本人でお祝い事があると個人的に付き合ったりもしていました。中国人の葬式があり、薄い板材の棺桶では狼に襲われるのでだめだということで、頼まれて団の厚い板材を渡したりしていました。中国人の人全てを、普通の隣人として対応したのです。

ソ連軍の侵攻と長嶺八丈開拓団

昭和二十年八月九日、開拓団にソ連軍が突然襲いかかってきました。日本の関東軍は、開拓団を楯にしてさっさと逃げ去ってしまいました。しかも、逃げながら橋を壊したため、開拓団は非常に困りました。それに先立って、根こそぎ動員と言って、18歳から45歳の男の人は軍隊に徴兵されたため、開拓団には子どもと女性と高齢の男性だけだったのです。

中国人の村長から知らせを受けた長嶺八丈開拓団は、30kmほど離れた山奥に逃げました。十三日に逃げて、朝鮮人集落で世話になった後、2週間ぐらいの山の中にいました。連れて来た、牛や馬も食べました。他の開拓団では、団の財産を燃やして逃げたりしたのですが、八丈は逆に中国人の村長に倉庫の鍵を預けました。

もうどうしようもないというので、皆で殺される覚

悟で涙の別れをしました。山を下りるときに中国人の人たちが、3日分の炊き出しをしてくれました。収容所に入ったのですが、夏服で満州の冬は越せないで、頼んで元の開拓地に戻してもらい、中国人にお世話してもらって冬を越したので、大きな被害は出ませんでした。八丈の開拓団はまとまって行動していましたが、他の開拓団はみんなバラバラでした。

日本に帰って来からの石井団長

日本に帰って来て、色々と入植地を探しましたが、結局現在の千葉県富里市の御料葉山に落ち着きました。房次郎団長は、一時八丈島に来ていましたが、また、富里に戻ってそこで亡くなりました。

団長は、温厚で、色々な知識もあり、様々なことができましたが、お金の催促をするのは苦手な人だったそうです。

現在、三根の

沖山操さんの家

には、房次郎さんからいただいたモクレンの木があつて、春にはきれいに咲いています。



ふるさとを知る

八丈町教育長 大澤 道明

私たちは、素晴らしい自然と心温かな人々、八丈方言や八丈太鼓などの価値ある八丈町の多彩で豊富な文化に囲まれ、安心・安全な環境の中で毎日過ごしています。おいしい空気、新鮮な食べ物にも恵まれて、ととても幸せなことです。

三・四年生の社会科では、八丈島の様子や人々の仕事、移り変わり、人々のくらしや交通について学習します。

私たちのふるさと八丈島はどんな島なのか、これまでの歴史や文化はどうなっていたのか、そして、この先どのようなに変わっていくのか等をくわしく知ってほしいと思います。そして、今の生活についてもさらに学習を進め、これからの島

のより良い暮らし方についても考えを深めていってほしいです。

今回の改訂では、ページ数を増やし、八丈島に貢献した人々の紹介などの記述を加えました。皆さんの学習にもきつと役立つものと思います。

最後に編集にご協力いただいた委員の方々そして資料を提供していただいた関係諸機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

〔第十二次作成最終委員〕

委員長	三原小学校	記野 邦彦
副委員長	三根小学校	三品 康之
委員	三根小学校	丸山 大貴
	大賀郷小学校	荒川 諒
	三原小学校	宮澤 唯一
	富士中学校	佐々木 究
	教育委員会	林 薫
	教育委員会	茂手木 清